聖徒の道

12
1997

末日聖徒イエス・キリスト教会

1997年12月20日発行（毎月1回20日発行）第41巻第12号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

1997年12月号

聖徒の道

表紙
表紙――「最初の示現」　リズ・レモン画
裏表紙――キリスト降誕の彫刻。写真撮影／クレイグ・ダイモンド；「最初の示現」　ローウェル・ブルース・ベネット画

こどものページ
「ガリラヤで子供たちに話されるキリスト」　デル・パーソン画

一般

2 **大管長会メッセージ――感謝の季節**
大管長ゴードン・B・ヒンクレー

10 **わたしたちの主，救い主**

19 **クリスマスコート**　シェリル・ボイル

20 **聖地の平和**　D・ケリー・オグデン，デビッド・B・ガルブレイス

26 **神権定員会と扶助協会における教科課程の大きな変更**　ドン・L・シール

33 **ジョセフ兄弟への賛辞**

40 **光と命**　ダリン・H・オークス

44 **深い悲しみのさなかにも**　スベインボルグ・グードムンズドッティア

46 **わたしは開拓者**
キャサリン・ラモニーノ・トルプ，ドン・O・トルプ

26ページ参照

青少年

8 **クリスマスの新しい伝統**　ダグラス・プレゼンサ

16 **イエス・キリストの証人**　ダーリン・リスゴー

24 **日曜日はクリスマス**　ロイス・バーソロミュー

定期特別記事

1 **読者からの便り**

25 **家庭訪問メッセージ――「それらが何のために与えられているのかを常に覚えておきなさい」**

こどものページ

2 **「大きな喜び」**

4 **歌　こはわがあいし**　マービン・K・ガードナー，バーニャ・Y・ワトキンス

6 **ちいさなみんなのために――クリスマスの星**　レベッカ・トッド

8 **分かち合いの時間――イエス・キリストのたんじょうをあかしするよげんしゃたち**　カレン・アシュトン

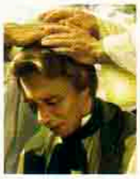
10 **たんけん――デゼレト**　シェリー・ジョンソン

12 **おもちゃばこ――クリスマスのクイズ**
D・A・ストーン

13 **クリスマスの工作――ピカピカ光るクリスマスの絵**　M．H．マーティン

14 **思い出のクリスマスツリー**　ブロイ・リチャーズ

「こどものページ」2ページ参照



33ページ参照

40ページ参照

「こどものページ」4ページ参照

聖徒の道　1997年12月号

本誌は，末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊――イタリア語，英語，オランダ語，サモア語，スウェーデン語，スペイン語，中国語，韓国語，デンマーク語，ドイツ語，トンガ語，日本語，フィンランド語，フランス語，ポルトガル語，ノルウェー語。隔月刊――インドネシア語，タイ語。季刊――チェコ語，ブルガリア語，ハンガリー語，アイスランド語，ロシア語。

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン，ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会：ボイド・K・パッカー，L・トム・ペリー，デビッド・B・ヘイト，ニール・A・マックスウエル，ラッセル・M・ネルソン，ダリン・H・オークス，M・ラッセル・バラード，ジョセフ・B・ワースリン，リチャード・G・スコット，ロバート・D・ヘイルズ，ジェフリー・R・ホランド，ヘンリー・B・アイリング
編集長：ジャック・H・ゴーズリンド
顧問：ジェイ・E・ジェンセン，ジョン・M・マドセン
教科課程管理部責任者
実務部長：ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー
グラフィックスデレクター：アラン・R・ロイボーグ
国際機関誌スタッフ
編集主幹：マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン
編集副主幹：デビッド・ミッチェル，ディエーン・ウォーカー
編集補佐：ジェニファー・グリーン・ウッド
工程管理：メアリーアン・マーティンデール
出版補佐：ベス・デーリー
デザインスタッフ
機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カワサキ
アートディレクター：スコット・バン・カンペン
デザイナー：シェリー・クック
制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ
制作：レジナルド・J・クリステンセン，デニーズ・カービー，マシュー・H・マックスウェル
予約購売スタッフ
ディレクター：ケイ・W・ブリッグズ
配送部長：クリス・クリステンセン
マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

聖徒の道1997年12月号第41巻第12号
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106東京都港区南麻布5-10-30
電話　03-3440-2351
印刷所　株式会社　リック
定価　年間予約／海外予約2,400円（送料共）
半年予約1,200円（送料共）
普通号／大会号200円

Copyright©1997 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan.

英語版承認―1995年9月　翻訳承認―1995年9月　原題―International Magazines December. 1997. Japanese. 97992 300

●定期購読は，「『聖徒の道』予約申し込み用紙」でお申し込みになるか，または現金書留か郵便振替（口座名／末日聖徒イエス・キリスト教会　振替口座番号／00100-6-41512）にて資材管理部配送センターへご送金いただければ，直接郵送いたします。●『聖徒の道』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133東京都江戸川区西小岩5-8-6／末日聖徒イエス・キリスト教会資材管理部配送センター✆03-5668-3391

The *Seito No Michi* (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150-3223. U.S.A. and Canadian subscription price is $14.00 per year. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; changes cannot be maid unless both old address and new one are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P. O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA. Subscription help line: 1-800-453-3860, U.S. ext. 2947; Canada ext. 2031. Credit card orders (Visa, Mastercard, American Express) may be taken by phone. Periodicals postage paid at Salt Lake City, Utah.

POSTMASTER:Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O.Box 26368, Salt Lake City, Utah 84126-0368, U.S.A.

読者からの便り

クリスマスの祈り

昨年のクリスマスの時期，非常に多くのプレゼントを求めてお祈りしている自分に気づきました。でも12月23日の夜に祈ったとき，すばらしい気持ち，言葉では言い表せない喜びを感じました。祈り続けているうちに，その気持ちはますます強くなり，いつの間にかわたしの祈りはすっかり変わっていました。自分のためには何も願わなくなり，周りのすべての人々のために祈っていたのです。さらに，利己的だった自分を赦してくださるよう天父に祈りました。祈り終わったときには1時間が過ぎていました。あんなに御霊を強く感じたのは初めてでした。

この経験から分かったのは，クリスマスは「受ける時ではなく，与える時」だということでした。実際にだれかに何かをあげたわけではありません。しかし後になって分かったのですが，へりくだってささげたわたしの祈りはかなえられていたのです。つまり，その夜わたしが喜びで胸をいっぱいにしながら祈った人々のほとんどに，わたしの願ったものが与えられていたのです。

『リアホナ』（スペイン語版）に感謝しています。購読する家庭に御霊を届けてくれるからです。

アルゼンチン・メンドーサステーク，サンミゲルワード
ポーラ・キャロライナ・マイーラ

LA CANCIÓN DE PAPÁ

クリスマスを楽しむ

1996年12月号の「パパの歌」に感謝しています。その記事にとても感動して涙が止まりませんでした。おかげでクリスマスのひとときを家族と親しく過ごすことがどんなに大切かよく分かりました。

その記事を読みながら，ふと目を閉じて想像してみました。前世での最後の夜，あの姉妹の父親のように天父がわたしを腕に抱いてくださり，天使があの歌を歌っている光景です。毎晩のようにその記事を読みました。そして，いつか天父のもとに帰れるようになるには，正しい行いがどれほど大切かを思い起こすことができました。

プエルトリコ，マヤーゲ
エリザベス・パディーヤ

世界中の家族

数年前からロシアで『リアホナ』を購読しています。このすばらしい機関誌には，全世界の末日聖徒イエス・キリスト教会の家族についての記事が掲載されています。

この教会に入ってから6年たちますが，悩みにぶつかると『リアホナ』に載っていた人々の経験について思い出します。すると安らかな気持ちになり，ほんとうにこの教会に入ってよかったと思い，ほかの教会員に対する感謝の気持ちがわき上がります。この機関誌のおかげで，たとえ多くの試練に遭おうとも，成長することができるのです。

ロシア・ウイボルグ地方部，ユズーニ・パシオロク支部
ニコライ・アパーレン

霊的成長という祝福

わたしはアイボリーコースト（訳注――正式名はコートディボアール共和国）で生まれ，現在この国で伝道中です。毎月『レトワール』（フランス語版。「星」の意）を読む度に霊的成長という祝福を得ています。大管長会メッセージに感謝しています。また遠く離れた国々の兄弟姉妹による感動的な証に感謝しています。これらの記事のおかげでわたしの証は強まり，揺るぎない信仰を培うことができるのです。このすばらしい機関誌を熱心に読むよう皆さんにもお勧めします。

アイボリーコースト・アビジャン伝道部
ブクウェー・サソー

大管長会メッセージ

感謝の季節

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

贈り物の季節，感謝の時がやって来ました。またわたしたちは，感謝の念をもってこの同じ12月に預言者ジョセフ・スミスの誕生を記念します。それは，クリスマスの2日前です。

わたしたちは何と多くの恩恵を彼から受けていることでしょうか。彼の生涯はバーモントで始まり，イリノイで終わりを告げました。しかし，この平凡な誕生と悲劇的な最期との間に起こった出来事には驚くべきものがあります。わたしたちに永遠の父なる神とその復活された御子，主イエス・キリストについての真の知識をもたらしてくれたのは，彼でした。その偉大な示現のわずかな時間の中で，彼は神会の本質について，何世紀にもわたって学識者の評議の場や学者の研究会で論議を戦わせてきたあらゆる人々に勝る知識を得ました。また彼は，神の御子の実在のもう一つの証（あかし）である，あの驚くべき『モルモン書』をわたしたちのもとに届けてくれました。そしてその彼のもとに，神の名により語り，行うための神権と力，賜物（たまもの），権能，そして鍵（かぎ）が，古代においてそれらを所有していた人々からもたらされました。またジョセフは，わたしたちのために教会を組織し，その偉大で神聖な使命を明らかにしてくれました。そして，彼により聖なる神殿の鍵が回復されて，男性も女性も神との永遠の聖約に入り，また死者のための偉大な業を行うことができるようになり，永遠の祝福への道が開かれたのです。

わたしたちは預言者ジョセフについて，神に感謝します。わたしたちに永遠の父なる神とその復活された御子，主イエス・キリストについての真の知識をもたらしてくれたのは，彼でした。

LEFT: DETAIL FROM *THE PROPHET ISAIAH FORETELLS CHRIST'S BIRTH*, BY HARRY ANDERSON. ABOVE: *THE FIRST VISION*, BY DEL PARSON.

神権とみ栄えをもて　鍵を永遠に，彼持つ
古き預言者と共に　主の王国に入らん
（「たたえよ，主の召したまいし」『賛美歌』16番）

ジョセフは主の手にある器でした。この末日の偉大な御業を達成するために，主イエス・キリストの指示の下に働いた僕でした。

わたしたちはジョセフに敬意を表します。彼は末日聖徒イエス・キリスト教会の偉大な預言者でした。そして，今全世界に広がっているこの偉大で力ある業の先駆けとなりました。彼はわたしたちの預言者であり，啓示者であり，聖見者であり，友でもあります。彼を忘れないようにしましょう。クリスマスを祝うとき，預言者ジョセフのことがどこかに忘れ去られることのないようにしようではありませんか。わたしたちは預言者ジョセフについて，神に感謝します。

さて，クリスマスは何とすばらしい季節でしょう。世界中のキリスト教徒が，たとえわたしたちと理解の仕方が異なっていても，手を休めて神の子の誕生に感謝の思いを寄せるのです。

フィリップス・ブルックスの詩を引用してみましょう。

どこでも，どこでも，こよいはクリスマス
もみの木や松の木の国でも
やしの木やつるが伸びる国でも
荘厳に白くそびえる雪の頂でも
さんさんと日の光が降り注ぐとうもろこし畑でも……
どこでも，どこでも，こよいはクリスマス
みどりごキリストは万物の主
主が来られるのに大きすぎる宮殿はなく
小さすぎる小屋もない
（"Christmas Everywhere" *Best-Loved Poems of the LDS People*「どこでも，クリスマス」『末日聖徒愛唱詩集』ジャック・M・リオン他編，30）

わたしたちはこのような精神で，イエス・キリストの福音の粋である愛をもって人々に手を差し伸べます。わたしたち末日聖徒は，愛と信仰で一つに結ばれた大勢の人々の集まりです。わたしたちは民として，あるいは個人として，大きな祝福を受けています。主イエス・キリストが神から使命を託されていたことについて，心に堅固で揺るぎない証を抱いているのです。イエスは旧約の時代の偉大なエホバであり，御父の指示の下に万物を創造された創造主です。「できたもののうち，一つとしてこれによらないものはなかった。」（ヨハネ1：3）イエスは癒しの翼を持っておいでになる約束のメシヤです。イエスは数々の奇跡を行われた御方，偉大な医師，そしてよみがえりであり，命です。イエスは，天の下でわたしたちが救いを得られる唯一の名です。

イエスは初めに御父と一緒におられました。そして肉体を得，わたしたちとともに住まわれたのです。「わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって，めぐみとまこととに満ちていた。」（ヨハネ1：14）

イエスは御自身を受け入れた人々，すなわち「その名を信じた人々には」神の息子，娘となる力をお与えになりました（ヨハネ1：12）。

イエスは永遠の御父の贈り物としてこの世に来られました。「神はそのひとり子を賜わったほどに，この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで，永遠の命を得るためである。」（ヨハネ3：16）

主は天の王座から身を低くして地上に降りて来られ，征服された国の馬屋の中で誕生されました。そしてパレスチナのほこりだらけの道を歩み，病人を癒し，教義を教え，受け入れるすべての人に祝福をお与えになりました。

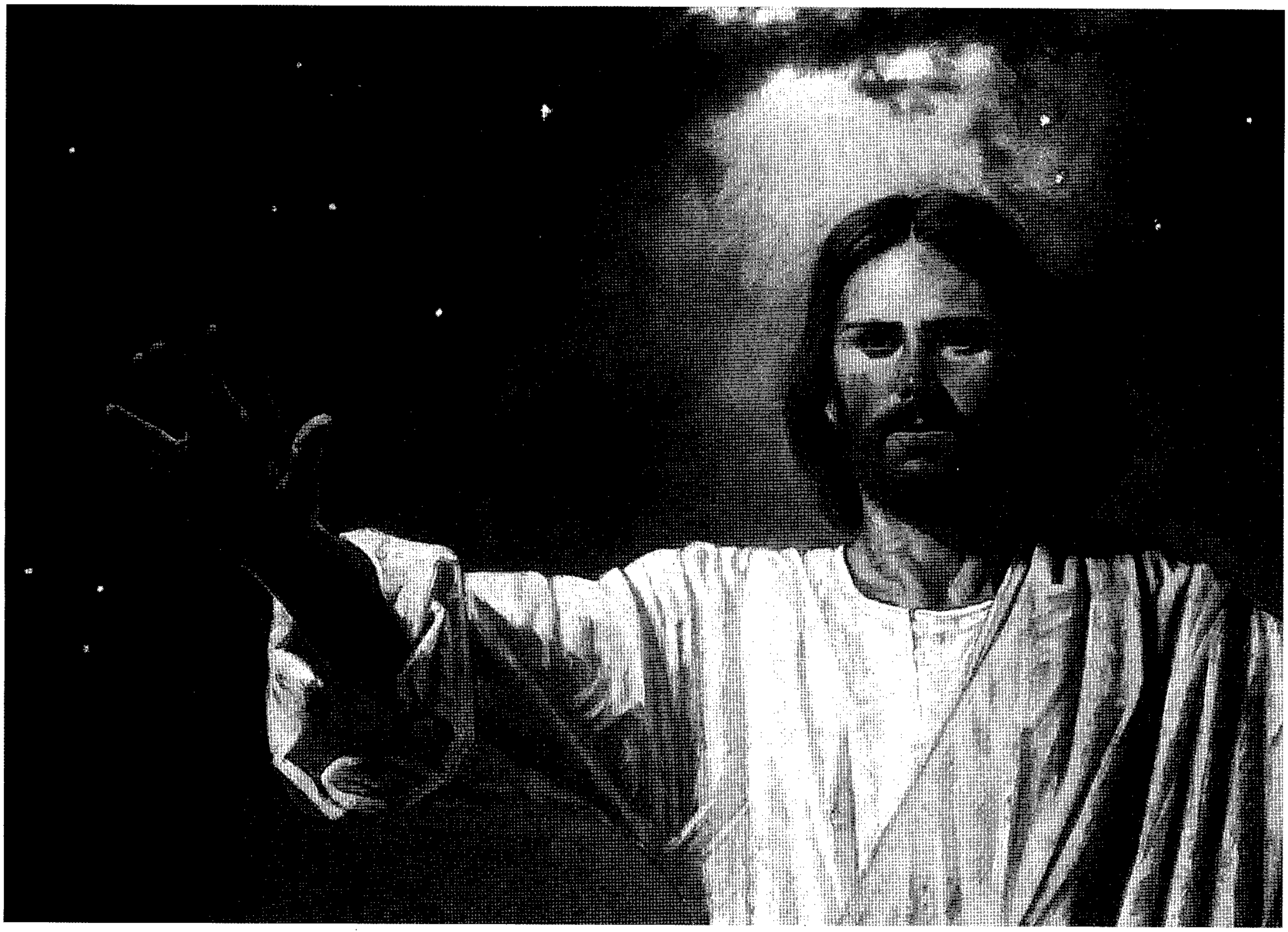
主が来られたのは「〔この〕世をさばくためではなく」，御自身によって「この世が救われる」ためでした（ヨハネ3：17）。

少し前のことですが，わたしたちは主が歩まれた地を歩みました。羊飼いの野，ベツレヘム，ナザレ，カナ，ガリラヤ，エルサレム，ゲツセマネ，ゴルゴタ，空になった墓です。そして，イエスと呼ばれた御方の威光と驚異とを肌で感じることができました。

主はわたしたちに，神に関して驚くべきことを教えてくださいました。そして，耳を傾ける人々の理解の目を開けてくださいました。主は律法の成就であり，その犠牲は後のほかのあらゆる犠牲に勝るものでした。

「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた，ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり，その名は，『霊妙なる議士，大能の神，とこしえの父，平和の君』ととなえられる。」（イザヤ9：6）

「エッサイの株から一つの芽が出，その根から一つの


DETAIL FROM CHRIST CREATING THE EARTH, BY ROBERT T. BARRETT

イエスは旧約の時代の偉大なエホバであり，御父の指示の下に万物を創造された創造主です。「できたもののうち，一つとしてこれによらないものはなかった。」（ヨハネ1：3）

若枝が生えて実を結び，

その上に主の霊がとどまる。これは知恵と悟りの霊，深慮と才能の霊，主を知る知識と主を恐れる霊である。

彼は主を恐れることを楽しみとし，その目の見るところによって，さばきをなさず，その耳の聞くところによって，定めをなさず，

正義をもって貧しい者をさばき，公平をもって国のうちの柔和な者のために定めをなし，その口のむちをもって国を撃ち，そのくちびるの息をもって悪しき者を殺す。

正義はその腰の帯となり，忠信はその身の帯となる。」（イザヤ11：1－5）

カルバリの丘で，主はわたしたち一人一人のために命をささげられました。「死よ，おまえの勝利は，どこにあるのか。死よ，おまえのとげは，どこにあるのか。」（1コリント15：55）

わたしたちは主の誕生に敬意を表します。しかし死がなければ，主の誕生は何の変哲もない誕生だったことでしょう。主がゲツセマネの園で，またカルバリの十字架の上で行われたのは，贖（あがな）いの業でした。これにより主の贈り物は，決して朽ちることのない，普遍の，永遠の贈り物となったのです。それこそが全人類の罪への偉大な贖いです。主はよみがえりであり，命でした。「キリストは眠っている者の初穂として，死人の中からよみがえった」のでした（1コリント15：20）。主によりすべての人が墓からよみがえるのです。

しかし主は，贖いと復活以上のことを教えてくださいました。それは道と真理と命です。不死不滅と永遠の命に至る鍵（かぎ）を与えてくださったのです。

わたしたちは主を愛しています。主を尊敬しています。主に感謝しています。主を礼拝しています。主はわたしたち一人一人と全人類のために，ほかのだれもがなし得ないことをしてくださいました。愛する御子，救い主，世の贖い主，全人類の犠牲としてささげられた傷のない小羊をわたしたちのために授けてくださった神に，感謝いたします。

また，この時満ちる神権時代にあって，主の業であるこの回復の業を導かれたのは，主でした。この教会は，主の名を冠する主の教会です。

もろびと，こぞりて　迎えまつれ
久しく待ちにし
主は来ませり　主は来ませり　主は，主は来ませり
（「もろびと，こぞりて」『賛美歌』116番）

クリスマスはツリーやクリスマスライト以上のものです。おもちゃや贈り物や数々の飾り以上のものです。クリスマスは愛です。全人類への神の御子の愛です。その愛は，わたしたちの理解力を超えてあまねく広がります。力強く美しい愛です。

クリスマスは平安です。受け入れるすべての人に慰めと助けと祝福を与えてくれる平安です。

クリスマスは信仰です。神とその永遠の御子への信仰です。神の驚くべき業とメッセージへの信仰です。わたしたちの贖い主であられる主を信じる信仰です。

わたしたちは主が現実に生きておられることを証します。主が神としての特質を備えた御方であられることを証します。感謝の心で深く思いを巡らすこの季節に，わたしたちは主のわたしたちへの贈り物が値をつけられないほど貴重なものであることを悟り，主への愛と信仰を誓うのです。これがほんとうのクリスマスの意味です。

皆さん一人一人にわたしたちからの愛と祝福をお送りします。世界中のどこにおられても，すてきなクリスマスをお迎えになりますように。家庭に平安と愛と思いやりがありますように。夫である皆さんは，奥さんに対して愛のほほえみを投げかけられますように。妻である皆さんは，愛され，敬われ，大切にされることのすばらしい喜びを知ることができますように。また，皆さんの子供たちが幸福で，クリスマスの精神という言葉に表せないすばらしい魔法に魅了されますように。独身の方々は，自分は独りではないこと，イエスが友としていつもそばにいてくださることに気づき，その喜びを味わえますように。主が来られたのは，「暗黒と死の陰とに住む者を照し，わたしたちの足を平和の道に導く」ためなのです（ルカ1：79）。

どうぞ幸福ですてきなクリスマスをお迎えください。わたしたちは皆さんに祝福を残したいと思います。それは，皆さんが幸福になるように，とのクリスマスのメッセージです。たとえ悲しみに打ちひしがれている方でも，わたしたちに慰めと確信を与えてくださる唯一の御方からの癒しを受けて，再び立ち上がれますように。「あなたがたは，心を騒がせないがよい。神を信じ，またわたしを信じなさい。」（ヨハネ14：1）

主は深い苦しみの中でこう言われました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは，世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな，またおじけるな。」（ヨハネ14：27）

この大いなる約束と贈り物を受けて，わたしたち一人一人が祝福されたクリスマスの季節を迎えることができますように。□

わたしたちは主の誕生に敬意を表します。しかし死がなければ，主の誕生は何の変哲もない誕生だったことでしょう。主はよみがえりであり，命でした。主によりすべての人が墓からよみがえるのです。

ホームティーチャーへの提案

1. クリスマスの季節にあっても，12月に誕生したこの神権時代の偉大な預言者ジョセフ・スミスのことを忘れないようにしましょう。この預言者を送ってくださった神に感謝しましょう。

2. この季節，世界中のキリスト教徒が手を休めて神の御子の誕生に感謝の思いを寄せます。イエスは旧約の時代の偉大なエホバであり，御父の指示の下に万物を創造された創造主です。イエスは約束のメシヤであり，その名は天の下でわたしたちが救いを得られる唯一の名です。

3. わたしたちは主の誕生に敬意を表します。しかし死がなければ，主の誕生は何の変哲もない誕生だったことでしょう。イエスは道と真理と命を教えられました。イエスは不死不滅と永遠の命に至る門です。

4. クリスマスは，ツリーやクリスマスライト以上のものです。クリスマスは愛，全人類への神の御子の愛です。クリスマスは平安，受け入れるすべての人に慰めと助けと祝福を与えてくれる平安です。クリスマスは信仰，神とその永遠の御子への信仰です。

JOHN AND PETER AT THE TOMB, BY ROBERT T. BARRETT

クリスマスの新しい伝統

ダグラス・プレゼンサ

1995年のクリスマスシーズンを迎え，新しいクリスマスの伝統を作ろうと家族で話し合いました。当時わたしは13歳でした。ブラジルのアマゾナス州マナウスに住んでいたわたしたちは，自分たちの家の周りで何かできないものかと，長い間ずっと考え続けました。けれどもクリスマスがどんどん近づいているというのに，まだ何も実行に移せずにいました。

その年のクリスマスイブは日曜日に当たっており，母はいつものようにローストチキンの支度をしていました。ローストチキンを食べずに，日曜日らしい気分になることは決してありませんでした。母はこの特別な日曜日のためにいつもより1羽多く，3羽分のローストチキンを用意しました。そして，余分に料理したその1羽分をアルミフォイルで包んで袋に入れました。それから，売るために作っておいた300個のケーキの中から，一つを取り出しました。

「これはプレゼントなのよ」と母が言いました。「だれにあげるか分かる？」

わたしたちは友達，近所の人，ワードの会員の名前を挙げましたが，プレゼントの相手を言い当てることはできませんでした。

「バネルにあげるのよ。」母はそう答えました。

わたしたちは黙り込んでしまいました。バネルは，わたしと同年代の少年で，質素で小さな家におばあさんと一緒に住んでいました。バネルは町で，みんなから恐れられる存在でした。鍵のかかっていない車に乗り込んだり，わたしたちの友達の財布を盗んで，その中の書類を破いたりしました。犬に石を投げたり，遊んでいる子供たちを脅したりもするのです。近隣の人々は，「バネルに町をぶらつかせないでください」という苦情の手紙を書いて家に送りつけようと考えていたほどでした。

驚きはしたものの，わたしたちは気を取り直すと母の考えに賛成しました。父と8歳の弟，そしてわたしがローストチキンとケーキを持ってバネルを訪問することになりました。わたしたちが訪ねて行くと，バネルはちょうど家にいて，玄関に出て来ました。

バネルは不審に思っている様子でした。わたしたちが，何か苦情を言いに来たのでは，と思ったようです。「何だよ，何なんだよ。」彼は何度も尋ねてきました。

父はただほほえんで，バネルに包みを渡しました。バネルはとても驚いて，「これをおれに？」と尋ねました。バネルの表情が変わり，人なつっこく，丁寧な態度になりました。そしてわたしたちからのプレゼントをとても喜んでくれました。

その日から，バネルは近所の子供たちを困らせなくなりました。時には，子供たちと遊んであげることさえあります。町で近所の人に会うと，にっこり笑って話しかけるようになりました。

わたしたち家族はその日，とても大切なことを学びました。たとえささやかなことであっても，友情を示すことには，人を変える力があり，バネルのように手がつけられないような感じの人にさえ，影響を及ぼせるのだということを知ったのです。

以来，わたしたちは一つの習慣を身に付け始めました。それは，愛と親切を何より必要としている人々に対してそれを示すための時間を取る，ということです。わたしたちは，これが単なるクリスマスの伝統以上のものとなることを願っています。□

ILLUSTRATED BY ROBERT A. MCKAY

わたしたちの主，救い主

預言者は皆，神が生きておられ，その独り子がわたしたちの主であり救い主であられると証(あかし)してきました。それはアダムの偉大なる信仰に始まり，イザヤの美しく詩的な言葉，預言者ジョセフ・スミスの簡潔な力を持った証に受け継がれ，そして現代の預言者へと至っています。イエス・キリストの誕生を祝うこのクリスマスの季節に，わたしたちがキリストの特別な証人として支持する人々が改めて述べる証，すなわち，イエスが救い主であられイエスを通してわたしたちは永遠の命を見いだせるという証に耳を傾けることには特別な価値があります。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

「たとえ死の冷酷な手に打たれても，そこには悲しみと暗闇(くらやみ)のときに光を注ぐ主イエス・キリスト，神の御子の勝利の姿があります。主はたぐいない永遠の力で死に打ち勝たれました。キリストは世の贖(あがな)い主です。わたしたち一人一人のためにその命をささげられました。しかし主は再び命を取り戻し，眠っている者の初穂となられたのです。キリストは王の王として，すべての王の上に君臨しておられます。また，全能者としてすべての統治者の上に君臨しておられます。主はわたしたちの慰めです。…

…わたしたちを取り囲む，この世の夜の闇のとばりに対する真の慰めであります。

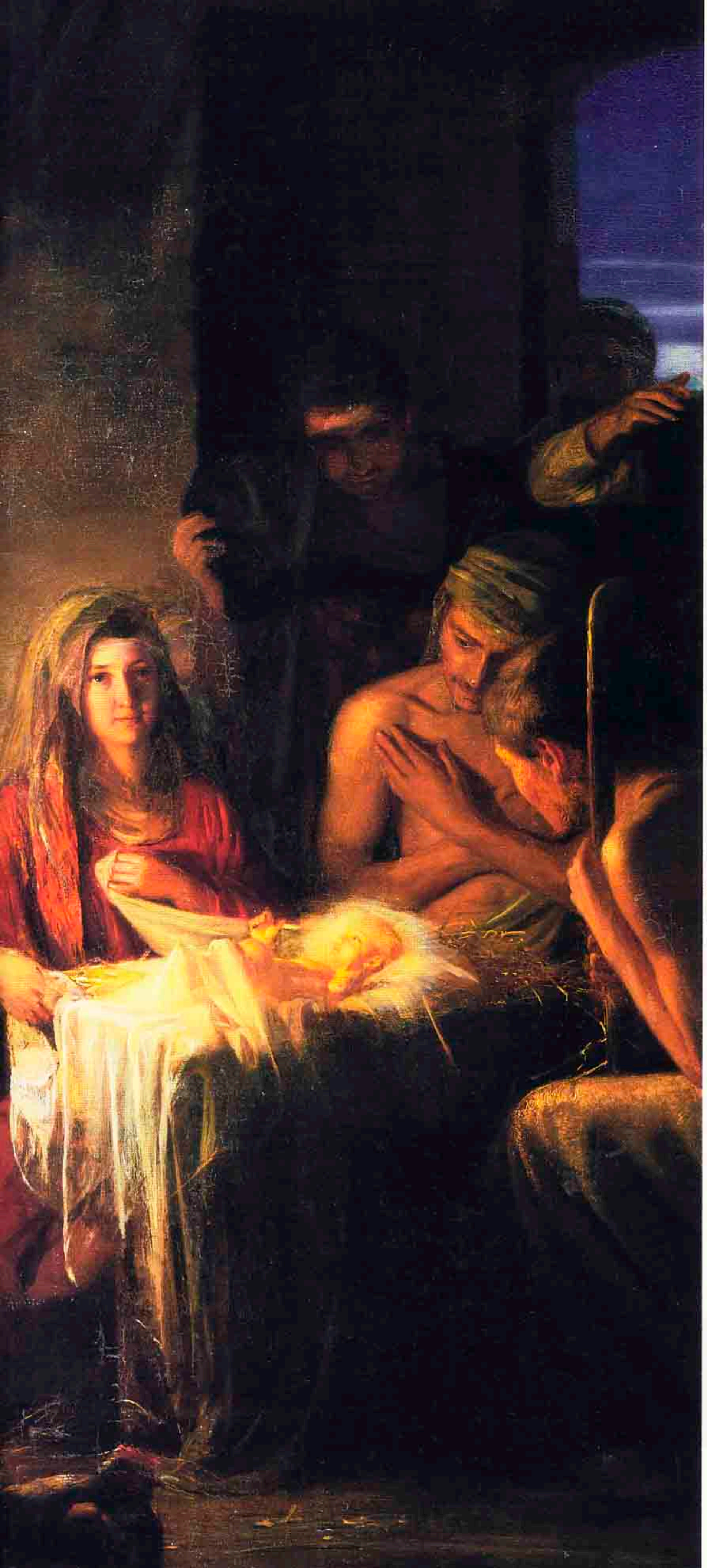
栄光の王，汚れのないメシヤ，主インマヌエルであられるイエス・キリストは，いかなる人も及びもつかない御方です。……

この御方はわたしたちの王，主，教師，生けるキリストであり，御父の右手に立たれる御方です。キリストは生きていらっしゃいます。真実，生きていらっしゃいます。栄光に満ちた，驚嘆すべき生ける神の生ける御子です。」（「栄えあるイースターの朝に」『聖徒の道』1996年7月号，77）

トーマス・S・モンソン第一副管長

「ベツレヘムにみどりごが誕生すると同時に，大いなる賜物(たまもの)がもたらされました。武器よりもはるかに力ある権能が，また，カエサルの硬貨よりもはるかに永続する宝がもたらされたのです。この幼子(おさなご)は，王の王，主の主，約束のメシヤ，すなわ

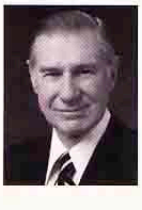
LEFT: CHRIST CALLING PETER AND ANDREW, BY JAMES TAYLOR HARWOOD. *RIGHT: THE BIRTH OF JESUS*, BY CARL HEINRICH BLOCH. ORIGINAL AT THE CHAPEL OF FREDRIKSBORG CASTLE, DENMARK. USED BY PERMISSION OF THE FREDRIKSBORG MUSEUM.



ちイエス・キリストであり，神の御子となる御方でした。馬屋に生まれ，かいばおけに寝かされたこの幼子は，肉体を持つ人間としてこの地上で生活するために天から降臨され，神の王国を設立されたのでした。この地上で教導の業を進められる間に，人に高度な律法をお授けになりました。その栄光に満ちた福音は，世界の人々の考え方に新しい命を吹き込みました。病気の人を祝福し，歩けない人を歩けるようにし，目の見えない人を見えるようにし，耳の聞こえない人を聞こえるようにしました。また，死者をよみがえらせることすらなさったのです。……

主の伝道，人々の間で行われた教導の業，真理の教え，慈悲に満ちた行い，わたしたちに対する不変の愛について考えるとき，わたしたちの心は感謝の念で満たされ，心が熱くなります。世の救い主であるイエス・キリストは，神の御子であり，昔も今も，究極の開拓者です。イエスが人々に先立って行かれ，ほかのすべての人たちに従うべき道を示されたからです。」（「道を示してくれた人々」『聖徒の道』1997年7月号，63－64）

ジェームズ・E・ファウスト第二副管長



「贖いと復活が起こりました。主なる救い主は，ゲツセマネであの恐るべき苦しみを受けられました。主は十字架につけられ，そして死の縄目を断ち切ることにより，究極の犠牲を払ってくださいました。

わたしたちは皆，贖いと復活というこの上ない祝福にあずかります。その力によって，わたしたちの生活の中で癒しが起きるのです。苦しみは，救い

主が約束された喜びに変わります。イエスは，疑いの心を持ったトマスに，『信じない者にならないで，信じる者になりなさい』と言われました〔ヨハネ20：27〕。……

主イエス・キリストにより偉大な贖いの犠牲がささげられ，死の縄目が解かれること，そしてそれは人の涙をぬぐってくれることを証します。わたしにはこのことについて証があります。それは，神の聖霊によってもたらされたのです。」(「女よ，なぜ泣いているのか」『聖徒の道』1997年1月号，62，65)

ボイド・K・パッカー十二使徒定員会会長代理

「主のこの自発的な行いにより，正義と憐れみは和解を見，永遠の律法は全うされ，仲保により死すべき人間は贖いを受けられるようになりました。

主は御自身の選びによって全人類の罰をその身に引き受けられました。それは全人類の悪と堕落がもたらしたものであり，残虐と不道徳，倒錯，退廃の産物であり，耽溺と殺戮，苦痛，恐怖の結果であり，過去から未来に至るまでこの地上に存在するあらゆる罪がもたらした罰なのです。」(「贖罪」『聖徒の道』1988年6月号，72)

L・トム・ペリー長老

「時の始めから，わたしたちのために計画が備えられました。救いの計画の中心となるのは，わたしたちの救い主イエス・キリストです。全人類のための贖いの犠牲は，この地上における天父の子供たちの歴史上重大な出来事です。神の計画を受け入れる人は，救い主の使命を受け入れ，わたしたちのために定められた計画の律法を守ると聖約します。」(「主の晩餐の聖餐」『聖徒の道』1996年7月号，65)

デビッド・B・ヘイト長老

1989年，ヘイト長老は危篤状態となり，緊急入院しました。同年10月に行われた総大会の席でヘイト長老は，意識不明の状態にあった入院当初，自分が「静かで平安に満ちた場所にい〔て〕遠くの丘の中腹に二人の御方が見え」たと語りました。

「声は聞こえませんでしたが，聖なる場所で聖なる御方の前にいるのを感じました。それからの数時間，そして数日間，わたしの心に何度も繰り返し，人の子の永遠の使命と昇栄された姿とが刻み込まれたのです。その御方は確かにキリスト・イエスであり，神の御子，万物の救い主，全人類の贖い主，すなわち永遠の愛と憐れみと赦しを授ける御方，世の光であり世の命です。わたしはこの真理をすでに知っていて，疑ったことはありませんでした。しかし今や，わたしの全身全霊に御霊が注がれて，実に不思議な方法でこの神聖な真理を悟ったのです。」(「聖餐――主の犠牲」『聖徒の道』1990年1月号，57)

ニール・A・マックスウェル長老

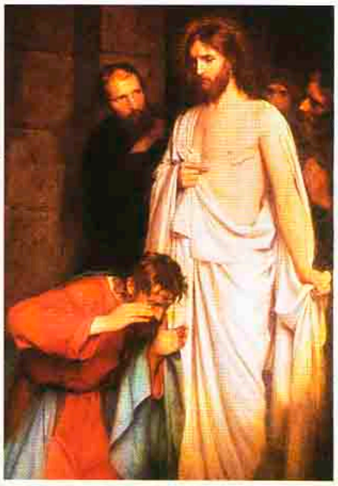
「アルマの記録によれば，イエスはわたしたちの苦痛と病をすでにその身に受けられたので，そのような苦難の中にいるわたしたちを救う方法を明確に知っていらっしゃいます（アルマ7：11－12参照）。主は御自分で経験してそれを知り，憐れみを得られました。わたしたちはもちろん，そのことを完全には理解できません。主がこの世のすべての罪をどのように負われたかを完全には理解できないのと同様です。しかし，主が贖いという手段によって確かにわたしたちを救われたことを知り，わたしたちは安心するのです。

イエスが主権と力を帯びて再び来られるとき，主をたたえるあらゆる事柄の中で，特に主の『愛にあふれた優しさ』と『慈しみ』とをたたえることに，何の不思議があるでしょうか。しかもわたしたちは，永遠にわたって主をほめたたえ続けます……。」(「愛の神，賛めよ」『聖徒の道』1997年7月号，13)

ラッセル・M・ネルソン長老

「わたしはそのすべての意味について深く考えると，喜びに涙します。贖罪を受けるとは，贖われて，神にしっかりと抱かれ，主の赦しを受けるだけでなく，心も思いも神と一つになることなのです。何という特権でしょう。また，死という門を通してすでに愛する人を家族のきずなから失った人にとって，何という慰めでしょうか。……

『全世界におけるキリストの名の特別な証人』〔教義と聖約107：23〕の一人として，わたしは，イエスが生ける神の御子であられると証します。イエスはキリストであり，わたしたちの救い主，贖い主です。これは主の教会であり，神の子供たちを祝福し，主の再臨に世の人々を備えるために回復され

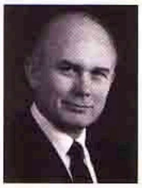


THE DOUBTFUL THOMAS, BY CARL HEINRICH BLOCH/SUPERSTOCK

イエスは，疑いの心を持ったトマスに，「信じない者にならないで，信じる者になりなさい」と言われました（ヨハネ20：27）。

ました。」（「贖い」『聖徒の道』1997年1月号，40－41）

ダリン・H・オークス長老



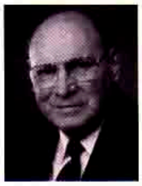
「わたしたちの創り主，贖い主は教師でもあられます。主はどう生きるかを教え，戒めを与えてくださいました。わたしたちはそれに従えばこの世では恵みと幸福を得，来るべき世では永遠の命を受けるのです。

このように，わたしたちに肉体を与え，幸福な生活への道を示し，わたしたちの罪を贖うことにより不死不滅と永遠の命を得られるようにしてくださった御方のことを，わたしたちは忘れてはならないのです。」（「常に忘れず」『聖徒の道』1988年6月号，31）

M・ラッセル・バラード長老

「わたしは……こう考えました。主イエス・キリストによる神の家族の救いという，最大の救助活動が持つ永遠の意義を完全に理解できたら，どれほど大きな喜びに満たされるだろう〔と〕。わたしたちに永遠の命を約束されたのは，ほかならぬ主です。主イエス・キリストを信じる信仰は，皆さんにとってもわたしにとっても，旅について何も恐れる必要はないという確信を与えてくれる霊的な力の源です。わたしは主イエス・キリストが生きておられることを知っています。主に対する揺るがぬ信仰を持つなら，生涯にわたって安全な旅を続けることができます。」（「旅について何も恐れる必要はない」『聖徒の道』1997年7月号，70）

ジョセフ・B・ワースリン長老



「イエス〔は〕わたしたちの天の御父の霊における初子であり，また同時に，肉体における神の独り子であられ……ます。イエスは，神であられ，神会を構成する御三方のうちの御一人です。また，人類の救い主であり，贖い主でもあられます。わたしたち全員が参加していた前世の会議のとき，イエスは，御父がその子供たちのために用意された偉大な幸福の計画を受け入れられ，その計画を実行に移すために，御父によって選ばれたのです。イエスは，サタンとその軍勢に対抗するために，良い霊の軍勢を指揮して，人の救いのために戦われました。その戦いは，この世界が形造られる以前に始まったものです。その戦いは今でも続いています。わたしたちは，その戦いのとき，皆イエスの側についていました。わたしたちは今なおイエスの側についています。」（「信仰にも行いにもクリスチャンである」『聖徒の道』1997年1月号，80）

リチャード・G・スコット長老

「イエス・キリストは，天父のほかの子供が持ち得ない『功徳』を有しておられました。ベツレヘムに誕生する前に，神，エホバであられました。イエスは，愛にあふれる御父から霊の体を受けただけでなく，肉における神の独り子となられました。わたしたちの主は，罪のない完全な生活を送られたので，正義の要求からまったく自由でした。主は愛，思いやり，忍耐，従順，赦し，謙遜など，あらゆる属性において完全な御方でした。今もそうです。主の憐れみは，わたしたちが悔い改めて主に従うとき，正義の求める負債を払ってくれます。わたしたちは，たとえ全力を尽くしても，自分を救えません。『わたしたちが最善を尽くした後……救われる』のは，神の恵みによるのです。」（「贖い主イエス・キリスト」『聖徒の道』1997年7月号，65）

ロバート・D・ヘイルズ長老

「神が生きておられ，イエスがキリストであり，わたしたちは復活して父なる神と御子イエス・キリストのみもとで暮らすことができるという教義を知り，理解していれば，どのような悲惨な出来事にも耐えられます。この教義は，それを知らないために暗く陰うつな世界に，明るい希望をもたらします。また，人はどこから来て，なぜここにおり，どこへ行くのかという素朴な質問に答えてくれます。これらの真理は，家庭で教え，実践されなければなりません。

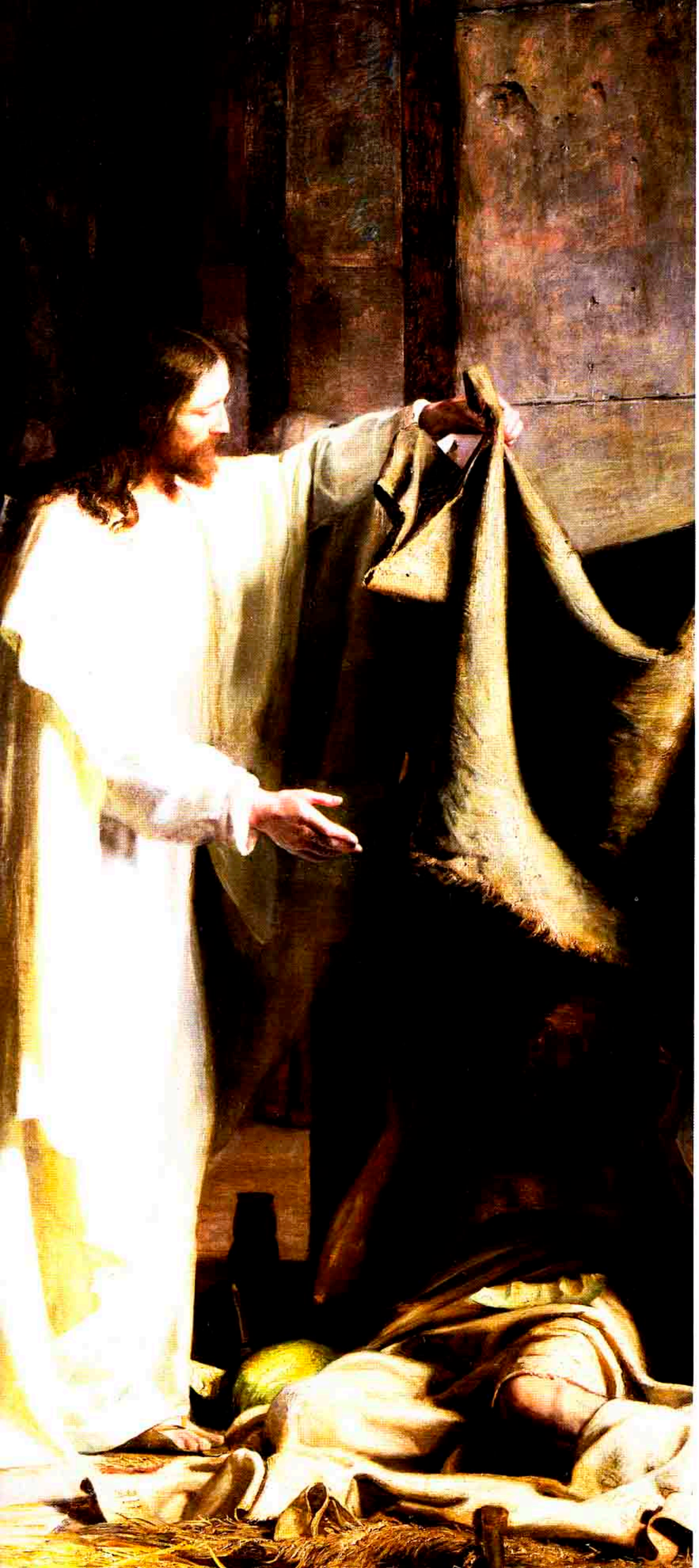
神は生きておられ，イエスはキリストです。その贖罪によって，全人類が復活できるようになりました。それは単に個人を対象とした祝福ではありません。それ以上のものです。一人一人に対する祝福であると同時に，家族に対する祝福です。」（「永遠の家族」『聖徒の道』1997年1月号，75）

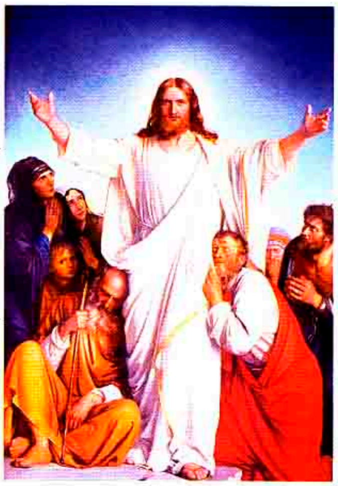
ジェフリー・R・ホランド長老

「人生にはある程度の恐れや失敗が付きものです。物事が思ったようにうまくいかないことがよくあります。公私にわたりもうこれ以上進む力が自分にはないように思われることもあります。時として，人々がわたしたちの期待を裏切ったり，経済状況などの周りの事情がわたしたちを窮地に追い込んだり，困難や悲しみのために大きな孤独感に襲われることもあります。」（「彼らを最後まで愛し通された」『聖徒の道』1990年1月号，26）

ヘンリー・B・アイリング長老

「天父の愛する御子であり，わたしたちの救い主であるイエス・キリストはわたしたちの罪と，わたしたちがこれから出会うすべて





CHRIST THE CONSOLATOR, BY CARL HEINRICH BLOCH/SUPERSTOCK

「すべて重荷を負うて苦労している者は，わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」(マタイ11：28)

の人々の罪のために苦しみを受け，代価を払ってくださいました。主はすべての人の気持ち，苦しみ，試練，必要としていることを完全に理解しておられます。……

わたしは，イエスがキリストであり，よみがえられた主であり，御父の仲保者であることを使徒ペテロ，ヤコブ，ヨハネと同じように確かに知っていることを感謝しています。天父は聖なる森において少年ジョセフ・スミスに復活された主を紹介するに当たって，愛する御子の直接の証人になられました。」(「神の証人」『聖徒の道』1997年1月号，38) □

イエス・キリストの証人

ダーリン・リスゴー

DETAIL FROM *THE CHRISTUS*, BY BERTEL THORVALDSEN; PHOTOGRAPHY BY MAREN E. MECHAM

末日聖徒として，「いつでも，どのようなことについても，どのような所にいても，〔キリスト〕の証人になる」（モーサヤ18：9）という責任があります。それはどこに行くときでも，何をしているときでも，高い標準を保ちつつ，ほかの人に模範を示すよう求められているということです。キリストの歩まれた道を歩むことは容易なことではありませんが，できないことはありません。もしあなたがそのようにするならば，ほかの人々もあなたの模範に従うことでしょう。努力する際に，以下の提案を役立ててください。

行　動

■ 困難な状況に置かれたときや，どうすればよいか迷ったときは，このように自問してください。「イエスはわたしにどうしてほしいと望んでおられるのだろうか。」そしてその答えのとおりに行動してください。

■ 自分の信念を擁護してください。たとえそれが一般的なものでなくてもです。それは，早く家に帰ったり，ある種のパーティーには行かなかったりすることかもしれんません。しかし正しい人たちはあなたに対して，その信念ゆえに敬意を払うことでしょう。また，思いがけず伝道の機会になるかもしれません。

■ 機会があれば必ず福音を分かち合ってください。しかるべき機会を求めるときには，導きを求めて祈ってください。聖霊はいつがその時なのか知らせてくださるでしょう。

■ 友達を若い男性や若い女性の活動，教会の集会，家庭の夕べに招待してください。そして思いやりをもって，礼儀正しくあなたの招待客をもてなしてください。

■ 自分の信条を行動に表してください。言葉を換えて言えば，福音を実践するということです。つまり，キリストの証人となるためのいちばん良い方法は，キリストのようになることなのです。

■ 喜んで，明るく，そして頻繁に奉仕をしてください。奉仕と言っても，だれかのためにドアを開けてあげたり，だれかの用事をやってあげたりするなど，簡単なことでいいのです。頼まれなくても奉仕しましょう。

■ たとえ少しの時間でも，聖文を毎日読んで研究しましょう。読むのをすぐ忘れてしまうのならば，思い出させてくれるものを目のつく所に置いておきましょう。聖文を読むならば，もっと御霊（みたま）を感じることができ，標準を保つのがもっと容易になるでしょう。そして友達から福音について質問されたときは，きちんと答える準備が整っていることでしょう。

■ 知恵の言葉を守ってください。友達から理由を尋ねられたら，言い訳をしないでください。むしろ信じていることを話す良い機会としてください。

■ 言葉遣いに気をつけてください。低俗な言葉や神を冒瀆（ぼうとく）する言葉を使うならば，ほかに何を言ったとしてもあなたを低めてしまいます。決してほかの人々はよく思わないでしょう。

■ 安息日を聖（きよ）く保ってください。教会に行くことを何より優先してください。仕事やレクリエーション活動を避けましょう。

■ 証（あかし）を述べるべきだという促しを感じたときは，それが教会にいるときであろうと，友達と静かな時間を過ごしているときであろうと，証を述べてください。証は必ずしもかしこまった形で述べる必要もなければ，アーメンと最後に言わなければならないものでもありません。

■ 人に仕えるとき，2マイルの精神を持ってください。

そうすれば，自分自身とその行動についてこの上ないよい気持ちを感じられるでしょう。

■ 教会で責任を受けていれば，それを果たすときに全力を尽くしてください。そしてどんな責任であっても，楽しく果たしてください。重要な責任に思えないかもしれませんが，奉仕には変わりはありません。あなたを当てにしている人がいるのです。

態　度

■ 明るい態度を持ちましょう。悪いことは起きてしまいます。しかし肯定的な態度を持つことはできます。あらゆる状況の中で良い面を探してください。もしいつも朗らかで楽天的であれば，周りの人々はあなたのような態度を持てるように努力することでしょう。

■ 良き友人，隣人であってください。周りの人々に対して忠実で，信頼されるにふさわしく，励ましを与え，哀れみ深くあってください。救い主があなたにどのような友人になってほしいと思われているかを考え，そのような友人になってください。

■ 友達と福音について話し合うとき，大胆になることはよいことですが，威圧的になってはいけません。

■ 自分の信条を恥じないでください。また，ほかの人がどう思うか心配しないでください（ローマ1：16参照）。あなたの光を輝かせてください。もしだれかが教会について尋ねてきたら，自信をもって語りましょう。恥じ入る必要などありません。

■ どのようなゲームに参加するときも，対戦相手への思いやりを持ちましょう。もし負けても気にかけないでください。勝ってもおごらないでください。

■ もしだれかに気分を害されるようなことがあったなら，もう片方の頰（ほお）も向けてください。気持ちを落ち着けて，赦（ゆる）しましょう。そしてお返しには，何か親切なことをしてあげてみてください。思いがけない結果が得られるでしょう。

■ 正直であってください。どんな状況下においても真実を述べるという決心を，前もってしてください。

■ 自分の業績，服装，成績，友達，そのほか自慢したくなるような事柄については謙遜（けんそん）な態度を持ってください。称賛の言葉を求めるより，むしろ人に与えるよう努めましょう。そうすれば，人々が自分自身に対してよい気持ちを抱くうえで助けとなるでしょう。

■ 教会の中でも外でも，敬虔（けいけん）であってください。日曜日には，話し手や教師の言葉に静かに耳を傾けましょう。そのほかの状況では，笑いや冗談が度を超えないようにしましょう。

外　見

■ 慎ましく，清潔な装いをしてください。キリストの証人として見られるようにしてください。

■ 常に身だしなみが整っているようにしてください。

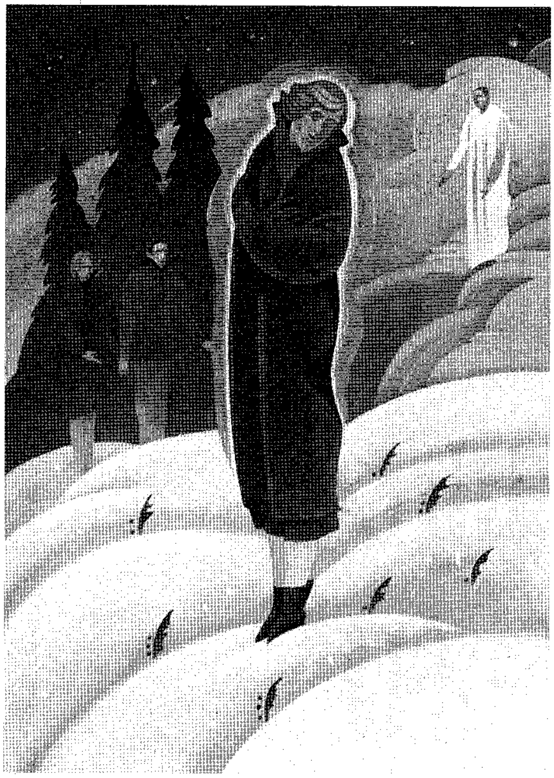
■ 教会の集会や活動に出席するときは，いちばん良い外見で臨みましょう。

■ 精神を集中しましょう。集会中やほかの人が話しているときは，注意して耳を傾けましょう。

■ 邪悪な印象を与えるような服装を避けてください。

■ 最後になりましたが，これは重要なことです。ほほえみを忘れないでください。そうすれば周りの人もほほえむようになるでしょう。□

クリスマスコート



シェリル・ボイル

夫であるミックの突然の死に，わたしの心は打ちのめされていました。いつでもミックはわたしにとって，霊感と善そして忍耐の源でした。ミックなしでどうやって5人の子供を育てていけばよいのか途方に暮れていました。

当時，わたしの訪問教師はシャーナでした。シャーナとわたしのホームティーチャーでもあったシャーナのご主人ジムは，よくわたしを映画や神殿に連れて行ってくれました。

秋が来て，寒くなってきたので，わたしはクロゼットからコートを取り出しました。そのコートは15年前に買った代物で，かなり古くなっていました。シャーナやジムと一緒に出かける度に，恥ずかしい思いでそのコートを着ました。そのコートの裏地はほつれていました。ジムがそのコートを着る手伝いをしてくれる度に，ほつれた裏地に手が引っかかりました。

クリスマスが近づくにつれて，寂しさは募っていきます。ミックがいなくなって初めてのクリスマスでした。彼に会いたくて仕方ありません。子供たちのために努めて明るく振る舞おうとしましたが，容易ではありませんでした。

クリスマスのほんの数日前，ジムとシャーナ，そしていちばん上の娘さんが，我が家を訪問してくれました。そのとき，カードを添えて美しく包装された箱をくれました。カードには，「シェリルへ，愛を込めて，ミックより」と書かれていました。わたしの頬(ほお)を涙が伝いました。箱の中には，今までに見たことのないほど美しいコートが入っていました。サイズもぴったりでした。「もしミックがいたら，きっとこのコートを買って君にプレゼントするだろうなと思ってね」と言われました。

このコートを着るといつも，だれかが「すてきだね」と褒めてくれます。なぜそう見えるのかわたしには分かります。コートを着る度に，ホームティーチャーや訪問教師，そして夫の愛を思い出すわたしが，輝いて見えるからでしょう。□

ILLUSTRATED BY DILLEEN MARSH

聖地の平和

D・ケリー・オグデン，デビッド・B・ガルブレイス

近年の歴史においてパレスチナあるいはペリシテと呼ばれ，またイスラエルと呼ばれてきた地は，昔，アブラハムの子孫に与えられると約束された地です。この聖約は，アブラハムの子孫であるイサクとヤコブ（すなわち，イスラエル。創世 17：19－22参照）の子孫たちに再確認されたものですが，土地の受け継ぎを含むこの聖約の祝福は，神のもとに来てその戒めを守る者には一人残らず与えられると約束されました。そのために，その人々は「聖約の民」（2ニーファイ30：2。申命11：9，16－17，21；アブラハム 2：6－11も参照）となります。

アブラハムの一子孫であるユダヤ人は，何世紀もの昔，戦争や追放のためにその地から追い出されてしまいました。現在，一部の人々はすでに戻って，その古代の土地が自分たちのものであると主張しています。この先祖の地への帰国は数々の預言の成就です。イスラエルの子孫は末の日には彼らの先祖の故国に再び集まるであろうと預言されていたからです（ゼカリヤ2：12；8：7－8；エゼキエ

PHOTO OF JERUSALEM BY NEIL FOLBERG; PHOTO OF DOVE BY TELEGRAPH COLOUR LIBRARY/FPG INTERNATIONAL CORPORATION

ル11：17；28：25；36：24；37：21；申命30：3；イザヤ11：12；エレミヤ16：14－15；30：3参照）。

聖地での闘争

現在，2,000年ぶりに数百万というユダヤ人が帰国を果たしつつあるこの土地は，これまで，数多くの国家や部族，民族が興亡を繰り返す地となっていました。現在の政争の原因は，アブラハムのほかの子孫である，アラブ・パレスチナ人が，この同じ土地で長い間，しかも継続的に生活してきて，そこが自分たちの土地であると主張していることにあります。現在の国際法では，ユダヤ人の主張にはあまり分がないように思われます。アラブ人の立場から言えば，ユダヤ人が彼らの土地に居住していることは，「神からの権利」でもなければ，「歴史的必然」でもなく，軍事力による占領にほかならないのです。結局のところ，イスラエルのユダヤ人（アブラハムの孫であるヤコブ，すなわちイスラエルの血統による子孫）とアラブ・パレスチナ人（元来，アブラハムの息子であるイシマエルの血統による子孫）の両方が，同じ土地の領有権を主張しているわけです。

聖地で政争が起きる根源には，ユダヤ教徒とキリスト教徒とイスラム教徒とが聖地に，とりわけエルサレムに寄せる宗教的な感情があります。宗教と政治の混在は，往々にして人間の最も深い感情を揺さぶり，場所や象徴に対する熱烈な思慕の念や強烈な献身に人を動かします。

世界の3大宗教が，神殿の丘，あるいはハラム・エシャリフ（高貴な聖所）と呼ばれるこの14ヘクタールの土地を聖地と考えています。ユダヤ教徒とキリスト教徒は，アブラハムがイサクを犠牲にささげようとした場所として記念し，その後，そこに主の偉大な神殿が2度にわたって1,000年の間建っていました。また，イスラム教徒は同じ場所を，アブラハムが息子のイシマエルを犠牲にささげようとした場所として尊び，また，マホメットが夜の示現の中で昇天した伝説の場所としてあがめています。そのため，イスラム教徒にとっても神聖となったこの場所に，イスラムの信者たちが礼拝所（岩のドーム）を建設したのは，13世紀前のことでした。この礼拝所は今日（こんにち）でもこの場所に建っています。こうして，それぞれの宗教が，この聖地の所有権を主張しているわけです。

聖地の所有権を巡るこうした熱い論争に心を痛める一方で，多くの人々は『聖書』の預言では，二つ以上の民族が合法的にこの地に住まうようになると記されていることを忘れています。主は，預言者エゼキエルを通じて，終わりの日に住まう人々に向かって，次のような勧告を与えられました。

「あなたがたは，くじをもって，〔この地を〕あなたがたのうちに分け，またあなたがたのうちにいて，あなたがたのうちに，子を生んだ寄留の他国人のうちに分けて，嗣業（しぎょう）とせよ。彼らは，あなたがたには，イスラエルの人々のうちの本国人と同様である。彼らもあなたがたと一緒にくじを引いて，イスラエルの部族のうちに嗣業を得るべきである。」（エゼキエル47：22，下線付加。イザヤ 14：1も参照）

ここを読むと，イスラエルの部族もパレスチナ人もともに，神からの約束を頂いていて，双方ともに受け入れ可能な合意ができる日が来るものと考えられます。実際，『聖書』の「他国人（strangers）」という言葉は，「居留者（sojourners）」という意味で，イスラエルの人々が享受していたと同様の義務や権利，特権にあずかることができる人々です（*A Hebrew and English Lexicon of the Old Testament*『「旧約聖書」ヘブライ語英語辞典』フランシス・ブラウン他著，158参照）。言い換えれば，両者とも，イスラエルに居住するということを「二者択一の論理」で考えるのではなく，現在であれ，将来であれ，主のぶどう園であるその地域に住む民族は，ほかの民族の居住に対しても寛容にならなければならないということを認識する必要があります。最終的には，あらゆる民族は，神の祝福にあずかるためには，血統そのものよりも，神の前に義にかなった生活をすることの方がはるかに重要であるのを知ることになるでしょう（ガラテヤ3：26－29；アブラハム2：10参照）。

平和の君

中東や全世界における究極的な平和の源はメシヤ御自身にあるということが，聖文にはっきりと書かれています。ヨハネは，世界のもろもろの王国がわたしたちの主の王国になる日を予見していました（ジョセフ・スミス訳黙示11：15参照）。また，イザヤは次のような啓示を受けています。「まつりごとはその肩にあり，その名は，『霊妙なる議士，大能の神，とこしえの父，平和の君』ととなえられる。

そのまつりごとと平和とは，増し加わって限りな〔い。〕」（イザヤ9：6－7，下線付加。教義と聖約38：22参照）

ところで，現在から主の降臨の時まで，わたしたちは末日聖徒として，中東での出来事についてどう考えたらよいのでしょうか。やがて必ず起こるは

中東や全世界における究極的な平和の源はメシヤ御自身，すなわち，「大能の神，とこしえの父，平和の君」にあるということが，聖文にはっきりと書かれています。

THE SECOND COMING, BY HARRY ANDERSON

ずのハルマゲドンをただ座して待っていればいいのでしょうか。それとも，平和の推進のために何か積極的に買って出るようなことがあるのでしょうか。

人間には，どちらか一方の側に立ちたいという生まれながらの性癖があります。また，あらゆるものには善と悪があると考える傾向があるようです。しかし，そうした偏った見方は，不公平な考え方や偏狭な心を生み出しかねません。また，不信感を助長し，互いに尊敬したり理解し合ったりする雰囲気を阻害することにもなります。実は，そうした雰囲気こそ平和のためには必要なのです。もしわたしたちが政治的にどちらかの肩を持つようなことがあると，どちらの側にも手を差し伸べることのできるわたしたちの能力を低下させることになります。わたしたちは，教会が全世界に向けて宣言した言葉を心にとどめておく必要があります。

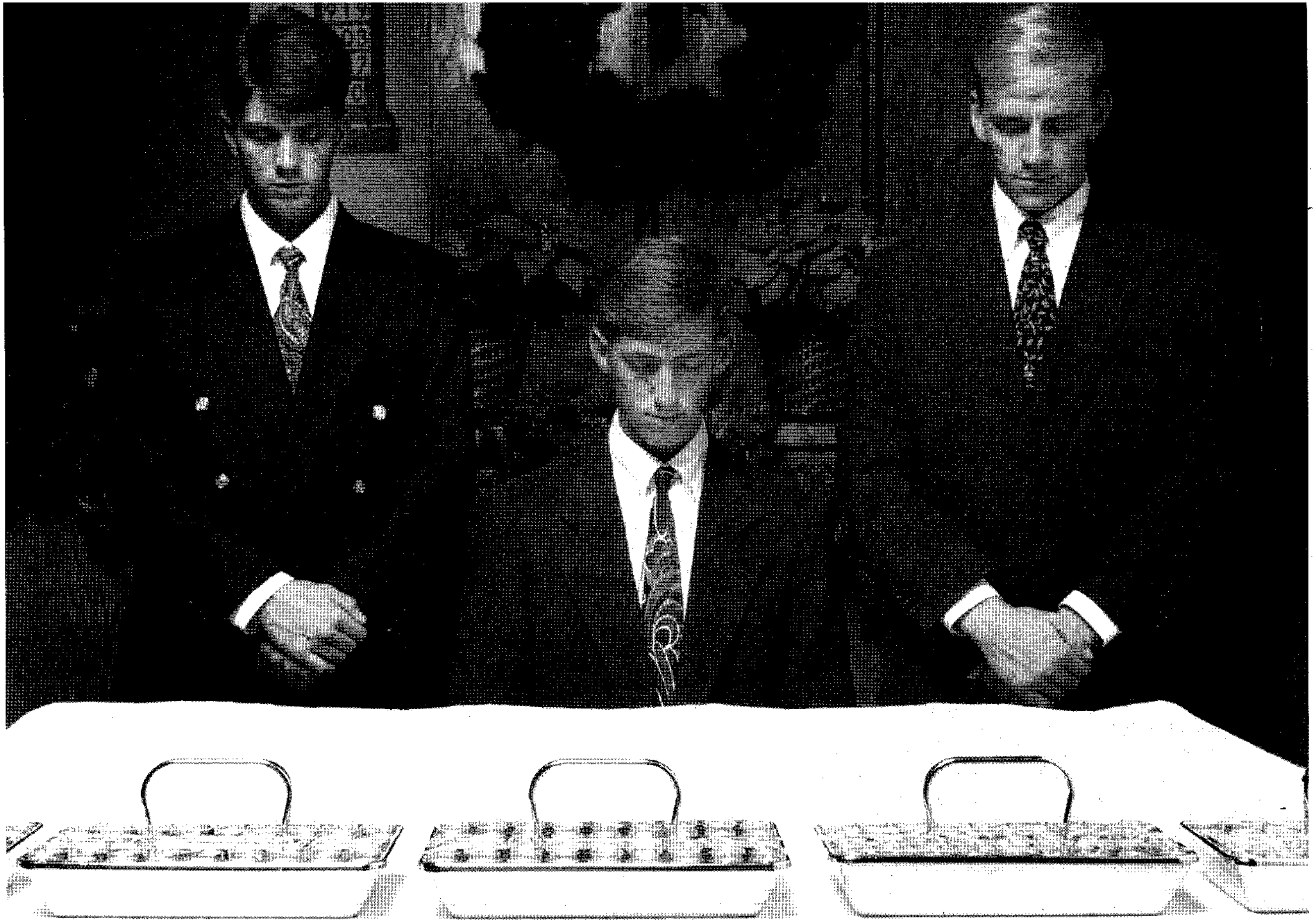
「わたしたちは，末日聖徒イエス・キリスト教会があらゆる人々の福利と生まれながらに持つ価値とに，これまでと同様に，深く関心を寄せていることを再確認するものです。末日聖徒は次の言葉を信じています。『神は人をかたよりみないかたで，神を敬い義を行う者はどの国民でも受けいれて下さることが，ほんとうによくわかってきました。』（使徒10：34－35）あらゆる人々は皆，神の子供であります。」（1992年10月18日付，報道用発表資料）

福音による平和

1979年にハワード・W・ハンター長老は教会員たちに次のことを忘れないように勧告しました。「ユダヤ人もアラブ人も，わたしたちの御父の子供です。双方ともに，約束の子であり，わたしたちは教会として，どちらの側にも立ちません。わたしたちは，どちらも愛し，どちらにも関心を抱いています。イエス・キリストの福音の目的は，最も高いレベルの愛と一致と兄弟愛とをもたらすことです。いにしえのニーファイのように，わたしたちも次のように言えるようになることを願っています。『わたしはユダヤ人に対しても慈愛を抱いている。……わたしはまた異邦人に対しても慈愛を抱いている。』（2ニーファイ33：8－9）」（“All Are Alike unto God” *1973 Devotional Speeches of the Year*「あらゆる人は神に似た者である」『1973年版年間祈とう説教集』36）

時に民族間や国家間に生まれる厳しい政治的対立の中にあっても，イエス・キリストの回復された福音は，平和と和解の源泉です。末日聖徒として，わたしたちは，福音の原則を教え，その原則に従って生活することによって，世の人々が主の再臨と平和の福千年のために備えができるよう，その手助けをすることができます。また，様々な国家について，例えば，民族，歴史，文化，宗教，言語などについて学習し，敬意を示すことによって，平和を築き上げるための基礎作りの手助けをすることも可能です（教義と聖約88：78－80，93：53参照）。

聖地における対立の原因を明らかにし，その対立がどう解決できるかを理解することによって，末日聖徒は，この抗争の続く地域にいるアラブ人とユダヤ人の間に，理解の橋を架ける手助けができます。わたしたちは，両民族を同情と理解とをもって見ているかぎり，公正で永続する平和をもたらすための大きな影響力となることができるのです。□


PHOTOGRAPH BY MATT REIER

日曜日はクリスマス

ロイス・バーソロミュー

大学1年生の年の12月の始めのことでした。わたしのルームメートはドアの上に金色のベルをつるし，掲示板を飾っていました。クリスマスのシーズンがやって来たのです。勉強の合い間には，ワードのダンスや学生のパーティーなどが計画され，またクリスマスの飾りや鮮やかなライトが新雪を背景にしてクリスマスの雰囲気を盛り上げていました。

それなのに，生まれて初めて家から遠く離れて大学生活を送っていたわたしは，何かが足りない感じがしていました。サンタクロースに胸躍らせる年でもなかったし，学生の身分ではプレゼントも大した物は買えません。一体，クリスマスのスピリットはどこへ行ってしまったのでしょう。

クリスマス休暇が始まる1週間前の日曜日，聖餐（せいさん）会が始まるだいぶ前に教会に着いたため，礼拝堂にはほとんど人がいませんでした。慌ただしくこの1週間を過ごしてきたわたしは，一人静かにゆったりと腰を下ろしていました。

前を見ると，神権者たちが厳かにテーブルクロスを広げて，聖餐の準備をしていました。そのテーブルクロスは外の新雪よりもはるかに純白で美しく見えました。それからピカピカに光っているパンと水のトレイを出してきました。最後に，もう1枚の白いクロスを広げて，聖餐の上にそっとかけました。

わたしは吸い込まれるように，じっとそれを見ていました。今見たことに強い衝撃を受けたのです。これこそがクリスマスなのだ，と気づきました。かいばおけの幼子（おさなご）はほんの始まりで，ほんとうの意味でのクリスマスは救い主の犠牲，つまり贖（あがな）いにあったのです。

それ以来，1年のうちいつでもクリスマスの精神を見つけられるようになりました。それが毎週，聖餐のテーブルの上にあるからです。□

「それらが何のために与えられているのかを常に覚えておきなさい」

伝統的にプレゼントを交換するクリスマスの季節を迎えて，わたしたちが天の御父から霊の賜物を頂いていることを思い起こすのは，この季節にふさわしいことです。天の御父がその教会の会員に与えてくださる賜物の中には，今年わたしたちが考えてきた御霊の賜物，すなわち信仰，知識，知恵，預言の賜物があります。

もちろん，霊的な賜物はこれまでに述べた賜物以外にもまだたくさんあります。ブルース・R・マッコンキー長老はこのように述べています。「霊的な賜物はその数も種類も無数にあります。聖文に述べられた賜物は，慈悲深い神が，神を愛し仕える者にお与えになる無尽蔵の恵みを表された単なる表現にすぎません。」（*A New Witness for the Articles of Faith*『信仰箇条の新しい証人』371）

わたしたちに霊的な賜物を与えてくださる際に，天の御父はこのように勧告しておられます。「熱心に最善の賜物を求め，それらが何のために与えられているのかを常に覚えておきなさい。」（教義と聖約46：8）

「すべてが，益を得られるようにするためである。」（教義と聖約46：9）

これらの賜物が何のために与えられているのかを覚えておく必要がある一つの理由は，欺かれないためです。サタンによる偽りの賜物が現れたとき，その正体を識別できるのです（教義と聖約46：7－8参照）。

霊的な賜物を覚えておくもう一つの理由は，互いの霊を養うためです。「各人に神の御霊によって一つの賜物が与えられるのである。……すべての人がそれによって益を得られるようになっている。」（教義と聖約46：11－12）

「最善の賜物を求め」なさい

教会員は皆，少なくとも一つの霊的な賜物を与えられていますが，主はわたしたちに「最善の賜物」を積極的に求めるように期待されています。では，御霊の賜物の中でどれが最善の賜物なのでしょうか。

一つの答えは，最善の賜物とはその時々で最も必要な賜物だということです。恐らく，改宗者はより強い証を必要としているでしょう。そのとき，人生で求めることのできる最善の賜物は信仰の賜物です。福音の中で成長するにつれて，さらに別の賜物を求めるようになるでしょう。

使徒パウロによれば，すべての賜物の中で最高の賜物は慈愛，すなわちキリストの純粋な愛です。たとえもしわたしたちに「山を移すほどの強い信仰があっても，もし愛がなければ，〔わたしたちは〕無に等しい」のです（1コリント13：2。モロナイ7：47－48；10：20－21，32参照）。

カリフォルニア州ナパのモリー・ソレンセン姉妹は，慈愛の賜物を求めたことを覚えています。ある日，彼女は10代の息子と深刻な議論をしました。自分自身の振る舞いに動揺したソレンセン姉妹は，感情を抑えられるように天の御父に助けを願い求めました。また同じような場面に遭ったら，きっとまた自制心を失うであろうと感じていました。

数時間祈りと瞑想をした後，「心の中に答えが浮かびました。もしわたしが自分の人生に霊的な力を与えるもっと大きな賜物を受けようと毎日努力するならば，人を傷つけようとする傾向は，たとえストレスのもとにあっても，消え去るであろうということがとうとう理解できたのです。」

それ以来，モリーは霊の糧を得るプログラムを作って実行し，愛と平安をはじめ，彼女が望む御霊の実を味わえるようになりました（*Ensign*『エンサイン』1989年9月号，30）。

わたしたちも，熱心に求め，祝福に感謝し，「〔主の〕前で徳高く聖く」（教義と聖約46：33）保ち，これらのすばらしい賜物が何のために与えられているかを常に覚えているかぎり，天の御父がわたしたちに味わってほしいと願っておられるすべての御霊の賜物を受けることができます。

- あなたは，ほかの人に仕えるために用いることのできる，どのような霊的な賜物を持っているでしょうか。
- ほかの人はあなたの人生を祝福するために，彼らの賜物をどのように分かち合ってくれたでしょうか。□

ILLUSTRATED BY SHERI LYNN BOYER DOTY

神権定員会と扶助協会におけ

ドン・L・シール

1998年1月から導入されるメルキゼデク神権と扶助協会の新しい教科課程は，会員たちが福音の原則と教義に対する理解を深め，応用することによって，キリストのもとへ来るよう鼓舞することを目的としています。

1998年1月よりメルキゼデク神権者と扶助協会の姉妹は知識を深めるだけでなく，福音の研究，霊性，奉仕，指導性においていっそうの成長を図ることを目指した新しい学習コースで学ぶことになります。

目的は会員と指導者がそれぞれの生活において福音の真理をいっそう効果的に実践できるように助けることです。この目標を達成するために，新しい教科課程では日曜日ごとにそれぞれ特定の目的を定めています。

第1日曜日の神権定員会とグループの集会は神権の義務を果たすことに焦点を当てて開かれます。神権者の義務に関する指導は定員会とグループの指導者が行います。同様に，扶助協会では第1日曜日に，扶助協会の使命を果たすことに焦点を当てます。これには個人の霊的成長と証(あかし)を強めることが含まれます。第1日曜日の指導は扶助協会会長会が行います。

第2および第3日曜日に，神権定員会と扶助協会の会員はそれぞれ，末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長の教えを研究します。1998年と1999年に使用する教材として新しい書物『歴代大管長の教え――ブリガム・ヤング』が出版されます。

第4日曜日の神権定員会と扶助協会の会員が学習教材は『わたしたちの時代のための教え』です。これは大管長会が特定する，現時点に即応したテーマと資料に基づいて行うレッスンです。これらの資料には，現在の大管長，副管長，十二使徒定員会会員による記事や説教が含まれます。

年間に4回から5回ある第5日曜日の話し合いのテーマは，地元の教会指導者が地元の必要を満たすテーマを選びます。この集会は監督会または支部長会（あるいはステーク会長会，伝道部長会，地方部長会）が司会します。

月の第4週までのレッスンと

PHOTOGRAPHY BY STEVE BUNDERSON

る教科課程の大きな変更

PHOTOGRAPH BY JED CLARK

「兄弟たちとともに働くとき，わたしたちは神の聖約の息子〔娘〕として成長し，それが財政的なものであろうと，社会的，霊的なものであろうと，逆境にあっても，戸惑いも恐れも覚えることなく，確固として立つことができるのです。」

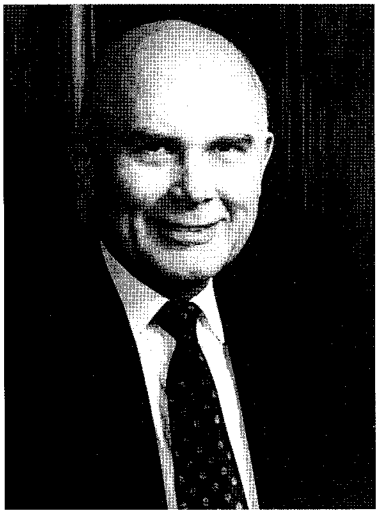
は異なり，第5日曜日の話し合いは，メルキゼデク神権と扶助協会の合同集会としてもよいですし，成人の兄弟姉妹が別々に集まることもできます。

第5日曜日の集会は，それまでに大会そのほかで実施できなかったレッスンを補うために使うこともできます。このようにレッスンの補講を行う場合，兄弟と姉妹は別個に集会を開かなければなりません。

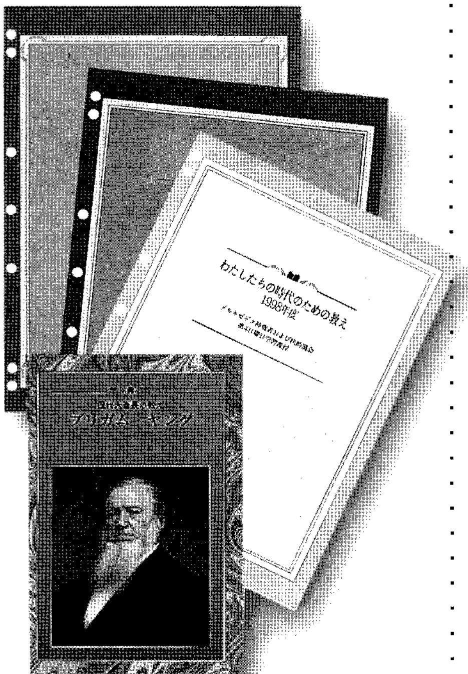
福音を実践する

新しい教科課程を開発する責任はゴードン・B・ヒンクレー大管長，トーマス・S・モンソン副管長，ジェームズ・E・ファウスト副管長の指示の下に与えられました。開発を直接的に監督する責任を与えられた二人の十二使徒定員会会員は，効果的な教授が行われた後に，指導者が進むべき道を示すならば，会員たちは行動に駆り立てられるという原則にのっとって開発されたと述べています。

「教科課程開発のテーマは実践することにあったと言えます」とダリン・H・オークス長老は述べています。



「わたしはすべての教会員に約束したいと思います。皆さんは〔『歴代大管長の教え――ブリガム・ヤング』〕を読むときに，……豊かに学ぶこと〔でしょう。〕」



「新しい教科課程は，特に神権定員会と扶助協会においてまたこれらの組織を通じて，福音の原則を実践することを強調しています。」

神権指導者と扶助協会会長会は教師としてまた指導者としての役割を担っていますが，新しい教科課程を通して彼らがこれらの責任を果たす力を強められることを希望していると，ジェフリー・R・ホランド長老は述べています。「定員会会長会とグループの指導者と扶助協会の会長会は，教えることが指導者として彼らが果たすべき責任の一部であることを認識していただきたいと思っています。」

神権定員会の兄弟たちと扶助協会の姉妹たちは毎月の第2，第3，第4日曜日に同じ資料を使って同じレッスンを研究しますが，新しい教科課程に関する指示ではそれぞれ別個の集会を開くことが求められています。このように兄弟と姉妹を分離するのは，神権定員会と扶助協会がそれぞれに持つ特有の働きを強化するためです。

ヒンクレー大管長は神権定員会とグループでどのような点が強化されることを望んでいるかを明らかにしています。新しい教科課程に関する資料として地元の神権指導者に配布された『メルキゼデク神権定員会教授用資料』には，1977年，当時十二使徒定員会会員であったヒンクレー大管長の言葉が引用されています。

「兄弟の皆さん，神権定員会が所属するすべての会員にとって力の源となり，会員一人一人が次のように言うことができるとすれば，それは驚嘆すべき日の到来であり，主の目的の成就する日の到来である。『わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の神権定員会の一つに所属しています。わたしは兄弟たちが必要としていることなら何でも援助します。そしてわたし自身も必要であれば彼らの助けを受けることができると確信しています。兄弟たちとともに働くとき，わたしたちは神の聖約の息子として成長し，それが財政的なものであろうと，社会的，霊的なものであろうと，逆境にあっても，戸惑いも恐れも覚えることなく，確固として立つことができるのです。』」

扶助協会の姉妹たちも同様に，組織の強化と一致をもたらすために福音の原則を学び，実践する努力を通じて個人の成長を遂げることを期待されています。「姉妹たちが独自に集会を開くことには様々な利点があります。これは特に独身の姉妹たちにとって大切なことです。このように姉妹たちだけで話し合う機会がないと，姉妹として備えていなければならない特質を見失ってしまうことがあります」とオークス長老は述べています。

成人男女が同じクラスで教義的な指導を受ける日曜学校の福音の教義クラスと福音の原則のクラスは今後も継続して行われます。日曜学校の教科課程はメルキゼデク神権定員会と扶助協会の新しい学習プログラムの影響を受けません。ステーク会長または地方部長が第5日曜日に兄弟姉妹が共同で研究するテーマを提示する場合，メルキゼ

デク神権定員会と扶助協会の会員は合同の集会に出席します。けれども第5日曜日に，ステーク大会や総大会のために実施できなかった通常の教科課程のレッスンを行う場合は，別個に集まります。

新しい教科課程開発の指示

これまでの経緯を振り返ってみると，新しい教科課程は霊感に基づいて開発されたことが明らかです。オークス長老とホランド長老はメルキゼデク神権と扶助協会の学習課程を改善する割り当てを受けたとき，二人ともそれまでに何度か読んでいた『ブリガム・ヤング説教集』（*Discourses of Brigham Young*）を読み始めて，ちょうど読み終えたところでした。理由は分かりませんでしたがそうしたいという思いに駆られて，それぞれに読んでいたのです。二人とも『ブリガム・ヤング説教集』が今の時代に，研究するにふさわしい書物であると感じていました。

後に，新しい任務を遂行する割り当てを受けた十二使徒会のこれら二人の会員と七十人から数人の会員が業務を始めるに当たって集会を開きました。それは特別な霊感あふれるものでした。そのときの様子をホランド長老は次のように述べています。「そのときに，新しい教科課程に関する全員の気持ちが一つになりました。」彼らが新しい教科課程をどのような形式にしようかと話し合っていたとき，オークス長老は立ち上がって，自分の提案として，月の各日曜日に行うレッスンの形式を黒板に書き始めました。この提案を契機にして次から次に意見が述べられました。こうして完成した計画は，ホランド長老の話によると，だれか一人が作った計画ではなく，それこそまさしく大管長会に提案すべき計画であると全員が感じたそうです。

大管長会と十二使徒定員会は，『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』の編集と第1，第4，第5日曜日に使用する資料の作成作業を始めるに先立って，基本概念を承認しました。

「〔中央幹部は〕ブリガム・ヤングの資料を編集するために，すばらしい委員会を組織しました」とオークス長老は述べています。「彼らは非常に優れた働きをしました。」この委員会に召された人々は第2および第3日曜日に使用するブリガム・ヤングの書物を制作しただけでなく，メルキゼデク神権と扶助協会が第1日曜日に使用する資料の作成にも貢献しました。第4日曜日の教科課程はおもに大管長会と十二使徒定員会の手によって作成されました。彼らは現時点で採り上げるべきテーマを決定した後に，資料として使う最近の教会機関誌と出版物を選定しました。

オークス長老とホランド長老はともに，教科課程の変更を計画し支援する作業に深く関与した，2代にわたる中央扶助協会会長会に感謝の気持ちを表しています。「前の中央扶助協会会長会（イレイン・L・ジャック姉妹，チエコ・N・岡崎姉妹，アイリーン・H・クライド姉妹）は，この作業に心血を注いできました。そして，召しを解かれる際にも，自分たちが行ってきたすべてのことを後任の会長会に引き継ぎました。彼女たちは全身全霊を尽くしてこの作業に当たりました」とホランド長老は述べています。

「前の会長会は資料作成を手伝うスタッフとしてすばらしい姉妹たちを派遣してくれました」とオークス長老は述べるとともに，新しく召された中央扶助協会会長会（メアリー・エレン・ウッド・スムート姉妹，バージニア・アーリ・ジェンセン姉妹，シェリー・L・デュー姉妹）がこの新しい教科課程を導入するために前任者と同様に心血を注ぎ，勤勉に働いてきたことを付け加えています。

第1日曜日

メルキゼデク神権定員会またはグループと扶助協会にとって，第1日曜日は彼らの指導者から指導を受け，福音の原則を実践して自らの義務と役割を全（まっと）うするための計画と準備を行う機会です。

新たに発行された手引き『メルキゼデク神権定員会教授用資料』にはその目的が次のように説明されています。「第1日曜日の定員会／グループ集会を通じて，メルキゼデク神権者と長老見込み会員の持っている才能を有効活用できるよう計画を立ててください。またこの計画には，彼らがさらに良い夫，父親，息子，そしてふさわしく忠実な神権者となって，教会の使命を果たす

業に積極的に携わることも含めるべきです。」

この新しい教授用資料では，神権指導者は会員たちの必要と彼らが見守る責任を持つ人々の必要としている事柄を見いだし，次にそれらの必要を満たす方法を計画しなければならないことについて指導者の注意を喚起しています。想定した幾つかの援助を必要とする状況に基づいて，第1日曜日の定員会またはグループの集会で採り上げることができるテーマが提案されています。しかし，それらは「単なる提案」であることを手引きは強調しています。「すべてを使う必要はありません。指導者は自由に内容を変更したり組み合わせたりして，会員の必要や状況に合わせたものを作り上げればよいでしょう。」13項目の提案には「神権を用いて家族を強める」から「定員会／グループの会員に伝道活動への備えをさせる」「主の道に従って貧しい人や困っている人の世話をする」に至るまで様々な状況があります。

新しい手引き『扶助協会指導者教授用資料』も同様に，扶助協会の集会と，集会で研究する資料は「(1) 姉妹たち一人一人が福音の知識を増し加え，福音に従って生活する決意を固めるよう助け合うこと，(2) すべての人が『キリストのもとに来て，キリストによって完全に』なるという教会の使命（モロナイ10：32）を達成するために姉妹たちが結束する」ためのものでなければならないと説明しています。

扶助協会の新しい教科課程では第1日曜日の「霊的成長と証(あかし)の会」に関して柔軟に対応できることがこの手引きに記されています。「世界各地にある扶助協会は，置かれている環境，必要，援助手段がそれぞれに異なるため，ワードと支部はそれぞれ独自の方法で扶助協会の目的を果たします。しかし，人々に関心を示し，人々を救うという原則は万国共通です。日曜日の集会を通して，福音の大切な原則を行動に移すという姉妹たちの決意をさらに強めることができます。」

会長会は「扶助協会の目的について指導したり，福祉集会やワード評議会で話し合われた神権指導者から受けた指示を発表したり」するために第1日曜日の集会の一部を割くことができます。姉妹たちが証を築き，家族関係を強化し，お互いに奉仕し合う方法を学ぶために，手引きに記されている20のテーマに基づいて，福音に関する短時間の話し合いを行うことができます。証を述べる機会はこれまでと同様に第1日曜日の集会の中で設けます。

第1日曜日に姉妹たちを指導する責任は会長会に託されているため，従来，霊的生活や家庭教育などの特定のレッスンを教えていた教師は，ただ単に扶助協会の教師と呼ばれます。教師たちは第2，第3，第4日曜日に開かれるクラスを教える割り当てを受けることになります。ワードと支部の扶助協会会員は会長を助ける二人の姉妹が教育担当副会長，ホームメーキング担当副会長ではなく，第一副会長，第二副会長と呼ばれることに気づくでしょう。けれども，姉妹たちの教育とホームメーキングに関する事柄に配慮する責任は依然として扶助協会にありますから，今後は会長が副会長にいずれの分野を担当するかを決めることになります。

初等協会，若い女性，若い男性で召しを受けているために扶助協会や神権会に出席できない成人の男女はどうなるのでしょうか。扶助協会会長会と定員会またはグループの指導者はこれら第1日曜日の集会で話し合った資料や与えられた割り当てを分かち合う方法を考え出す必要があるとオークス長老は述べています。ほかの日曜日については，これらの人々は自分で研究するための資料，記事，レッスン資料を手にすることができます。さらに，可能であれば，彼らの伴侶(はんりょ)や成人の家族がその日に行われた扶助協会または神権会のレッスンの内容を伝えるようにするとよいでしょう。

第2および第3日曜日

ヒンクレー大管長の指示により，新しい教科課程に歴代大管長の教えが採り上げられることになりました。「ヒンクレー大管長自身は偉大な教師であり，卓越した歴史家であって，歴代の大管長の教えに見いだせる本質的な事柄を愛する人です」とホランド長老は語っています。ヒンクレー大管長は十二使徒定員会の会員やほかの中央幹部との集まりでしばしば歴代大管長の言葉を引用しており，また一般の教会員とも好んで歴代大管長の教えを分かち合っています。

1998年と1999年の学習手引きである『歴代大管長の教え――ブリガム・ヤング』は18歳以上のすべての末日聖徒に配布されます。これは会員たちが自分で福音を研究する際の参考書として使用してほしいという願いが込められています。ほかの大管長の教えも2000年以降の数年間に採り上げられますが，必ずしも年代順とはなりません。

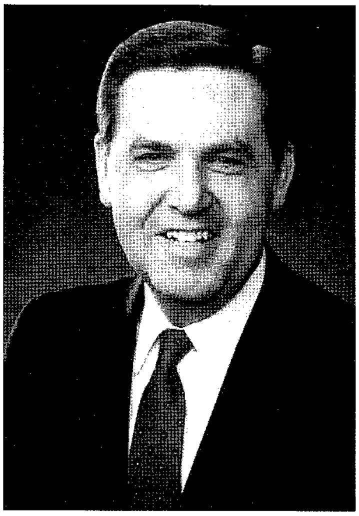
では，なぜブリガム・ヤングの教えから始めるのでしょうか。実際のところ「ブリガム・ヤングに関する資料が最も豊富にあったからです」とオークス長老は説明しています。「ヤング大管長の教えは非常に広範囲にわたっており，また十分な検討が加えられており，さらにあらゆる項目が記されています。このため，わたしたちが2年間で研究するための資料として1冊の本に編集することが比較的容易だったからです。」現在，預言者ジョセフ・スミスをはじめとするほかの大管長の教えについても編集が行われており，それらは将来使用されることになます。

ヤング大管長が預言者としてのたぐいまれな賜物(たまもの)を尊んで大いなるものとしただけでなく，数十年間にわたって，預言者ジョセフ・スミスを通じて啓示された福音の原則を生活の中で実践する方法を会員たちに教えたことを，ホランド長老は指摘しています。第2代大管長は実践に優れた力を発揮しました。この実践こそが，新しい教科課程が目指しているものの一つです。

多くの会員はヤング大管長の教えが1990年代とさらに将来の生活に当てはめられることに驚きを覚えることでしょう。「一部の教会員と教会外の人々の間には，ブリガム・ヤングを偉大な移民指導者，偉大な実行力のあるアメリカのモーセであるという見方をする傾向があります。そしてそれはすべてそのとおりです。わたしは彼の深遠な思いに畏敬(いけい)の念を抱いています。彼はどのような基準に当てはめるとしても霊感あふれる人でした。皆さんはヤング大管長が記した事柄を読みさえすれば，ヤング大管長の言葉が今日(こんにち)のわたしたちに当てはまることを理解できるでしょう」とホランド長老は述べています。

オークス長老もこのことに強く同意しています。「わたしはすべての教会員に約束したいと思います。皆さんはこれらの教えを読むときに，この偉大な預言者が教えた福音の原則の真実性と，また福音の原則が持つ美しさと価値を豊かに学ぶことができるだけでなく，精神をも活気づけられることでしょう。これらの原則には大きな力があります。」

オークス長老はブリガム・ヤング大管長の教えから引用して，例を挙げています。「多くの人はかつて教えられたこともない原則を，自分が先頭に立って教えられると考えています。彼らはこの妄想に取りつかれた瞬間から，悪魔のとりこになって汚れた場所へと導かれているのに気づいていません。彼らはこの教訓をずっと以前に学んでいなければならなかったにもかかわ



「わたしたちの教会は全世界的な教会です。恐らく多くの地域では，わたしたちが提供する資料だけを頼りに教えることになると思います。……わたしたちは彼らが手もとにある資料を活用できるように細心の注意を払ってきました。」

らず，ジョセフの時代以降，学んだ人はわずかしかいません。」（『ブリガム・ヤング説教集』77－78）この教えは，福音の原則について預言者が教えていること以上に，自分には多くの事柄を教える権威があると考えている人々への警鐘として現在も価値がある，とオークス長老は述べています。

第4日曜日

新しい教科課程において，第4日曜日には現時点で話題になっている事柄に焦点を当てます。さらに現在のどのような問題に関して教えるかについて選択する余地が残されています。メルキゼデク神権定員会およびグループと扶助協会の姉妹たちは，大管長会から指定される10のテーマと，ステーク会長，伝道部長，または地方部長が指定する二つのテーマを研究します。地元の指導者が選んだテーマのうち一つを年間の前半に，残る一つを後半に教えます。

テーマに関するレッスンの資料は，最近の教会機関誌に掲載された大管長，副管長，十二使徒定員会会員の教えから採ったものが用いられます。現在使用されている教会出版物の一部がレッスンの資料として指定される場合があるでしょう。

教師は，以上のほかに資料を必要とするでしょうか。レッスンの内容に関連した聖句を引用することは適切ですが，これ以外の資料を使うことは勧められません。「わたしたちはレッスンに活気をもたらし，生徒を啓発するに十分な資料を提供していると考えています」とオークス長老は述べています。「むしろ教え方を改善するために努力を傾ける方がよいでしょう」とオークス長老は述べています。

ホランド長老はこのように説明しています。「わたしたちの教会は全世界的な教会です。恐らく多くの地域では，わたしたちが提供する資料だけを頼りに教えることになると思います。大きな教会付属図書館がなく，末日聖徒の資料に関するコンピューター・データベースを利用することができない教師に対しても十分な資料を提供できるように，わたしたちは良い資料を作成する義務があると考えました。わたしたちは彼らが手もとにある資料を活用できるように細心の注意を払ってきました。」教会が設立されて日が浅く，翻訳された資料も限定されている地域では，入手できるわずかな資料を活用するための指針が与えられています。

「教会の機関誌がなかったら，この新しい教科課程を実施することは不可能でした」とオークス長老は述べています。メルキゼデク神権と扶助協会の教科課程で実施される第4日曜日のレッスンにおいて，『エンサイン』（*Ensign*）と国際機関誌は今後とも中心的な資料として活用されます。教会員と指導者は皆，教会の教科課程で使用する研究資料として教会機関誌を購読するよう勧められています。

教会員を養う

オークス長老とホランド長老はともに，新会員を定着させるために，また現在福音のすべての祝福にあずかっていない活発でない会員を活発化させるために，質の高いレッスンを実施することが不可欠であると考えています。

オークス長老はこのように指摘しています。改宗者は宣教師から福音の基本的な事柄について集中レッスンを受け，その間に霊的な強い確認を感じて教会に入ります。彼らはワードや支部において，引き続き霊を奮い立たせる，教義に基づいた指導を必要としています。教会に戻ろうとしている活発でない会員には，彼らの決意を福音によって後押ししてくれるような指導が必要とされます。

「すべての教会員は福音に対する教義的な理解を深め，それによって証（あかし）を強める必要があります」とホランド長老は述べています。新しい改宗者は，もし宣教師から受けるわずか6回の簡単なレッスンを終えた後に，何の助けもなくそのまま放置されるとしたら，証を強めることができません。教会歴の長い人であっても，彼らは生涯を通じて福音の原則を研究し，深く考える機会を常に得ていなければ，証を強めることができないのです。

ヒンクレー大管長は「神の善い言葉」（モロナイ6：4）によって会員たちを養うことの大切さをしばしば強調している，とホランド長老は述べています。「わたしたちはこの新しい教科課程が彼らを養うものとなることを信じています。」□

ジョセフ兄弟への賛辞

うわさ話でしかジョセフ・スミスを知らない人にとって，彼の38年の生涯のほとんどはなぞめいたものに思えます。しかし，彼をよく知る人々にとっては，主の預言者であり，自分たちの友人でした。彼をいちばんよく知っている家族にとっては，ジョセフ・スミスは兄弟であり，夫であり，そして父親，息子でもありました。ジョセフ・スミスは自分の家族を愛し，友人を心から大切にしました。

ここに紹介する絵は，画家リズ・レモンが描いたジョセフです。教会初期の会員たちは中央幹部の兄弟たちを「長老」あるいは「会長」などの肩書きを付けて呼んでいましたが，預言者を知る人々は「ジョセフ兄弟」と呼んでいました。そういう呼び方をされるのは，彼だけでした。彼は人々の中に友人として溶け込んでいました。そして，かしこまったことは，あまり好みませんでした。これから，預言者と呼ばれただけでなく，「ジョセフ兄弟」と呼ばれたこの人物を，もう一度思い起こしてみたいと思います。

メルキゼデク神権の回復──「さらにまた，わたしたちは何を聞くでしょうか……王国の鍵と時満ちる神権時代の鍵を持っていると自ら宣言した，サスケハナ川沿いのサスケハナ郡ハーモニーとブルーム郡コールズビルの間の荒れ野におけるペテロとヤコブとヨハネの声。」（教義と聖約128：20）

お父さんが抱いてくれたら

ジョセフは7歳のときに，伝染病で片足がひどい状態になりました。外科医が彼を診察して，病気で悪くなった部分を切り取る用意をしました。その医師はジョセフが体を動かさないように縛りつけ，そのうえ，痛みを和らげるためにアルコールを飲むように勧めました。しかし，ジョセフは大きな声で「嫌だ」と叫びました。「ぼくはお酒なんか絶対飲まないし，縛りつけられるのも嫌だ。でも，ぼくはこうしたいんだ。お父さんがベッドの上に座って，ぼくを両腕で抑えるの。そしたら，骨を切り出すのにしなくちゃいけないことは，何でもするよ。」ひどい痛みに耐えながら，手術が行われました。そして，成功したのです(ルーシー・マック・スミス，*History of Joseph Smith*『ジョセフ・スミスの生涯』56－58)。

モロナイ

17歳のジョセフがある夜，祈っていたときに「一人の方がわたしの寝台の傍らに現れ，空中に立たれた。……その方はわたしの名を呼び，自分は神の前から遣わされた使者であること，その名はモロナイであること，神がわたしのなすべき業を備えておられること……をわたしに告げられた。」(ジョセフ・スミス－歴史1：30，33)

肉体と精神の力

「〔預言者ジョセフ・スミスの中には〕この上なく高貴で純粋な人間性が満ちあふれていました。そしてそのような精神は，ボール遊び，兄弟たちとのレスリング……などの無邪気な遊びの中に現れることがよくありました。彼は肩をいからせ，しかめ面をして，笑うようなことも楽しいことも，何もないというような印象の人物ではありませんでした。彼の心の中には喜びがあふれ，感謝の念と愛が満ちあふれていたのです。」（ジョセフ・F・スミス，*Collected Discourses*『説教選集』1894年12月23日付）

父さんと一緒に

「おお，神よ，自由と安らかな生活の心地よい喜びの中に，今一度愛する家族に会う特権をお与えください。彼らをこの胸に抱き，かわいい頬に口づけをすれば，わたしの心は言い知れぬ感謝に満たされることでしょう。」（Joseph to Emma Smith「ジョセフ・スミスからエマ・スミスへの書簡」1838年11月12日付）

小さな手

「わたしが家へ帰ると，妻のエマは病に伏せっていました。彼女は出産をしたのですが，死産でした。」(ジョセフ・スミス，*History of the Church*『教会歴史』5：209)ジョセフとエマは全部で5人の子供を亡くしています。

「小羊のように行く」

「わたしはほふり場に引かれて行く小羊のように行く。しかし，わたしは夏の朝のように心穏やかである。わたしの良心は，神に対してもすべての人に対しても，責められることがない。**わたしは罪のないまま死に，やがて『彼は冷酷に殺害された』と言われるだろう。**」（教義と聖約135：4）

エマの賛美歌

主はエマ・スミスを「わたしが召した，選ばれた婦人」と呼び，「わたしの僕（しもべ）……ジョセフ・スミス・ジュニアを……慰め」る務めに召されました。また主は彼女に「教会で利用できるように……神聖な賛美歌の選定をする務め」を授け「わたしは心の歌を喜ぶからである」と言われました（教義と聖約25：3－12参照）。

エマがその務めを熱心に果たしたことは，義理の母ルーシー・マック・スミスの称賛の言葉の中によく示されています。「彼女のように，常に断固とした勇気と熱意と忍耐心をもって，年々続くあらゆる種類の苦労や困難を耐えた女性を，わたしは自分の人生の中でほかに見たことがありません。」（ルーシー・マック・スミス『ジョセフ・スミスの生涯』190－191）

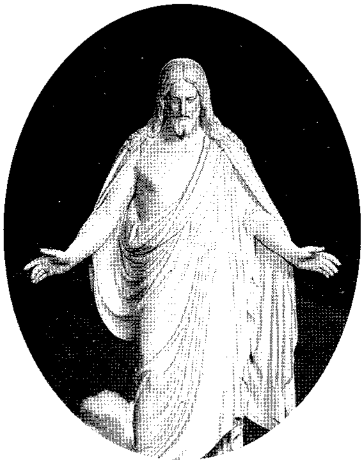
「神の祝福があるように，お母さん」

ジョセフたちはミズーリ州ファーウェストで，カンバス地の幌（ほろ）を固く打ち付けた幌馬車の中に拘束され，収監されることになりました。母親が近づいて来たとき，ジョセフは彼女が自分の手を握ることができるように，その幌の下から手を差し出しました。ルーシーは涙ながらに叫びました。「ジョセフ，哀れな母さんにもう一度声をかけておくれ。おまえの声を聞くまでは，ここを離れることができないわ。」

ジョセフは涙にむせびながら言いました。「神の祝福があるように，お母さん。」そして幌馬車が動きだし，彼と母親を引き離しました。ジョセフとほかの囚人たちはそれからの6か月をリバティーの監獄で過ごしました（ルーシー・マック・スミス『ジョセフ・スミスの生涯』290－291）。□

光と命

十二使徒定員会会員
ダリン・H・オークス



わたしたちは主イエス・キリストを愛しています。主はメシヤであり，救い主であり贖い主です。

自分はキリストに従う者だと公言する人々の中には，末日聖徒イエス・キリスト教会の会員はクリスチャンではないと言う人がいます。実際，わたしたちの教会や教義を攻撃することによって生計を立てている人がいるのです。これからお話しする経験をそのような人々もすることができたら，と思います。

わたしの友人が初めてソルトレーク・シティーを訪れ，わたしの事務所にやって来ました。彼は立派な教育を受けた，しかも献身的なクリスチャンでした。わたしも彼も，もちろん表立って話をしたことはありませんが，わたしたちの教会の会員はクリスチャンではないと教えている人が彼の教派の指導者の中にいることを承知していました。

互いに差し障りのないことを少し話した後で，わたしは彼に「見てもらいたいものがあるのだが」と言いました。わたしたちは歩いてテンプルスクウェアに行き，北訪問者センターに入りました。そして『聖書』と『モルモン書』の時代の使徒と預言者の絵を眺めました。それからスロープを上って2階に行きました。そこにはトルバルセン作の復活されたキリストのすばらしい像があり，広大な宇宙と神の創造のパノラマを見せてくれています。

十字架上での釘跡を見せるようにして手を伸ばしていらっしゃるキリストのあのすばらしい像に見入っていたとき，友人の口から感嘆のため息が漏れました。わたしたちはしばしたたずみ，敬虔な思いで救い主の生涯に思いをはせたのでした。それからわたしたちは互いに沈黙したままでスロープを下りました。外に出る途中の通路には，聖なる森でひざまずいて祈りをささげているジョセフ・スミスの小さなジオラマがありました。

こうしてテンプルスクウェアを出た後で，彼は別れ際にわたしの手を取ってこう言いました。「あれを見せてくれてありがとう。君が何を信じているのかを初めて理解できたような気がする。」わたしたちがクリスチャンかどうかで疑いを持っているすべての人が，このわたしの友人と同じような理解を得てくれたらと願っています。

わたしたちは主イエス・キリストを愛しています。主はメシヤであり，救い主であり，贖い主です。わたしたちは主の名によってのみ，救いを得ることができるのです（モーサヤ3：17；5：8；教義と聖約18：23参照）。わたしたちは主に仕えたいと願っています。わたしたちは主の教会である末日聖徒イエス・キリスト

AND HE HEALED THEM ALL EVERY ONE, BY GARY KAPP; THE CHRISTUS, BY BERTEL THORVALDSEN

イエス・キリストは世の光であられることが分かります。なぜなら主がわたしたちの理解を助けてくださる光の源だからです。主の教えと模範がわたしたちの歩む道を照らし出し，主の力が善を行うようにわたしたちを促してくれるからです。

THE SERMON ON THE MOUNT, BY HARRY ANDERSON

教会に属しています。宣教師や教会員は，世界中のたくさんの国々でイエス・キリストについて証をしています。『モルモン書』の中で預言者ニーファイはこのように書いています。「わたしたちはキリストのことを話し，キリストのことを喜び，キリストのことを説教し，キリストのことを預言し，また，どこに罪の赦しを求めればよいかを，わたしたちの子孫に知らせるために，自分たちの預言したことを書き記すのである。」(2ニーファイ25：26)

信仰箇条第1節で宣言されているように「わたしたちは，永遠の父なる神と，その御子イエス・キリストと，聖霊とを信じ」ています。父なる神はわたしたちの霊の父であり，天地をお造りになった御方であり，わたしたちのために救いの計画をお立てになった御方です（モーセ1：31－33，39；2：1－2　；教義と聖約20：17：26参照)。イエス・キリストは御父の肉における独り子であり，エホバであり，イスラエルの聖者，神であり，メシヤ，そして「全地の神」(3ニーファイ11：14）です。

『モルモン書』には，復活された主がアメリカ大陸の民に姿を現されたことが書かれています。主は白い衣を身にまとい，天から降りて来られました。そして群衆のただ中に立ち，手を広げてこう言われました。

「見よ，わたしはイエス・キリストであり，世に来ると預言者たちが証した者である。

見よ，わたしは世の光であり世の命である。」(3ニーファイ11：10－11)

わたしたちは，この主の宣言と心を一つにして，イエス・キリストが世の光であり命であられることを厳粛に証します。万物は主によって造られました。御父の指示と計画に従って，創造主であられるイエス・キリストは万物の光と命の源となられました。次のような記録を与えられています。イエス・キリストは「世に来られた真理の御霊であった。彼が世に来られたのは，世が彼によって造られたからである。また，彼の中に人の命と人の光があった。

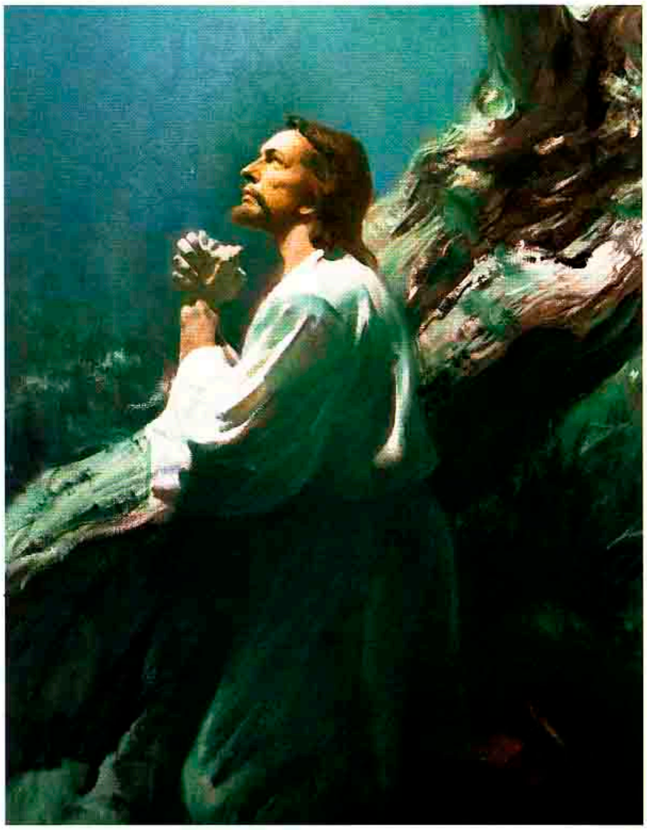
もろもろの世界は彼によって造られた。人は彼によって造られた。万物は彼によって，彼を通じて，彼から造られた。」(教義と聖約93：9－10)

イエス・キリストは世の光です。なぜならイエスは，「広大な空間を満たすために神の前から発している」(教義と聖約88：12）光の源だからです。イエス・キリストの光は，「世に来るすべての人を照らすまことの光」(教義と聖約93：2）なのです。主の模範と教えは，わたしたちが天の御父のもとに帰るための道を示してくれています。

教導の業を押し進めていたとき，イエスは次のように説かれました。「見よ，わたしは光である。わたしはあなたがたのために模範を示した。」(3ニーファイ18：16）救い主はニーファイ人に教えを授けられたとき，主の光と主の戒めとの間に密接な関係があることを強調されました。「見よ，わたしは律法であり，光である。」(3ニーファイ15：9）わたしたちは主の御霊によって啓発されるような生活を送るべきです。また天の御父と御子について証される聖霊のささやきを聞き，そのささやきに耳を傾けるような生活を送るべきです(教義と聖約20：26参照)。

イエス・キリストが世の光であられることを物語っているもう一つの点は，その力によってわたしたちが善を行うようになることです。「わたしが語ったこれらのことを信じる者……はこれらのことが真実であることを知

イエス・キリストは世の命です。なぜなら聖文に書かれているように「死から人々を解放する，偉大な永遠の計画」(2ニーファイ11：5)にあって，主が特別な役割を果たしておられるからです。主の復活と贖いにより，わたしたちは肉体の死と霊の死の両方から救われるのです。


CHRIST IN GETHSEMANE, BY HARRY ANDERSON

るであろう。わたしの御霊は，善を行うように人々を促すからである。

善を行うように人々を促すものはすべて，わたしから出る。善はわたし以外の者からは出ない。」（エテル4：11－12）

したがって，イエス・キリストは世の光であられることが分かります。なぜなら主がわたしたちの理解を助けてくださる光の源だからです。主の教えと模範がわたしたちの歩む道を照らし出し，主の力が善を行うようにわたしたちを促してくれるからです。

イエス・キリストは世の命です。なぜなら聖文に書かれているように「死から人々を解放する，偉大な永遠の計画」(2ニーファイ11：5)にあって，主が特別な役割を果たしておられるからです。主の復活と贖いにより，わたしたちは肉体の死と霊の死の両方から救われるのです。

ヤコブはこの命の賜物を喜び，次のように語りました。「おお，神の慈しみの何と深いことか。わたしたちがこの恐ろしい怪物に捕まらないように，神は逃れる道を備えてくださっている。まことに，その恐ろしい怪物とは死と地獄であり，わたしはそれを肉体の死および霊の死と呼ぶ。」（2ニーファイ9：10）

わたしたちが不死不滅の命を得ることができるようになったのは，復活された主が肉体の死からわたしたちを贖ってくださったからです。しかし，それだけではありません。主は世の罪からもわたしたちを贖ってくださいました。「すべての人は罪を犯した」（ローマ3：23）ので，わたしたちは皆，霊的に死んだ状態にあります。わたしたちが永遠の命を得るための希望を持てるのは，「罪に対する犠牲として御自身をささげられる」（2ニーファイ2：7）救い主がいらっしゃるからです。

救い主は，御自身の命をささげることによって，わたしたちが自らの罪のために受ける霊の死を克服し，永遠の命を得られるようにしてくださいました。その恩恵にあずかるためには，悔い改め，バプテスマを受け，福音の儀式と律法に従うことによって主が定められた条件を満たさなければなりません（信仰箇条1：3）。

わたしたちは不死不滅という無条件の賜物に対して感謝の気持ちをささげる必要があります。そして，永遠の命という賜物を受けるに必要な儀式を受け，聖約を交わさなければなりません。「この賜物は，神のあらゆる賜物の中で最も大いなるもの」であり（教義と聖約14：7），ふさわしい人だけが受けることのできるものです。

つまり，末日聖徒は互いに，また世界中のあらゆる人々にキリストのもとに来るよう呼びかけます。『モルモン書』の中のある預言者はこう語っています。「イスラエルの聖者であるキリストのもとに来て，キリストの救いと，キリストの贖いの力にあずかるように望んでいる。まことに，キリストのもとに来て，自分自身をキリストへのささげ物としてささげ，断食と祈りを続け，最後まで堪え忍びなさい。そうすれば，主が生きておられるように確かに，あなたがたは救われるであろう。」（オムナイ1：26）

神の祝福があって，すべての人がキリストのもとに来ることができるように願っています。わたしはイエス・キリストがわたしたちの救い主であり贖い主であり，世の光であり命であられることを証します。□

1987年10月の大会における説教より抜粋

深い悲しみのさなかにも

スベインボルグ・グードムンズドッティア

わたしは立って，眠っている息子を見詰めていました。医者がくれた鎮静剤のおかげでぐっすり眠り込んでいます。彼の眠りの深さと同じくらい，わたしの心は重く沈んでいました。ほんとうに，まるで胸の上に巨大な荷物を乗せられたように，自分の存在すべてが重苦しく感じられたのです。

「今日（きょう）の悲惨な出来事は息子にどのような影響を及ぼすのだろう」とわたしは思い巡らしました。まだ20歳のこの息子は，兄とわたしたちの親友が雪に覆われたアイスランドの山から滑落して死ぬのをその目で見たのです。二人ともまだ若く，人生これからという若者たちでした。一人はわたしたちの支部長で，あとにはまだ若い奥さんと二人の子供が残されました。下の子は生後わずか6週間でした。

1月のあの朝，この3人の友人は近くの山に登るために，わたしの家を出発しようとしていました。わたしは行かないように懇願しました。山はアイスバーンで覆われているのを知っていたからです。それに天気予報も芳しくありませんでした。しかし，彼らは聞き入れてくれませんでした。車から手を振りながら遠ざかる彼らの姿がまだ目に焼きついています。彼らのうちの二人の元気な姿を見たのは，それが最後でした。大きな悲しみに打ちひしがれて，わたしは目を閉じました。鋭いナイフを突き刺されたような痛みが胸を走りました。

「どうして主はこのようなことをお許しになるのだろう。」そう思いました。この若者たちは，わたしたちのとても小さい支部の神権指導者の大半を占めています。わたしには理解できませんでした。主に見捨てられたと感じました。

わたしは服を着替え，いつものようにその日1日の祝福に感謝をささげようとひざまずきました。しかし，一言（ひとこと）も言葉が出てきません。「こんな悲惨な日をどうしたら感謝できるのだろう。何を主に感謝できるだろう。きっと何かあるはずだ。」そう考えたのを覚えています。その時でした。眠っている息子のことを思い出したのです。恥ずかしさで胸がいっぱいになりました。「どうしてあの子のことを忘れていたのだろう。」ほかの二人と同じ危険にさらされていたのに，息子は生きて帰って来れたのです。彼を守って，わたしのもとに返してくださったことを天の御父に感謝しました。そして息子がこの厳しい試練に打ち勝てるように，助けを願い求めました。

それから亡くなった二人の若者，つまり長男と，支部長を務めていた親友についても天の御父に感謝しました。彼らと知り会い，愛することができたことと，彼らとの友情に感謝しました。彼らは改心して天の御父とその御子であられる救い主を信じ，生前に自らの生活を変えていました。彼らは二人とも，主にあって死んだのです。このことにどれほど感謝したことでしょうか。

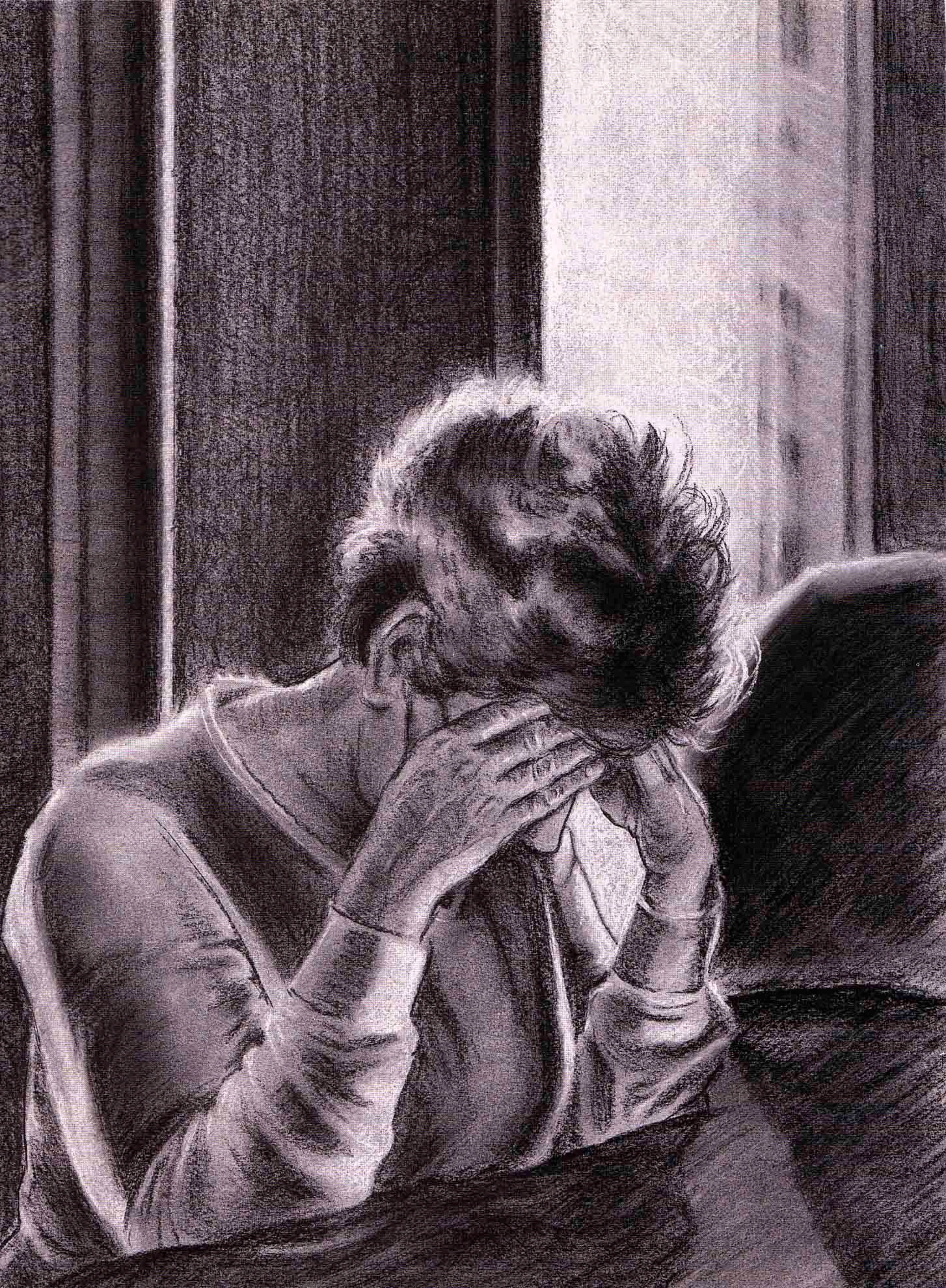
次に，元気で生存しているほかの4人の子供たちとその伴侶（はんりょ）たち，そして孫たちについても天の御父に感謝しました。わたしは祈り続けました。御父に感謝することが多すぎて，切りがないほどでした。

一言感謝の言葉を言うごとに胸の重荷が軽くなり，体中に温かな活力がみなぎり始めました。わたしの思いは安らぎ，心は喜びで満たされました。

「どうしてこんなことがあり得るのだろう。あんなことがあったのに，どうして喜びを感じられるのだろう。」そう思いました。しかし，実際わたしは喜びを感じていましたし，それが正しいことも知っていました。深くてつらい悲しみもまだ残ってはいましたが，喜びもあったのです。どんなに深い悲しみのさなかにも，天の御父はわたしたちに平安と喜びという祝福を与えることがおできになるのだと知りました。鍵（かぎ）となるのは，救い主であられる主への信仰と完全な信頼，そして感謝の心，つまり，現在与えられているものすべてと今まで与えられたものすべてについて天の御父に感謝することなのです。

祈りを終えて，わたしはベッドに横たわりました。なぜ彼らが死ななければならなかったかは依然として理解できませんでしたが，理由はもうどうでもよいことでした。天の御父の愛を感じることができたからです。わたしたちは神の手のうちにいるのだから，何も心配することはないのです。□

「こんな悲惨な日をどうしたら感謝できるのだろう。何を主に感謝できるだろう。」



わたしは開拓者

フランスの10代の若者が末日聖徒の開拓者となるまで

キャサリン・ラモニーノ・トルプが
ドン・O・トルプに語った言葉を基に編集

幌（ほろ）馬車が深いわだちのついた道を，石ころを踏みつけ，ほこりを巻き上げて行くときのがたがたいう音が，わたしには手に取るように分かります。それは，10代のころパリで過ごしていたありふれた晩でしたが，わたしはこの特別な夜，モルモンの開拓者についてフランスのテレビ局が制作したドキュメンタリー番組に夢中になっていました。わたしはこういったものを今まで見たことがなかったので，モルモンの旅と古代イスラエルの出エジプトの旅が似ていることに驚きました。モルモンの開拓者の勇気と苦労に，わたしは深く心を打たれました。

わたしは，これまでモルモンについては一度も聞いたことがなかったので，知りたいと思いました。でも，すぐに学生ならではの忙しさに気を取られ，心に感じた温かな気持ちを忘れてしまいました。そのうえ，自分の印象は単に知的好奇心から来たものだったんだ，などと自分に言い聞かせるようになりました。この開拓者の幌馬車の車輪との出会いがわたしの人生を変えることになろうとは，そのときは思いもつきませんでした。

わたしの母はパリのブティックで働いていて，そこで出会ったアメリカ人たちが気に入りました。彼女は英語が好きになり，まだ子供だったわたしにも英語を学ぶように勧めました。夏になると，母はわたしを英語圏の家族にホームステイさせるために，イギリスやスコットランドへ行かせたものです。ある年，彼女はわたしにアメリカのサマーキャンププログラムに参加するよう勧めました。このプログラムを通じて，わたしはジョセフ・スミスの生誕地である，バーモント州シャロンでキャンプカウンセラーになりました。恐らく，主はそのときにもう一度，わたしの心の車輪を回し，開拓者への思いを呼び起こそうとされたのでしょう。残念ながら，そこに滞在している間に，ジョセフ・スミスやモルモン教徒について一言（ひとこと）も聞くことはありませんでした。

でも数年後，再び車輪が大きな力で回り，あのときの気持ちがよみがえったのです。わたしはパリのソルボンヌ大学で，特にアメリカ文化に焦点を絞って英語を勉強していました。修士論文のテーマについて考え始めたころ，わたしはモルモンの開拓者のドキュメンタリー番組のことを思い出しました。そのことに関連して何かできないかどうか，アドバイザーに尋ねました。ソルボンヌ大学で，モルモンについて論文を書いた人はこれまでいなかったので，興味深いテーマだとアドバイザーは考えたようです。そして，モルモニズム独自の観点を採り上げるように強く勧めました。

幾らか準備を進めていくうち，大学の図書館にはモルモンに関する情報が不足していることが分かりました。そして，彼らに会って話を聞かなければいけない，という結論に達しました。そのころには，モルモン教会の正式名称が末日聖徒イエス・キリスト教会であることを知りました。その情報を頼りに，わたしはパリ伝道本部を

上――左から，パリにいた当時のキャサリン。系図ファイルを調べているところ。論文の研究中。リグラント・リチャーズ長老との出会い。将来の夫とともにバプテスマを待つ。
右ページ――ソルトレーク・シティーのデゼレトビレッジ・パイオニアパークで，ボランティアガイドの衣装を着たキャサリン。

捜し出し，大胆にもその玄関をたたきました。応対してくれた宣教師に向かってわたしは尋ねました。「どなたかモルモンについて教えてくれる人はいませんか。」

びっくりした若者はやっとのことで口を開きました。「い，いますよ。どうぞ，お入りください。」

伝道本部でのわたしの研究ははかどり，末日聖徒は亡くなった先祖のために執行される儀式を固く信じていることを知りました。死者のための神殿の儀式について読めば読むほど，このテーマを使いたくなりました。最終的な論文のタイトルは，教会に長く集っている会員でさえ気に留めてくれそうな，「系図とモルモン教会」に決まりました。こうして，わたしはパリ伝道部で「系図ガール」として知られるようになりました。

わたしが将来の夫と出会ったのは，伝道本部を初めて訪問してから，ちょうど2か月たった時でした。彼はアメリカ人のフリーカメラマン兼ライターで，フランスを旅していました。宣教師が彼にわたしのことを話したため，彼はわたしへのインタビュー記事を教会の機関誌に載せようと決めました。彼は教会について話してから，教会に入ることについて考えたことはないか，尋ねました。わたしは肩をすぼめて言いました。「これはほんの好奇心なんです。」

でも，今にして思えばこう言いたかったのです。「あなたの教会にはどこかほかとは違うものがあります。伝道本部に来る度に，平安な気持ちを感じるのです。事実，ここに戻って来たいと思うのです。」それでもわたしは，この気持ちは単なる学究的な好奇心でしかないと言い張りました。

2，3か月後，わたしはソルトレーク・シティーにある有名な系図協会を訪問し，論文研究を続けることにしました。わたしがユタに着いたのは，ジョセフ・フィールディング・スミス大管長の葬儀が行われる前日で，フランスにいる間に文通相手になった末日聖徒の女の子と弔問に訪れました。わたしはその葬儀に絶望感が漂っていないことに強い印象を受けました。

この間に，パリで出会ったカメラマンはソルトレーク・シティーに戻っていて，わたしたちは再会しました。わたしは彼に論文の校正を手伝ってもらうことにし，時がたつにつれて，彼はわたしの論文のコメントがどんどん肯定的になっていることに気づきました。例えば，初めは「モルモンの信条は……」と書いていたのが，知らず知らずのうちに，「わたしたちは……を信じています」という表現に変わっていたのです。

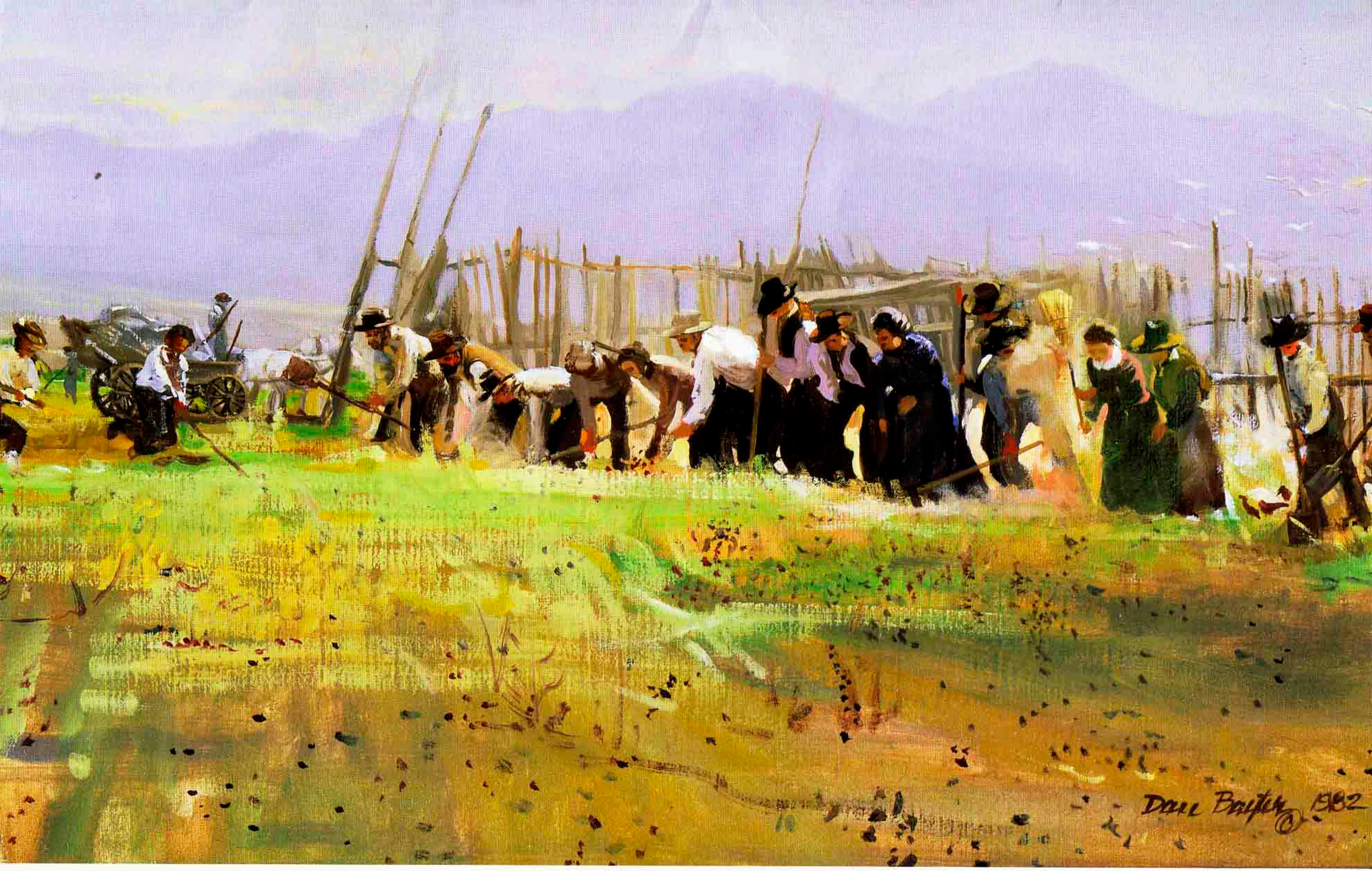
ある晩，彼はわたしに宣教師のレッスンを受けてみる気はないかと尋ねました。わたしはためらいがちに，以前と同じ答えをしました。「好奇心だけですから。」でも，その声に以前ほど確信がないのを見て取った彼は，こう持ち出しました。「レッスンを聞いたからって，何か失うものでもあるのでしょうか。」

わたしはほほえんで答えました。「そうですね，たぶん何もないと思います。じゃあレッスン，受けてみます。」3週間後わたしはバプテスマを受けました。そしてわたし自身が家族で唯一の教会員という，いわば開拓者になったことで，あの幌馬車の車輪はまた回りだしました。わたしはすぐ，たくさんの先祖にイエス・キリスト教会の会員になる機会を与える特権にあずかりました。

バプテスマから1年半後，あのカメラマンとわたしはソルトレーク神殿で結婚しました。彼がわたしと出会ったとき，フランスのとあるドキュメンタリー番組に映った幌馬車の車輪が，彼の人生に大きな影響を与えることになろうとは露ほどにも思わなかったことでしょう。

1997年の今年，開拓者がソルトレーク盆地に入植して150年目に当たります。そして，わたしは自分の人生についてこうして語りながら，幌馬車が深いわだちのついた道を，石ころを踏みつけ，ほこりを巻き上げて行くときのがたがたいう音を，まさに今感じています。実は，ワイオミング州のビッグサンディ・クロッシング近くの歴史的な開拓者ルートを通る，「1997年――150周年記念モルモン街道幌馬車隊」の一行にわたしも加わり，昨日も今日も手車を引いているのです。こうして当時を再現している間わたしは，イタリアで改宗して1850年代にシオンに来た，実在のフランス人開拓者の少女を演じています。彼女やたくさんの開拓者たちが，ずっと昔に通ったのと同じ道を歩き，同じ砂ぼこりを吸い，同じ音を耳にしているとは信じられない気がします。

歩きながら，わたしは若いころにフランスで見たドキュメンタリー番組を思い出しています。そして，この道を歩んで亡くなっていった，多くの末日聖徒の息づかいを感じることができます。でも，わたしが演じているのは過去の開拓者の物語だけでなく，わたし自身の人生でもあるのです。なぜなら，わたしも開拓者の一人だからです。□



「クリケットの猛襲」　ダン・バクスター画

1848年5月，ソルトレーク盆地に暮らす開拓者の聖徒たちは，クリケットの大群に悩まされた。人々が渇望していた収穫前の野菜や穀物を，大群が食い荒らし始めたのだ。
男性も女性も子供たちも，この貪欲な昆虫と数週間にわたって苦闘した。やがて助けを求める彼らの熱心な祈りがこたえられ，作物の多くは被害を免れた。
グレート・ソルトレークから飛来したかもめの群れが，3週間にも及んで昆虫を腹いっぱいに詰め込んで行ってくれたのである。

聖徒の道 1997年12月20日発行（毎月1回20日発行）第41巻第12号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

「おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルととなえられる。」（イザヤ7：14）❦「あなたがたは，幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであろう。それが，あなたがたに与えられるしるしである。」（ルカ2：12）❦「神の小羊，まことに永遠の父なる神の御子を見なさい。」（1ニーファイ11：21）❦

「その光がわたしの上にとどまったとき，わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると，そのうちの御一方がわたしに語りかけ，わたしの名を呼び，別の御方を指して，『**これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい**』と言われた。」（ジョセフ・スミス－歴史1：17）

2902979923008

聖徒の道　1997年12月20日発行（毎月1回20日発行）第41巻第12号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

「おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルととなえられる。」（イザヤ7：14）❦「あなたがたは，幼な子が布にくるまって飼葉（かいば）おけの中に寝かしてあるのを見るであろう。それが，あなたがたに与えられるしるしである。」（ルカ2：12）❦「神の小羊，まことに永遠の父なる神の御子を見なさい。」（1ニーファイ11：21）❦「その光がわたしの上にとどまったとき，わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると，そのうちの御一方がわたしに語りかけ，わたしの名を呼び，別の御方を指して，『**これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい**』と言われた。」（ジョセフ・スミス－歴史1：17）

2902979923008

専任宣教師

JMTC 217期生14人　海外2人　●上から氏名，任地（伝道地），出身ユニット

神崎浩二郎
福岡伝道部
我孫子ステーク
つくばワード

三留博子
神戸伝道部
郡山地方部
会津若松支部

ケープス，ユキエ・L
東京北伝道部
沖縄那覇ステーク
普天間ワード

村松めぐみ
仙台伝道部
岡山ステーク
鳥取支部

杉本春幸
札幌伝道部
高松地方部
徳島支部

大畑周子
仙台伝道部
静岡ステーク
焼津支部

荻津晃子
神戸伝道部
我孫子ステーク
日立支部

飯岡奈己子
福岡伝道部
我孫子ステーク
牛久ワード

西川啓介
札幌伝道部
岡山ステーク
米子ワード

窪田佐和子
仙台伝道部
東京ステーク
三鷹ワード

石原靖子
仙台伝道部
神戸ステーク
明石ワード

丸山麻衣
岡山伝道部
東京西ステーク
八王子第二ワード

早坂拓哉
名古屋伝道部
東京西ステーク
府中ワード

新谷　円
福岡伝道部
福知山地方部
相生支部

鬼木顯子
台湾台北伝道部
アジア伝道部
上海支部

落合　順
カルフォルニア・
サンフランシスコ伝道部
岡山ステーク
出雲支部

ブックセンターだより

『キリスト・イエス』（『基督イエス』改訂版）
カタログ番号　80352 300
B6変　792頁　ソフトカバー
定価1,500円

『聖書』の記述に末日の聖典と啓示から光を当て，救い主の比類ない生涯を克明につづる。巻末に索引を加えさらに使いやすくなった改訂新版。ジェームズ・E・タルメージ著。

『フレーム入り絵画』（1997年新製品）
カタログ番号　80392（ゴールド／再臨入り）
80085（ブラック／ソルトレーク冬景色入り）
279×432mm　定価1,150円
〔入れ替え用絵画：定価各70円〕

各種教会絵画が入れ替え可能なアルミニウム製フレーム。クリスマスプレゼントに好適。

役員の異動

1997年10月4日から11月4日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の異動（敬称略）

●宇都宮地方部古河支部
支部長：竹入賢治

●静岡ステーク沼津支部
支部長：平井道彦

新設ユニット

●我孫子ステーク野田支部
（松戸ワードおよび越谷ワードから分割）
支部長：武井　進

皆さんの原稿を募集しています

◎「ローカルページ」では，現在以下のテーマについての記事を募集しています。

①1997年中に，開拓者150年記念にちなんで行われた各地の活動レポート

1997年12月12日必着で下記までお寄せください。できれば活動のスナップ写真を同封してください。

②現在，日本および海外で活躍している宣教師またはその家族からの便り（近況，証など）。

1998年1月16日必着で下記までお寄せください。できれば写真を同封してください。

◎その他，一般のご投稿も歓迎いたします。

◎ご投稿の際には連絡先（住所，電話番号），教会での責任（役職名），所属ユニット名を記入し，写真を同封のうえお送りください。採用された原稿は編集の際，要約や手直しをさせていただくことがあります。

◎**お願い**——海外に召される日本人宣教師たちを紹介いたします。伝道の召しを受け取り次第，編集室に写真を添えてお知らせください。（氏名〔フリガナ〕，伝道部名，召された月を明記）

◎**あて先**：〒106　東京都港区南麻布5－10－30　末日聖徒イエス・キリスト教会　『聖徒の道』編集室
TEL.03(3440)2666　FAX.03(3440)3275

集会施設の鍬入れ式

右から――政府指導者とともに教会の新しい集会施設用地の鍬入れ式に参加する
ジェームズ・E・ファウスト副管長，ゴードン・B・ヒンクレー大管長，トーマス・S・モンソン副管長。
PHOTOGRAPH BY TAMRA HAMBLIN

「150年前にこの地にすきを入れた先祖の人々と同様，今日わたしたちはこの場所に立っています。」1997年7月24日，新しく建築される教会の集会施設用地の鍬入れ式において，ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこのように奉献の祈りをささげた。1996年4月の総大会においてヒンクレー大管長が発表した集会施設は2万1,000席を設置し，収容人員でタバナクルの3倍を超える建物となる。テンプルスクウェアの北に広がる緩やかな傾斜地の景観との調和を図りながら設計されたこの建物は，2000年4月の総大会までに完成する予定である。

「これは教会歴史始まって以来の大きな出来事です」とヒンクレー大管長は語る。「教会はこれから先これ以上大きな建物を必要とすることはないでしょう。」

新しい集会施設は総大会，宗教上の催し，演劇の上演，教会のそのほかの大会，文化的行事に使用されることになる。歴史的由緒のあるテンプルスクウェアのタバナクルは引き続きモルモンタバナクル合唱団の放送，録音，そのほかの行事の本拠地として使用されるが，新しく建設される集会施設にもパイプオルガンが設置されるため音楽の演奏が可能となる。3階まで半円形に広がった客席に囲まれるメインホールには，合唱団用の400席と指導者のための144席を持つステージが設けられる。集会施設は以上のほかに1,000人を収容できる劇場，地下駐車場，高さ37メートルの時計塔を持ち，屋根は階段状の景観となる。

鍬入れ式には大管長会第一副管長のトーマス・S・モンソン長老，大管長会第二副管長のジェームズ・E・ファウスト長老をはじめ，ほかにも十二使徒定員会会員，七十人定員会会員が数人出席した。

モンソン副管長は式典において次のように述べている。「ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこの計画を長年にわたって胸に秘めておられたことをわたしは知っています。わたしはページェントや各種の祭典が華々しく開かれる様子を心に描いています。遠方からまた近隣から人々が集まって大観衆を前にプログラムを繰り広げる様子を心に描くことができます。」

集会施設を新しく建設する目的について語ったファウスト副管長は，総大会に出席するために「地の四隅から」来た「教会員がともに礼拝し，大管長会，十二使徒定員会，そのほか教会の中央幹部とともに集うことが実際には不可能な」現状に，教会の指導者が心を痛めてきたことを明らかにしている。□

ソルトレーク・シティーのディス・イズ・ザ・プレース州立公園において，約5万人の群衆が1997年モルモン街道幌馬車隊を迎えた。
PHOTOGRAPH BY CRAIG DIMOND

→『聖徒の道』1997年10月号ローカル，10ページ参照

クリントン米大統領，「開拓者の旅」に賛辞を寄せる

「宗教的自由を追求するためにモルモンが成し遂げた困難な旅を再現するという感動的な試みに対して賛辞を贈ることをわたしはこの上ない栄誉と感じています」とビル・クリントンアメリカ合衆国大統領は1997年モルモン街道幌馬車隊に参加した人々に対して書簡を送っている。「モルモン開拓者団の物語は多くの点でアメリカという国家独特の歴史物語です。自らの良心の命じるところに従って礼拝する自由を求めて合衆国の沿岸にたどり着いたすべての人々の歴史です。またそれは，熱心に働き，神を信じることによって何事でも成し得ることを知っている人々の物語でもあります。」□

ロシアからの手車，大管長に寄贈される

シベリアで組み立てられ，ロシアとウクライナの17都市を経由して到着した1台の手車が，7月23日ソルトレーク・シティーにおいて，ロシアから訪れたイレーネ・クルーシナ・ボグダンならびにウクライナから訪れたタマラ・ビジアによってゴードン・B・ヒンクレー大管長に寄贈された。ロシアとウクライナに住む教会員から寄せられた3,000通に上る証とあいさつの手紙と，色鮮やかな各地の衣装を着せた30の手作り人形を載せた手車は，列車に積まれて各都市を巡り，ユタ州まで届けられた。そして目的地であるソルトレーク盆地に入る直前まで来たモルモン街道幌馬車隊に合流した。この手車は教会の歴史芸術博物館で永久保存されている。□

PHOTOGRAPH BY TAMRA HAMBLIN

北朝鮮，朝鮮人民共和国の支援

教会は過去2年間，北朝鮮の困窮者に対する人道的援助を実施してきた。赤十字をはじめとする諸機関を介して届けられた援助物資は，小麦粉，粉ミルク，食用油，毛布，応急手当用の医薬品など合計2,400トンに上る。

七十人のデビッド・E・ソレンセン長老は大管長会の指示を受けて，先ごろ北朝鮮を訪れ，「特に食糧が底をついたために食糧の配給制度が実施されており，また飢饉の恐れがある北部地域に対して，今後どのような支援を展開すべきかを判断するため，現状を視察」した。

七十人のレックス・D・ピネガー長老とともに北朝鮮を訪れたソレンセン長老は，教会から寄付された500本のりんごの木の寄贈，および植樹の支援が末日聖徒慈善事業団のブレッド・チャッグ兄弟によってなされたことを報告している。また教会代表者のギャリー・フレイク兄弟によって土壌の浸食状況の調査と，浸食防止の技術援助が行われた。□

東京神殿の新神殿長召される

この度，長嶺顕正神殿長（60歳）が菊地良彦神殿長の後任として召された。日本沖縄那覇ステーク，那覇ワード所属。弘子夫人は神殿長夫人として奉仕することとなった。

長嶺神殿長はこれまで，ステーク会長，副伝道部長，地方部長，祝福師，神殿の結び固めの儀式執行者として奉仕してきた。定年退職する前は沖縄銀行で業務役を務めていた。沖縄県那覇市で長嶺顕秀，長嶺（旧姓高良）玉子夫妻のもとに生まれた。

長嶺顕正，弘子神殿長ご夫妻

長嶺姉妹はこれまで，地方部の扶助協会，初等協会，若い女性で会長を務め，セミナリーや日曜学校の教師の任も果たしてきた。平良次郎，平良（旧姓比嘉）ツル夫妻のもとに生まれた。□

●長嶺神殿長ご夫妻は1997年11月1日から東京神殿に着任されている。

太平洋地域で組織された100番目のステーク

太平洋地域会長会の会長であり，七十人のボーン・J・フェザーストーン長老は，1997年6月15日，スーバ北フィジーステークを組織した。この新しいステークは太平洋地域で100番目のステークとなる。太平洋地域は過去3年間に目覚ましい成長を遂げ，この3年間に33のステークが組織されている。

150年目に当たる今年に100番目のステークを組織できたことは大きな感動でした」とフェザーストーン長老は述べている。新しいステークを組織するために2,800人以上の会員がフィジーＬＤＳ工科大学に集まった。

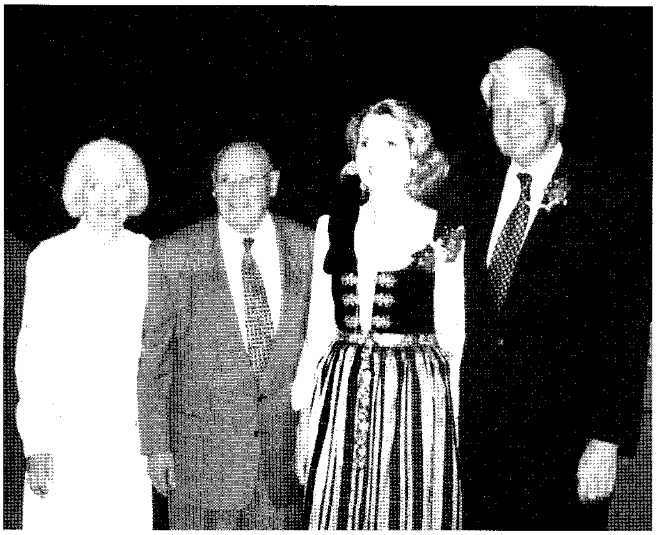
オーストラリア，フィジー，ニュージーランド，パプアニューギニア，サモア，ソロモン諸島，タヒチ，トンガ，その他の島々で構成される太平洋地域には，現在5つの神殿，13の伝道部，33万人の教会員，1,093の教会ユニットがある。□

アイスランド大統領，教会員を前にして語る

アイスランドの大統領オラフル・ラグナー・グリムソン氏とグドルン・カトリン・ソルベルグドッティル夫人は十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老，中央若い女性会長のジャネット・ヘイルズ・ベッカム姉妹とともに7月27日，ソルトレーク・シティーの南約84キロの町，ユタ州スパニッシュフォークで開かれた開拓者の受け継ぎを記念するファイヤサイドに招かれ，講演を行った。スパニッシュフォークは1800年代にユタへ入植したアイスランド人の80家族が中心となって築かれた町である。スパニッシュフォークは合衆国における最古のアイスランド人社会である。

グリムソン大統領は，1854年，この地域に定住地を築くためにアイスランドから移民した末日聖徒に対して賛辞を贈った。また，「ユタに新しい住まいを築くためにアイスランドの山間地方を発ってから苦難に満ちた旅を堪え忍んだ前世紀の人々に対して忠誠を」示してきたこれら開拓者の子孫に感謝の意を表し，さらに大統領は「初期の開拓者をたたえ，……今日に至るまでアイスランドの伝統を守り続けたすべての家族を称賛」した。

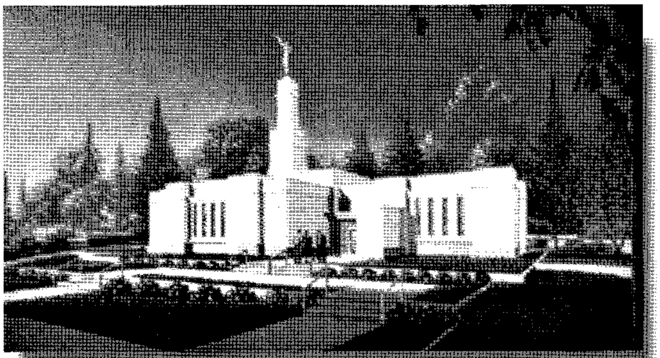
ワースリン長老はグリムソン大統領に続いて，アイスランド人の末日聖徒を称賛する言葉を述べている。これらの開拓者はユタにおける教会の定着を支えた人々であり，全世界における教会の発展に寄与した人々でもあるとワースリン長老は述べた。



アイスランドの大統領オラフル・ラグナー・グリムソン氏とグドルン・カトリン・ソルベルグドッティル夫人とともに立つ十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老とエリーゼ夫人（左）。

スパニッシュフォークに住んでいたアイスランド人を祖母に持つベッカム姉妹は「アイスランド人の先祖は今日の世の中でとても必要とされる，人としての価値と強さをわたしたちに教えてくれました」と述べている。□

遠隔地での小規模神殿建設計画，発表される


より多くの人々に神殿の祝福をもたらすことを目的として，居住する末日聖徒の数が少ない地域に小規模の神殿を建設することが発表された。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は10月4日土曜日の夕べに開かれた総大会神権部会において，末日聖徒の居住者が少ない地域に小規模の神殿を建設し，多くの教会員が居住する地域には従来規模の神殿を建設することを発表した。

小規模の神殿についてヒンクレー大管長は以下のように述べている。「アラスカのアンカレッジ，メキシコ北部の末日聖徒の居住地，ユタ州モンティセロの3か所で，小規模の神殿の建設を直ちに開始します。」

「教会には，遠隔地にあり，居住する会員が少なく，近い将来に大きく成長する見込みのない地域が数多くあります」とヒンクレー大管長は計画の発表に当たって説明している。「これらの地域に住む教会員は神殿の儀式によってもたらされる祝福を永久に受けられないのでしょうか。

数か月前にそのような地域を訪れた際，わたしたちはこの疑問について祈りの気持ちで深く思い巡らしました。そして，明確ですばらしい答えを受けました。

わたしたちはこれらの地域に，すべての儀式を執行するためのすべての施設を持つ小規模の神殿を建設します。神殿建設の基準に基づく建物ですから，集会所の基準よりもはるかに高度な基準を満たさなければなりません。死者のためのバプテスマ，エンダウメントの儀式，結び固め，そのほか主の宮で生者と死者のために行われるすべての儀式を執行する設備が整えられます。

神殿長はステーク会長が召される場合と同じように，地元の会員が召されて，管理することになります。任期は特に定めません。神殿の地域内に住む会員が召されます。一人の副神殿長は神殿記録部長を務め，もう一人の副神殿長は神殿技術者として働きます。儀式執行者はすべて，地元の会員が務めます。彼らはワードやステークにおいてもほかの責任を果たします。参入者は自分の神殿着を準備することになります。このため，建設費が膨大な洗濯施設は不要となります。しかしながら，バプテスマの衣装を洗濯するための小規模な洗濯設備は設置されます。食堂は設置されません。

これらの神殿では地元の必要に応じた日程で儀式が執行されることになります。恐らく，週に1日か2日程度，神殿が開かれることになるでしょう。」ヒンクレー大管長はさらにこう続けている。「いずれにしても，この点については神殿長の判断にゆだねられることになります。」

可能であれば，これらの神殿をステークセンターと同じ敷地に建設し，駐車場を両施設の共用とすることによって，建築資金の節減を図りたい，と大管長は述べている。

大管長の説明によれば，この規模の神殿は，規模の大きい神殿の1年分の維持費に相当する費用で建設できるばかりか，比較的短期間，数か月間で建築することが可能，とのことである。

「繰り返し申し上げますが，必要不可欠なものは何一つ省略されません」とヒンクレー大管長は説明している。「主の宮で行われるすべての儀式を受けることができるのです。これら小規模の神殿は，比較的大きな既存の神殿と比較して少なくとも半分以上の収容能力を持つことになります。また，必要が生じれば拡張することができます。

さて，この発表を耳にする多くの地域のステーク会長は『これこそわたしたちが求めていたものです』と言うことでしょう。皆さんが必要としていることをわたしたちに知らせてください。わたしたちは，十分な注意と祈りをもって検討します。けれども，すべてのことが一度に実現されるというような期待を持たないでください。わたしたちはこの事業について多少の経験を必要とするはずです。」

これらの神殿を運営するためには地元の教会員がある程度の犠牲を払わなければならないとヒンクレー大管長は述べている。「彼らには，儀式の執行者を務めるだけでなく，神殿を清潔に保ち，管理するための働きが求められるでしょう。けれども大きな負担とはならないはずです」と語った。

「受ける祝福を考えれば，そうした負担も軽く感じることでしょう。神殿には有給の職員は置かれません。運営はすべて信仰と奉献と献身にゆだねられます。

これらすべては，わたしたちがこの大切な業を力強く前進させようとしている気持ちの表れです」とヒンクレー大管長は語った（*Church News*『チャーチニューズ』1997年10月11日付）。□

特集：神殿からもたらされる祝福

――この10月に任期を終えられた神殿宣教師の皆さんの証――

ともに喜ぶ

第一副神殿長
上野道男

わたしたち夫婦は，わたしが会社を退職したら，子供たちと同じように専任宣教師になろうという夢を持ち続けていました。しかし退職間際に近づくにつれ，上野姉妹の体の調子が悪くなり，大丈夫かなと心配しておりました。そのようなとき，菊地長老から神殿宣教師へのお誘いを受け，姉妹もこちらなら何とか奉仕できそうだと賛成しましたので，1996年6月に東京神殿に参りました。

神殿では，神殿長をはじめ先輩宣教師の温かい愛とご指導を受けて，無事奉仕を続けることができ心から感謝しております。洗いの儀式では，待ち時間のひととき，先輩から肩をもんでいただき，その思いがけない優しさに思わず涙を流したこともあります。昔，父が軍隊の起床ラッパの音を「♪新兵さんはかわいそうだネ，今日も殴られ泣いている」と歌っていましたが，わたしはそれをもじって「♪新しい宣教師は楽しいよ，肩をもまれてうれし泣き」と作り替えました。

儀式の言葉がなかなか覚えられないときも気長に待ってくださったり，覚えるためのノウハウを伝授していただいたり，おいしいものを分けていただいたりなど，数々の恵みにあずかり「心が一つ思いが一つ」と言われたエノクの町のシオンとはこういう所ではないかと痛感いたしました。

また儀式執行者のために開かれる祈り会では，神殿長をはじめ皆さんの心からの証を聞いて，いつも心が洗われるような楽しい至福の時間を過ごせました。ある姉妹は，車の中で接待中の外国人のお客さんに「あなたは何が好きですか」と言われ「歌が好きです」と答えると、「何か好きな歌を一つ歌ってください」と言われ，『賛美歌』189番の「神の子です」を英語で歌いました。歌い終わってもシンとしているので続けて2番，3番も歌って座席を見ると，お客さんが涙を流していたという話など，今でも覚えています。

「今日もまた　心にしみる証きき
みたま感じて　涙流るる」

目も耳も口もご不自由な仙台の松川兄弟にエンダウメントの儀式が行われたとき，8時間という長い時間がかかり疲れているにもかかわらず，「神と人の愛」を深く感じて，皆さんが涙を流されていたお姿は，まったく感動的な思い出として心に残っています。

そのほか，障害者の方々が，儀式を一生懸命努力して続けて受けておられるお姿を見て，儀式をお手伝いする方々は皆さん御霊を感じて涙を流しておられました。「生まれつきの盲人なのは，だれが罪を犯したためですか」との弟子の質問に，イエス様は「ただ神のみわざが，彼の上に現れるためである」（ヨハネ9：1―3）と答えられましたが，それが神殿の中で実現されているという思いを強くしました。

「体の不自由な方への心遣いは
不完全で間違いの多いわたしへの
主の許しと慈しみを悟らせる」

神殿ではまた，全国の懐かしい方々にお会いでき，ともに無事の確認と信仰を守り続けた喜びとを感じる場所でもあります。

「宮居にて　なつかしき友あいまみえ
ことば少なく共に喜ぶ」

また亡くなった方のことをしのびながらエンダウメントを受けるときに，聞き慣れた言葉が「新しい啓示」のごとく響きハッとさせられることがしばしばあり,「神の教え」が汲めども尽きない「知恵と御霊の泉」であるという証を強めることができました。中国の言葉「まことに日に新なり，日々新なり，また日に新なり」のとおりの心境です。

「亡き人の救い手となり　胸あつし
来世で会える日近きと知りて」

ほんとうに1年4か月余り，神殿宣教師として奉仕させていただき，一生のうちで最も輝かしい充実した期間を過ごさせていただきました。すべて菊地長老をはじめ，神殿宣教師，儀式執行者，全国から参入なさっている兄弟姉妹の「助けと導き」によるものと心からお礼申し上げます。

「奉仕しているつもりが
実は 奉仕されており」
「涯しなき　世の患いを離れ来て
主のみを想いこころ安らぐ」

確かに主は生きておられ，必要な助けをいつも与えてくださることと，あのナザレのイエスが真にわたしたちの救い主，贖い主であられることへの証を，この奉仕を通じてさらに強めることができましたことを感謝いたします。（うえの・みちお）

神殿は主の宮です

神殿長夫人補佐
上野きみ

神殿でご奉仕させていただく機会を得て1年余りたちました。その間に受けた，あふれるばかりの恵みに深く感謝しております。

もともと丈夫だったわたしですが，宣教師となる直前に体調を崩し，健康に自信をなくしておりました。そのわたしが，どうにか休まずに過ごしてこられたのは，神殿長より祝福をしていただき，主の守りがあったおかげと感謝しております。

この1年，いろいろなことがありました。

上野ご夫妻

姉の死，次女の初めての出産，次男の伝道からの帰還，そして就職，転居など。わたしどもは奉仕中で何の手伝いもできませんでしたが，子供たちはお互いに連絡し合い助け合ってそれぞれ上手に解決してくれました。主が「家族の一致」を祝福してくださったことに感謝しております。

神殿の中ではいつも死者を身近に感じて過ごしておりました。だいぶ前になりますが，ハワイ神殿に参入し母の身代わりの儀式を受けたとき，ほんとうに隣に母がいるのを感じ，みなさんに紹介したいとの思いに駆られたのを思い出します。時々，死者のお名前を手にしただけで胸が熱くなる思いをいたしました。確かに亡くなった方々は遠くではなく身近にいて，儀式の順番を心から待っていらっしゃると分かります。

神殿の夏期休館の間，ほんのわずかですが系図の仕事をさせていただきました。図書館に行って資料を探したり，その記入法を教えていただいたり，最後の1日は久しく遠ざかっていた先祖の記録を見直し，記入することができました。名前を見ながら，まだ小さかったころ祖母に連れられて遊びに行ったのはこの方だったのかしら，などど思いながら系図を調べることの楽しさを感じ，もっともっと一生懸命に探さなければと決心いたしました。

度々，エンダウメントの儀式を受ける機会がありますので感謝しております。入るときの気持ちのありようで受けるものが違ってくることが分かりました。時には雑念にとらわれたり，睡魔に襲われることもあります。でも，あるときは「主の愛」を感じ「心からの平安」を頂くことができました。またあるときは「イエス・キリストの贖(あがな)いの深さの一端」に触れ，流れる涙を止めることができなくなったこともあります。

上手に説明できないのですが，わたしは今，神殿に来て，もう一度バプテスマを受けたように感じています。外見は相変わらずですが，心の中で何かが変わってきているように思います。「主の宮」である神殿には外と違った空気があります。目に見えない何かがあります。体力も気力も足りないわたしは，その何かに助けられてここまで来られたと思っています。神殿は主の宮です。神殿の業は主の業です。主は生きておられ，わたしたちを愛してくださっています。

神殿でのご奉仕の機会を頂けたことに心から感謝しています。いつもわたしたちを心にかけ，温かく導いてくださった菊地神殿長ご夫妻に感謝しています。ともに働いてくださった個性豊かな神殿宣教師の皆さまに感謝しています。（うえの・きみ）

神様は最強，最善の使者を送ってくださった

元第二副神殿長
中村雅延

1983年の10月初め，夕方のまだ明るい5時ごろ，二人のアメリカ人の訪問を受けました。わたしが出ると、『モルモン経』と書かれた本を目の前に差し出し「この本を知っていますか」と尋ねました。「いいえ知りません」と答えると、「神様について知っていますか,少しお話をしたいのですが,時間はありますか」と言いました。

そのときのわたしは関東での長い出張期間を終えて休みを取っていましたので，時間はたっぷりありました。「どうせ人間が金もうけのために作った偽宗教で，人集めにすぎないのだから，今までのように質問攻めにして困らせてやろう。そうすれば必ずぼろを出して退散するだろう」と何食わぬ顔で家に上げたのが宣教師との戦いの始まりでした。わたしは今までに二つの宗教を質問攻めで退散させていました。一つ目はあっと言う間に，二つ目は子供連れで布教している宗教で，退散させるまで3年間，入れ替わり立ち替わりやって来て教えてくれましたが，わたしの質問につまずいて，だれも来なくなってしまいました。次はだれか，早くやって来ないかと心待ちにしていたときに来たのが彼らだったのです。

わたしは生まれつき宗教と名の付くものは大嫌いでした。だまされた多くの人々を知っており，「この世に神様がいるわけがない，いるならば，困っている人，病んでいる人々をなぜ助けてくれないのか。何もしてくれない神様にどうして大金を出すのか」と不審に思っていました。親と同居し家を新築したときにも，神棚も作らせないほどでした。

家に上げた二人の宣教師は，自己紹介と雑談で時を過ごし次の約束をしてあっさりと帰ってしまいました。身構えていたわたしは拍子抜けしました。「いつ教義について教えてくれるのだろう。何を話してくれるのか早く知りたい。質問攻めで困らせてやろう」と待っているのに，話してくれないじれったさがありました。彼らは年齢も若く，息子より少し年上くらいで世間のこともあまり知らない様子，これならあっと言う間にやっつけてみせると自信満々で待ち受けていました。

3回目から本題に入り，教義について話しだしました。わたし自身，彼らは金もうけのためにやって来ていると思っているわけですから，何を話すのかと待ち構え，浮かんだ疑問をすかさず質問するのです。一つを聞くと10くらいの疑問があり，そのすべてをぶつけます。すると彼らはその一つ一つに『モルモン書』をパッと開いて「中村さん，神様はこのように言っておられます」と読ませます。それが答えになっているのです。わたしはというと，やっつけることができない悔しさで目は三角になり，口調鋭く迫るのですが，彼らはいつも穏やかで，わたしの質問が次に何を言うのか知っているかのように振る舞っているのです。宣教師の目を見ると，目の奥のずーっと先に人影があり，その人が質問の答えを出しているような錯覚にとらわれました。「これでは負けてしまう，この次は怒らせるような口調で難しい言葉を使っ

て退散させよう」と作戦を変えても，彼らはいつも同じ優しいまなざしで応対してくれるのです。

この世に神様は絶対いない，と強く信じているわたしですから，負けるわけにはいきません。建設会社の土木担当技術者として北海道から関東までの至る所で作業所の長として100人以上の人々を号令一つで従わせ，従えない者は有無を言わせず首にし，高慢を通り越して傲慢の塊であったわたしでした。仕事だけをきちんとすれば私生活の乱れなどお構いなし，「家族を大事にする」などは後で知ったこと，家族はそのために幾度泣いても我関せずでした。

それでも少しずつレッスンは進み，やがて，神様の言葉に従わないで罪を背負ったままこの世を去ったなら星の栄えの世界で独りで生活を送らなければならない，と教えられました。そのとき「もしこの教えがほんとうであったなら，わたしは間違いなく苦しみに遭い，永遠の後悔を抱いて生きなければならない。今はまだ偽りを暴けないでいるが，人間が作った人間のための宗教であるならば必ず間違いが見つかるだろう。しかしもし間違いが見つけられないときには，この教えを信じてみよう」と初めて心が少しだけ開いたのです。

我が家に来る宣教師は，飲み物やおやつを出しても，時々口にしないことがありました。今思うと，彼らはわたしのために断食し祈ってくれていたのです。わたしの質問攻めのために，夜の11時になることも度々あり，アパートに歩いて帰るならば1時間以上かかるので，彼らはしばしば「反抗的な求道者」の車で送られたのです。

中村ご夫妻

「知恵の言葉」のレッスンが終わったとき，わたしは『モルモン書』を読んでいました。でも何が書いてあるのか理解できませんでした。それでも神様は少しずつ御霊を与えて，聖文が真実であることを教えてくれたのです。「知恵の言葉」を守ろうと決心し実行していたときの苦しさは言葉に言い表すことができません。1週目から2週目がピークで，酒，たばこ，コーヒー，お茶のない生活，会社で飲む昆布茶のまずいこと，マージャン，パチンコができない寂しさ，寿司屋で食べるお茶抜きの寿司のまずさ，禁断症状の苦しさで，何度やめようと思ったことか。

そのとき宣教師はわたしに提案したのです。「中村さんだけを苦しませるわけにはいかない，今日から1週間で腕立て伏せを1,000回やりますから，どうか頑張ってください」と。そして毎日郵便受けに，腕立て伏せの回数を示す正の字を連ねたノートの切れ端を入れてくれたのです。

そのおかげでわたしは誘惑を断ち切ることができました。すべての質問を出し終えた1983年11月30日（45歳）バプテスマを受けました。でもその場に，わたしを教えてくれた宣教師の姿はありませんでした。彼は黙ってアメリカに帰ってしまったのです。それを知ったとき，バプテスマを受ける意味がなくなるほど悲しみと寂しさを覚えました。彼でなければわたしを改宗へ導くことはできなかったと思っております。それほど彼は，わたしに真実を伝えるためにすべての情熱を傾け，断食し祈り求めてくれました。わたしはまだ完全には信じていませんでしたが，教会員であればいつかは彼に会えると，バプテスマの水に入ったのです。

その後会社の同僚や友人に，教会員になってすべての戒めを守ると宣言したときの彼らの驚きといったらありませんでした。「宴会部長とあだ名の付いているおまえが酒をやめられるわけがない，冗談だろう。」「口ではうまいこと言って陰でやっているのだろう。」「どうせすべてをやめてしまうのなら，ついでに人間もやめてしまえ」など，揚げ句の果てに「中村は気狂いになってしまった」とまで陰口される始末でした。我が家はかつてワルどものたまり場であったのに，だれ一人として寄りつかず，わたしは寂しい日々の連続でした。しかし家族だけは喜んでいたのではないでしょうか。わたしの悪行のために何度も離婚を考えていた家内は，わたしが180度変わったのを見て，それから1年後にバプテスマを受け「姉妹」に変わりました。

定年3年前の57歳で，菊地長老のお誘いを受け，神殿宣教師の召しを頂きました。雲の上の人だと思っていたすばらしい指導者とともに，日本一の「聖なる宮」で，自分に不足していた「知識」「知恵」「真理」「愛と思いやり」を主から教えられ，今，健康と経済的な恵みを与えられ「救いの計画」を推し進めるための「勇気と力」「平安と希望」「喜び」そして「清め」を受け，神様に少しずつ近づくことができています。

会社を辞めるとき，多くの人はわたしに「今，辞めたら金銭的に大きな損をする」とか「老後の備えなしでどうするのか」などの忠告を下さいました。しかしわたしは「神の義」を第一に求めるならば，神様がすべてのことを備えてくださると信じております（3ニーファイ13：25-34）。

限りなくサタンに近かったわたしに神様は最強，最善の使者を与えてくださいました。あの神の使い，宣教師によって，今わたしは姉妹とともに福音生活を楽しむことができています。神様は泥の中を這いずり回っていたわたしを，使者を送って救い出してくださったのです。神様やイエス様が生きていて地上に現れ，わたしたちに導きを与えておられることを，どのような者であっても愛してくださっていることをよく知りました。わたしを導いてくださった天の父なる神様や御子イエス・キリスト様に，使者として教え導いてくださったケビン・オークソン元長老に感謝しております。（なかむら・まさのぶ）

すべてをささげる喜び

元神殿長夫人補佐
中村妙子

神様がわたしに福音を与えてくださったのは今から13年前のことです。人生に喜びも希望もなく，自分は価値のない者と思っていたころです。イエス様は物語に出てくる架空の人だと思っていたほどに知識のないわたしでしたが，福音を通して「わたしは神様の子供である」と聞いたとき，トンネルの向こうに光が見えたような喜びがありました。

『モルモン書』は当初は難しくわたしには理解できないだろうと思われました。神様はなぜ，学問のないわたしにも学問のある人にも同じ『モルモン書』を与えられるのだろうと不思議に思いました。しかし，ヤコブ書を読み進んだとき涙が止まらなくなり，「神様がわたしを愛してくださっている」ことをはっきり知りました。学問のないわたしにも，求めるならば主は「御霊」によって理解させてくださることを知ったときから，神様とイエス様についての勉強が始まりました。

自分で選んだ道なのだからという思いから，わたしは仕事を辞め，持てるすべてを主のために使いたいと望むようになりました。祈りと断食と聖典の勉強，教会の奉仕……自ら望んだものの，初めは何かと不平不満を並べ，不従順になるわたしでした。しかし，イエス様の「贖罪」を理解する度合いに応じて難しいと思えたこともできるようになり，神様との関係が深まるにつれてイエス様の贖いに感謝の念がわき上がりました。「従いたい」「すべての行いが感謝を表すものでありたい」「神様とイエス様がわたしを見て悲しまれないように努力したい」と心に決めました。やがて主はわたしに初めての神殿参入の機会を与えてくださいました。何をしたのかよく理解できなかった中で，エンダウメントの最中，一度だけなぜか心にとても喜びがあったことを覚えています。それは後で分かったことですが，奉献の律法の聖約を主と交わしたときでした。

それから神様はわたしたち夫婦にたくさんの祝福を与えられ，神殿宣教師という召しを与えてくださいました。「主の宮」で奉仕をさせていただき，1年と4か月が過ぎました。愛する先祖の霊たちが自分で受けることのできない儀式を一日千秋の思いで待っておられることを肌身で感じ，時間を惜しんで働く中で，先祖の方々の助けと「清め」を頂き，この業が確かにイエス・キリスト様の「尊い贖いの業」であることの証を強めることができました。神殿の儀式の一つ一つの言葉を通じ「御霊」によって与えられる喜びは，この世の事柄からは知ることのできない「喜びと平安」です。わたしはジョセフ・スミスの「小羊は生きておられる」（教義と聖約76：22）という証に限りなく喜びを覚え，神様とイエス・キリスト様の愛と哀れみに心よりへりくだり感謝申し上げます。（なかむら・たえこ）

主の御霊に貫かれ

元神殿宣教師
吉岡公夫

神殿宣教師に召されてからのこの1年，参入する方々の信仰深く献身的な奉仕の姿を見，また純粋な証を聞く度に胸の熱くなる思いを感じ，ただただ頭の下がる思いを感じてきました。そして，よりいっそう努力をしようと決意するのでした。

以前，司式者の責任を頂いたときのことです。前に立ったとき，頭のてっぺんから顔から胸そしてついには足のつま先まで主の御霊が注がれて体全体が熱くなりました。何ともいえない温かさと平安そして喜びで満たされ，自分の体がまるで自分の体でないような感覚になりました。

また，別の機会にも，御霊が頭のてっぺんから次第に体全体に注がれ，燃えるような感覚になりました。そして，亡くなった方への親しみがわいてきたのでした。儀式の間，ずっと落ちついて平安と喜びに満たされて過ごしました。イエス・キリストの聖めがなければ，わたしたちは心に平安が得られないことを証します。

わたしたちは，神殿の内外どこにあっても常に主の豊かな恵みの中で生活させていただいております。イエス・キリストの贖いに心から感謝します。どのような方も神殿の儀式なくしては昇栄できないことを証します。（よしおか・きみお）

先祖と喜びを共にして

元神殿宣教師
吉岡美津子

ハワイ神殿で永遠の夫婦の結び固めを受ける予定のほんの数週間前，兄弟が交通事故に遭い，2か月間絶対安静という重傷を負ってしまいました。しかし，奇跡的に回復し，そこに主の愛と力が注がれたことを強く感じました。そうして予定どおりに受けた念願の結び固めでは，言葉では言い尽くせないほどの感動と喜びを味わいました。そのときに，将来神殿において夫婦で奉仕しようと心に決めました。そして，この度神殿宣教師に召され，奉仕する機会を得て心から喜んでおります。

神殿宣教師として今回2度目の奉仕をされた吉岡ご夫妻

最近，日本の古いキリシタンのバプテスマを受けました。わたしはその方がほんとうに喜んでおられることを強く感じ，水の中から出たくないという気持ちでした。また，結び固めでは，キリシタンの人々が感謝と喜びに満たされていることを強く感じて，思わず涙することが度々ありました。亡くなられた方が儀式を受けるのを長く待っておられたことをよく感じます。これからも神殿に参入できるように健康に注意しながら頑張りたいと思います。神殿はわたしの大好きな所であり，そして最も大切な所です。

神殿が主の宮であり，イエス・キリストの福音がこの世の悪に打ち勝つ力であることを証しします。（よしおか・みつこ）

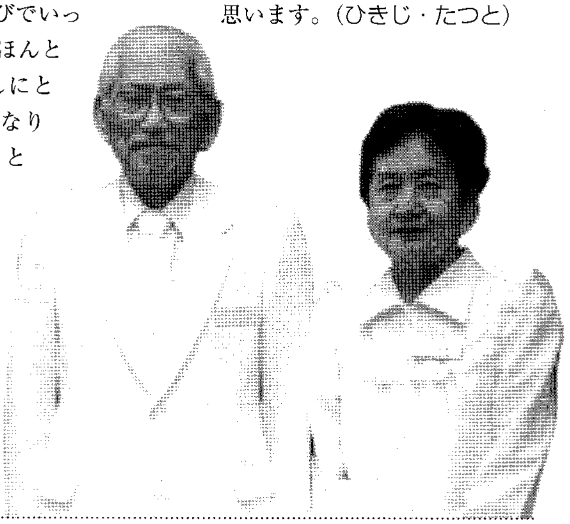
神殿は先祖との霊的な交流の場

元神殿宣教師
引寺辰人

神殿において生者と死者の霊的な交流が頻繁に行われる奇しき御業のすばらしさに日々驚いています。

また，近ごろは家族ファイルで直接儀式を行う人が増えており大変よい傾向だと思っています。ただ，一方で長い時間神殿ファイルで儀式を受ける順番を待っている先祖の方々が大勢いるのも事実です。わたし自身も先年，神殿ファイルで提出した親族の系図が気になっていました。そんなある日，割り当てを受けて奉仕をしていた長老が「引寺長老，ちょっとここを代わってください」と言うので快く引き受けました。すると，そこにはこれから儀式を受ける義父の名前があったのです。一瞬目を疑いました。しかし，儀式を受けることを義父が知らせてくれたのだと思った瞬間，込み上げてくる感動で目頭が熱くなりました。そして，ほかの親族も儀式を受けるはずだと思い，調べてみました。すると思ったとおり続々と24人の懐かしい名前が出てきたのです。わたしの胸は喜びでいっぱいになりました。この日はほんとうに，先祖にとってもわたしにとっても喜びにあふれた１日となりました。思えばあの「ちょっと代わって」の一言は義父の思いが御霊を通してあの長老に及んだ奇しき出来事だったと思うのです。

義父の心はわたしへ，わたしの心は義父へ確かに通じるということがこの経験によって分かりました。このことはわたしの心に長くとどまって信仰の糧となることでしょう。これを機会にわたしはもう一度系図を見直して一人でも多くの先祖の名前を神殿に送り，喜びを分かち合いたいと思います。わたしたち夫婦は，この神殿奉仕を人生の価値ある業績として家族の記録に書き加えておきたいと思います。（ひきじ・たつと）



引寺ご夫妻

奉仕によって，自分の賜物を知る

元神殿宣教師
引寺澄子

神殿宣教師として召されてもうすぐ１年が過ぎようとしています。これまでの１年を振り返って感じることは，主に仕え，主のそばで生活するなかに煩い事や心配事がないということです。

この宣教師の召しを受けるに当たっては，後に残してくる家族のことでいろいろ心配することがありました。しかし，主とそして先祖が，残してきた留守家族を守ってくださっていることを感じ，その心配もすぐになくなりました。神殿での生活に，重荷は一つとしてありません。いつも主の御霊を受けて生活し，働くことができます。時には，自分の弱さを感じてがっかりすることもありますが，神殿の壁に掛けてあるゲツセマネの園で祈るイエスさまを見，イエス様がわたしにしてくださったことを思い出すとき，わたしは再び力を得ることができます。

神殿で奉仕して感じるもう一つのことは，先祖や参入者のために働くことによって自分自身が成長し，進歩していくということです。わたしは，南米のボリビアで生まれ，9歳までそこで育ちました。そのため，スペイン語はわたしにとって大変なじみのある言葉でしたが，日本に帰って来てからのこの60年近くまったくスペイン語を話しませんでしたので，すっかり文法も単語も忘れていました。しかし，スペイン語を話す参入者を助けるという神殿長からの勧めを受けたこともあって，もう一度スペイン語を学ぶことにしました。スペイン語の聖典も一生懸命読みました。すると，自分でも驚くほどにスペイン語が分かるようになっていったのです。70歳を過ぎた自分に，このような力があるとはほんとうに驚きです。主の御霊の助けを頂いて才能を伸ばす機会が与えられ，そしてそれを使って奉仕できることに心から感謝しています。

神殿が天の御父と御子が住まわれる聖なる場所であり，永遠の真理を享受できる宮であることを心から証いたします。（ひきじ・すみこ）

神殿からもたらされる祝福

先祖への大きなプレゼント

横浜ステークの会員たち，3か月で2,248枚の記録を提出

この夏，横浜ステークでは家族歴史の探求と神殿参入が呼びかけられた。会員たちは心を一つにしてそれにこたえ，わずか3か月の間に2,248枚の家族の記録を提出，東京神殿では空前の規模での団体参入が実現した。

死者の霊に心を向けて儀式を受ける

横浜第一ワード
勝政英人

「ステークの皆様に1,200枚の家族の記録を提出するようにお願いしましたが，何枚集まったと思いますか？」菊地神殿長夫妻を迎えてのファイヤサイドでずっしりと積み重ねられた家族の記録の束を抱えて遠藤ステーク会長が言いました。菊地神殿長が任期を終えられるに当たり，感謝の気持を込めてステークで何かできないかと思い，考えついたのが家族の記録の提出だったのです。

続けて遠藤ステーク会長が「ここには目標の1,200枚をはるかに上回る1,900枚以上の家族の記録があります」と言った途端，会場の聖徒たちから歓声が起こりました。それはまるで，死者の霊がともに喜び合っているかのような喜びと驚きの響きでした。ファイヤサイドが行われている間にも提出が相次ぎ，新たに137枚が加えられ，全部で2,111枚の家族の記録が菊地神殿長ご本人に手渡されました。その後もこの勢いは続き，8月の終わりのステーク団体参入には合計2,248枚もの家族の記録が提出されました。会員に呼びかけてから3か月足らずの出来事でした。

また神殿長は「もし150人がエンダウメントを一度に受けたら，東京神殿でいまだかつてないことです」と，まさに開拓者150周年記念の年にふさわしいチャレンジを与えてくださいました。この言葉にステークは再び燃え，心を一つにして頑張った結果，受け付けが始まる前からロビーは聖徒たちであふれ，結果的に192人が集まりました。この人数なら普通は二つ部屋に分かれるところですが，別の部屋では通常のセッションが行われていたので一つの部屋で受けることになりました。そのため聖徒たちは礼拝堂に全員入りきれず，ドアを開け，廊下にいすとテレビモニターを置いて儀式に臨みました。

儀式では，イエス・キリストの贖い（あがない）と死者の霊に心を向け，ステークの会員の心は一つになりました。それは，すばらしい経験でした。死者への熱い思いを抱いた聖徒たちは，まさに高い所から力を授けられたのです。

神殿の儀式は主の神聖な業であり，神殿が確かに主の宮であることを証（あかし）します。（かつまさ・ひでと　横浜ステーク神殿家族歴史担当高等評議員）

横浜ステークの2,111枚もの家族の記録を受け取る菊地元神殿長夫妻（右）

祈りによって先祖に導かれる

横浜第一ワード
小野田 美恵子

系図に必要な資料は何年も前に集め終わり，これ以上集めることはできないとあきらめていました。しかし，わたしはもっと古い先祖を調べたいという気持ちがいつもありました。そうした折り，菊地神殿長がファイヤサイドで，系図関連の古文書のことをお話しになりました。早速わたしは先祖を古文書で探すため中央図書館に行きました。しかし，そこにあるのは青梅市のものだけで，わたしが必要としていた目黒区のものはなく，がっかりしました。とりあえず，図書館一覧表だけをもらって帰宅しました。何とかして調べたいと思い，一覧表から幾つかの施設へ電話しましたが，そこでは何も分かりませんでした。そこで，神様に祈って別の所に電話をかけてみると親切にほかの所を紹介してくださり，やっとそこで見つけることができました。

念願の系図関連の古文書を見つけられたことに心から感謝したものの，そこからどのように自分の先祖を探したらよいか考えあぐね，天父に尋ねました。すると，具体的な方法が心に浮かび，先祖を記した個所を見つけることができました。そのとき，思わず「あった！」と叫んでしまいました。

先祖の探求を通して，祈ることの大切さと天父は確かに祈りにこたえて

くださるという証（あかし）を得ることができました。これからも祈りと熱意をもって，先祖を探求したいと思います。（おのだ・みえこ　横浜ステーク初等協会第二副会長）

多くの先祖の霊たちとともに

横浜第二ワード
田辺郁子

数年前、主人とわたしはわたしの実家の岡山へ行きました。その際，床の間に掛けてある巻き物に主人は興味を引かれました。巻き物には何代にも及ぶ筒井家の系図が記されていて，お盆のときに掲げるのが慣わしでした。

筒井家の墓は奈良にあります。そこには「筒井」という名の駅もあり，毎年「筒井家同族会」が開かれていることも父から聞きました。興味を持った主人は早速奈良のお寺を訪れ，先祖の系図の資料を受け取り，同族会に入会しました。そのおかげで，わたしは4代の家族の記録は提出しました。しかし，それ以降の記録については受け取った資料の年代があまりにも古く読めない文字が多いことや，わたしたち夫婦は耳が聞こえないことなどが障害となって，長い間手つかずの状態のまま放っておかれました。

そのようなときに，ワードで，家族の記録を400枚提出するという目標が掲げられました。これをきっかけとして，放置してあった記録をひも解き，家族歴史相談員をはじめ多くの兄弟姉妹と主人の助けを借りながら，家族の記録を作成することができました。一生懸命手伝ってくれたある姉妹などはけんしょう炎になったと後で聞きました。そうした多くの方々の助けのおかげで255枚もの家族の記録を提出することができました。

そうして参入した神殿でたくさんの先祖の霊を感じました。そして，一緒に儀式を受けていることをはっきりと感じることができました。

今回，ステークの提案によってこうしたすばらしい経験ができたことに心から感謝しています。（たなべ・いくこ）

家族の記録に話しかけ

横須賀支部
天野 昌代

今まで何度か家族の記録を提出しましたが，その度に，一人一人の存在をとても大切に感じます。名前の読み方の分からない人にふりがなを付けるときも「命名」をするような厳粛な思いで行います。出生年，結婚年が不明で概算するときには，「最初の子供が○○年に生まれているから夫と妻の出生年は○○年ぐらいで……」と家族の記録に話しかけたりします。先祖の名前を書いているときなどは，その人の顔，体格などのイメージがわいてくることもあります。

今回，目標に向けて家族の記録を提出するのは様々状況から不可能だと思っていました。しかし，神様から助けを頂いて先祖の霊に救いのチャンスをもたらすことができました。

これまで資料の漢字の読み方や家族の記録の記入の仕方などを指導してくだっさた兄弟姉妹と資料を探す協力をしてくれた図書館の方々に心から感謝しています。（あまの・まさよ　支部神殿家族歴史相談員）

まず自らの証を強める努力を

横浜中央ワード
宮木一郎

これまで，大祭司が日曜学校の家族歴史クラスにおいて，新会員にその目的や方法を学び実践するように助けてきました。しかし，常々何か強い動機づけが必要であると感じていました。

そのため，今回のステークの提案はまさに新会員の方に家族歴史活動を定着させる絶好の機会だと思いました。ところが，当初なかなかエンジンがかからず，十分な達成ができるのだろうかと思った時期もありました。しかし，家族歴史に関して賜物（たまもの）と証を持った兄弟姉妹の働きに励まされ，新会員の方も教会員歴の長い方も奮起して目標の400枚に対し，500枚を超える家族の記録を完成させることができました。兄弟姉妹の霊的な力の助けを借りて，一致して行うならば道が備えられることを知りました。

毎月，ワードの団体参入が計画されていますが，今回のステーク参入には一人でも多くの兄弟姉妹が参入できるようにさらに入念に声を掛け合いました。そして，総勢192人で受けた神殿の儀式はいつもと違う雰囲気で，まさにここは神様の王国であると感じました。

この計画を通して学んだことは，まず自らの証を強める努力を行うことと，雄々しく人々に積極的に声をかけることの大切さでした。（みやき・いちろう　ワード大祭司グループリーダー）

若きベビーシッターたちの奮闘

横浜第一ワード
清水昭代

ステーク神殿参入の日に，赤ちゃんと子供たち45人のベビーシッターを受け持ったのは18人の兄弟姉妹でした。わたしもその中の一人でしたが，こんなに大勢の子供たちのお世話を無事果たせるかどうか最初は不安でした。実際，初めのうちはてんてこまいでした。そのような中にあって，若い兄弟姉妹の活躍にはすばらしいものがありました。

ある兄弟は，泣いたりけんかしたりしている子供たちを腕に抱いて寝かしつつ，目を覚まさないように腕をほどくタイミングを心得ていました。

かつてはベビーシッターされる側だった姉妹が，いつの間にかお手伝いする側に成長していました。進んで奉仕する青少年に，将来の指導者としての姿を見た思いがしました。

子供たちとの奮闘に全員汗びっしょりになりながらも笑顔を絶やさず穏やかに過ごすことができました。ステークの団体参入の成功の陰には若き兄弟姉妹たちの献身的な働きがありました。わたしは，その後数日間腰痛になりましたが，心満たされた楽しい経験は，証（あかし）を持つ良い機会となりました。（しみず・あきよ　横浜ステーク初等協会会長）

『聖徒の道』1997年度項目別索引

―あ―

愛
慈愛によって強められる　イレイン・L・ジャック　1月105頁
神の証人　ヘンリー・B・アイリング　1月35頁
「心を込めていちばん大切なものを送ります」
リチャード・C・エッジリー　1月70頁
傷ついた出来事を忘れ去る　スーザン・ターネー　6月15頁
大管長会メッセージ――行って，彼らを平原から連れて来なさい
ジェームズ・E・ファウスト　11月2頁
ケビンの誕生日のおくり物　ティモシー・S・ワイト　11月子供10頁
家庭訪問メッセージ――「それらが何のために与えられているのかを常に覚えておきなさい」　12月25頁
アイスランド
アイスランド――今も終わらない英雄伝
ディエーン・ウォーカー　6月34頁
証（「改宗」「信仰」の項も参照）
大管長会メッセージ――証を述べることの大切さ
ジェームズ・E・ファウスト　3月2頁
「すべての国民……が祝福される」　3月7頁
神はこたえてくださる　テリー・リン・ビットナー　5月14頁
世界に宣言する証　ゴードン・B・ヒンクレー　7月97頁
贖い　「イエス・キリスト」，（「悔い改め」の項も参照）
希望を得て奮い立つ　チエコ・N・岡崎　1月103頁
喜びなさい　クエンティン・L・クック　1月32頁
贖い　ラッセル・M・ネルソン　1月39頁
「女よ，なぜ泣いているのか」　ジェームズ・E・ファウスト　1月62頁
永遠の家族　ロバート・D・ヘイルズ　1月72頁
信仰にも行いにもクリスチャンである
ジョセフ・B・ワースリン　1月80頁
「幼い子供たちを見なさい」　ウィリアム・ロルフ・カー　1月92頁
「灰にかえて冠を与え」――キリストの贖罪
ブルース・C・ヘーフェン　4月38頁
霊的な傷を癒す　ジャネット・ウェイト・ベネット　4月8頁
洗われて清くなる　ボイド・K・パッカー　7月9頁
日曜日はクリスマス　ロイス・バーソロミュー　12月24頁
アラブ
聖地の平和
D・ケリー・オグデン，デビッド・B・ガルブレイス　12月20頁
憐れみ（「愛」の項参照）
安息
安息日のためのメモリーボックス　ポーラ・J・ルイス　2月子供13頁
神権定員会と扶助協会における教科課程の大きな変更
ドン・L・シール　12月26頁
アンダーソン，ジョージ・エドワード（関連記事）
ある田舎町の写真家の夢　ネルソン・ウォズワース　6月16頁
アンデス
アンデスの開拓者　アレン・リスター　5月40頁

―い―

イースター（「贖い」の項も参照）
大管長会メッセージ――死に対する勝利
ゴードン・B・ヒンクレー　4月2頁
復活祭の物語　マリータ・シャグ　4月子供8頁
イエス・キリスト（「贖い」の項も参照）
希望を得て奮い立つ　チエコ・N・岡崎　1月103頁
慈愛によって強められる　イレイン・L・ジャック　1月105頁
扶助協会の大いなる鍵の言葉　ジェームズ・E・ファウスト　1月109頁
教室――着実に絶えず成長する力を与える場所
バージニア・H・ピアス　1月11頁
ベテスダの池のキリスト　トーマス・S・モンソン　1月17頁
聖約による結婚　ブルース・C・ヘーフェン　1月29頁
喜びなさい　クエンティン・L・クック　1月32頁
贖い　ラッセル・M・ネルソン　1月39頁
救い主はあなたを頼りにしています
ジョー・J・クリステンセン　1月45頁
「女よ，なぜ泣いているのか」　ジェームズ・E・ファウスト　1月62頁
「いつも御子の御霊を受ける」　ダリン・H・オークス　1月66頁
「心を込めていちばん大切なものを送ります」
リチャード・C・エッジリー　1月70頁
信仰にも行いにもクリスチャンである
ジョセフ・B・ワースリン　1月80頁
主の御声に耳を傾ける　フランシスコ・J・ビーナス　1月90頁
「王国にかかわる平和をもたらす事柄」
ジェフリー・R・ホランド　1月94頁
「すべての国民……が祝福される」　3月7頁
大管長会メッセージ――死に対する勝利
ゴードン・B・ヒンクレー　4月2頁
「灰にかえて冠を与え」――キリストの贖罪
ブルース・C・ヘーフェン　4月38頁
キリストに近づく　アレハンドラ・ヘルナンデス　7月105頁
「愛の神，賛めよ」　ニール・A・マックスウェル　7月12頁
感謝　ジェラルド・L・テーラー　7月38頁
道を示してくれた人々　トーマス・S・モンソン　7月61頁
「あなたはイエス・キリストの友達なの？」
マイケル・グリフィス　11月10頁
わたしたちの主，救い主　12月10頁
イエス・キリストの証人　ダーリン・リスゴー　12月16頁
大管長会メッセージ――感謝の季節
ゴードン・B・ヒンクレー　12月2頁
光と命　ダリン・H・オークス　12月40頁
イエスのようになる
ジェシカと『モルモン書』とロー兄弟
ラレイン・ウィッティア　8月子供4頁
イエスのように――必要とされることを行う　10月子供6頁
生ける預言者の言葉
3月16頁；6月32頁；9月26頁；10月14頁
一致
御霊の力によって聞く　ゴードン・B・ヒンクレー　1月4頁
十二使徒　ボイド・K・パッカー　1月5頁
祈り
主の御声に耳を傾ける　フランシスコ・J・ビーナス　1月90頁
信仰の翼にのって　ビキ・A・グロバーグ　3月28頁
息子が耳を傾けるとき　3月30頁
何度もいりのなさい　パトリシア・P・ピネガー　3月子供2頁
神はこたえてくださる　テリー・リン・ビットナー　5月14頁
どうかルースをお助けください　ルース・ハリス・スワナー　5月26頁
分かち合いの時間――よく思いはかり，いのることにより，正しいことをえらぶ　カレン・アシュトン　6月子供8頁
「わたしの名によって常に父に祈らなければならない」
L・エドワード・ブラウン　7月91頁
きのこ拾い　オルガ・ブルガコバ-ペトレンコ作　9月子供10頁
ぼくのイルカ　アイザック・ピメンテル，エリザベート・サムウェーズ・ゲートナー　10月46頁
戒め（「従順」の項も参照）
信仰にも行いにもクリスチャンである
ジョセフ・B・ワースリン　1月80頁
癒し（「御霊の賜物」の項も参照）
贖い　ラッセル・M・ネルソン　1月39頁
霊的な傷を癒す　ジャネット・ウェイト・ベネット　4月8頁
家庭訪問メッセージ――
「あなたの信仰があなたを救ったのです」　8月25頁
インスティテュート（「教会教育部」の項も参照）
インドネシア
友だちになろう――インドネシアのヨグヤカルタに住む クリスチャン・ネフィー・スハルトとエルナワティ・スハルト　マイルズ・T・ツーアサン　6月子供6頁

―う―

歌
信じ，進まん　K・ニューエル・デイリー　2月22頁
開拓者になろう
ルース・ミューア・ガードナー，バーニャ・Y・ワトキンス　3月子供12頁
かしこい人とおろか者　6月子供5頁
バプテスマを受ける時　ジーン・P・ローラー　9月子供5頁
こはわがあいし
マービン・K・ガードナー，バーニャ・Y・ワトキンス　12月子供4頁

―え―

永遠の命
永遠，わたしたちの行く末　ジェームズ・E・ファウスト　7月21頁
堪え忍び，高く上げられる　ラッセル・M・ネルソン　7月81頁
永遠の家族（「神殿と神殿活動」の項参照）

永遠の見地
永遠，わたしたちの行く末　ジェームズ・E・ファウスト　7月21頁

－お－

教える
教室――着実に絶えず成長する力を与える場所
バージニア・H・ピアス　1月11頁
新任教師のための助け　パトリシア・P・ピネガー　2月28頁
神権定員会と扶助協会における教科課程の大きな変更
ドン・L・シール　12月26頁
おもちゃばこ
おもちゃばこ　2月子供9頁
おもちゃばこ　4月子供12頁
おもちゃばこ――『新約聖書』の人びと　ジャネット・ピーターソン
5月子供13頁
おもちゃばこ　6月子供13頁
おもちゃばこ――グライダーをとばそう　8月子供7頁
おもちゃばこ　9月子供13頁
おもちゃばこ　11月子供5頁
おもちゃばこ――クリスマスのクイズ　12月子供12頁
親の務め（「家族関係」の項も参照）
わたしたちの「心の望みに応じて」
ニール・A・マックスウェル　1月22頁
信仰こめて，一歩ずつ　M・ラッセル・バラード　1月25頁
「それは，片すみで行われたのではない」
ゴードン・B・ヒンクレー　1月57頁
教会の女性　ゴードン・B・ヒンクレー　1月76頁
偉大な幸福の計画を実践する　リチャード・G・スコット　1月84頁
「王国にかかわる平和をもたらす事柄」
ジェフリー・R・ホランド　1月94

－か－

カーボベルデ
カーボベルデに届いた福音の風　アンドリュー・クラーク　4月34頁
改宗　（「信仰」「証」の項も参照）
主の御声に耳を傾ける　フランシスコ・J・ビーナス　1月90頁
「神よ，また逢うまで」　ディエーン・ウォーカー　4月17頁
神はこたえてくださる　テリー・リン・ビットナー　5月14頁
夢が現実になりました　マリア・ロシンカールソドッティル，ディエーン・ウォーカー　6月40頁
「あなたが立ち直ったときには，兄弟たちを力づけてやりなさい」
ロバート・D・ヘイルズ　7月93頁
開拓者（「教会歴史」の項も参照）
信仰こめて，一歩ずつ　M・ラッセル・バラード　1月25頁
御霊の力によって聞く　ゴードン・B・ヒンクレー　1月4頁
援助の手を差し伸べる　ゴードン・B・ヒンクレー　1月97頁
モンゴルの大きな変化　メアリー・ニールセン・クック　2月10頁
信仰こめて，一歩ずつ　ロバート・L・バックマン　2月14頁
信仰の遺産　R・バル・ジョンソン　2月32頁
夢がかなった，香港の聖徒たち
ケリーン・リックス・アダムス　3月34頁
開拓者になろう
ルース・ミューア・ガードナー，バーニャ・Y・ワトキンス　3月子供12頁
恐れを知らぬ女性メアリー・アン　レックス・G・ジェンセン　4月20頁
カーボベルデに届いた福音の風　アンドリュー・クラーク　4月34頁
半ペニーと真珠　ジェリー・ボローマン　5月28頁
おお，開拓者よ！
近年発表された，開拓者をたたえる芸術作品から　5月34頁
アンデスの開拓者　アレン・リスター　5月40頁
ある田舎町の写真家の夢　ネルソン・ウォズワース　6月16頁
永遠，わたしたちの行く末　ジェームズ・E・ファウスト　7月21頁
「わたしは神の力によって何事でもすることができる」
ジャック・H・ゴーズリンド　7月46頁
道を示してくれた人々　トーマス・S・モンソン　7月61頁
旅について何も恐れる必要はない　M・ラッセル・バラード　7月68頁
信仰こめて，一歩ずつ――開拓者の大いなる旅路　7月71頁
信仰に忠実に　ゴードン・B・ヒンクレー　7月74頁
信仰こめて，一歩ずつ　ボニー・D・パーキン　7月98頁
時間をかけて歩き続ける　バージニア・H・ピアス　7月100頁
現代の開拓者　ジャネット・ヘイルズ・ベッカム　7月106頁
人は皆開拓者です　トーマス・S・モンソン　7月109頁
召しにこたえる　ジャック・H・ゴーズリンド　8月10頁
チェコの聖徒たちが迎えた輝ける日　カーリル・メール　9月10頁
イジー・スネデルフレル，オルガ・スネデルフレル夫妻――
チェコの開拓者夫婦の足跡　マービン・K・ガードナー　9月16頁
ハネムーン・トレイル　デビッド・E・ソレンセン　10月16頁
パレンケで再開された主の業　マービン・K・ガードナー　10月34頁
カンボジアに根を下ろす福音
リランド・D・ホワイト，ジョイス・B・ホワイト　10月40頁
大管長会メッセージ――行って，彼らを平原から連れて来なさい
ジェームズ・E・ファウスト　11月2頁
わたしは開拓者　キャサリン・ラモニーノ・トルプ，ドン・O・トルプ
12月46頁
回復（「最初の示現」の項も参照）
十二使徒　ボイド・K・パッカー　1月5頁
「心を込めていちばん大切なものを送ります」
リチャード・C・エッジリー　1月70頁
大管長会メッセージ――
「僕ジョセフを器として，神は何とすばらしいものを造り出されたことか！」　ゴードン・B・ヒンクレー　2月2頁
善を行うように導く御霊　L・トム・ペリー　7月78頁
家族関係（「結婚」「神権」の項も参照）
神の証人　ヘンリー・B・アイリング　1月35頁
「それは，片すみで行われたのではない」
ゴードン・B・ヒンクレー　1月57頁
永遠の家族　ロバート・D・ヘイルズ　1月72頁
家路　ジェニファー・ガント・アプシャー　4月32頁
伝道中の帰郷　スリー・デビ・コムー　5月8頁
子供たちの霊を養う　パトリシア・P・ピネガー　7月14頁
感謝　ジェラルド・L・テーラー　7月38頁
「彼女は母親だからさ」　ジェフリー・R・ホランド　7月40頁
すべてのものをなくした後に　11月12頁
家族歴史（「神殿と神殿活動」の項も参照）
夢が現実になりました　マリア・ロシンカールソドッティル，ディエーン・ウォーカー　6月40頁
布につづる時の流れ　ペトレア・ケリー　8月34頁
家庭
「それは，片すみで行われたのではない」
ゴードン・B・ヒンクレー　1月57頁
偉大な幸福の計画を実践する　リチャード・G・スコット　1月84頁
家庭訪問メッセージ
最善の賜物を求める　2月24頁
信仰と忍耐　3月25頁
真理を識別する　4月25頁
キリストがおられることを知る　5月25頁
従順を通して得られる知恵　6月25頁
「あなたの信仰があなたを救ったのです」　8月25頁
預言の賜物　9月25頁
御霊の力によるコミュニケーション　10月25頁
「知識の言葉」　11月25頁
「それらが何のために与えられているのかを常に覚えておきなさい」
12月25頁
わたしたちの「心の望みに応じて」
ニール・A・マックスウェル　1月22頁
信仰に堅くつく　アイリーン・H・クライド　1月100頁
神（「天父」の項も参照）
感謝
慈愛によって強められる　イレイン・L・ジャック　1月105頁
感謝　ジェラルド・L・テーラー　7月38頁
深い悲しみのさなかにも
スベインボルグ・グードムンズドッティア　12月44頁
カンボジア
カンボジアに根を下ろす福音
リランド・D・ホワイト，ジョイス・B・ホワイト　10月40頁
管理の職（「責任」の項も参照）
牧場鳥　R・バル・ジョンソン　6月42頁
「真理を守り」　ジョセフ・B・ワースリン　7月17頁
「監督，助けて！」　ダリン・H・オークス　7月25頁

－き－

儀式（「聖約」の項も参照）
実在する力　ピーター・ポマート　6月44頁
贖い主イエス・キリスト　リチャード・G・スコット　7月65頁
犠牲（「ささげ物」の項も参照）

召しにこたえる　ジャック・H・ゴーズリンド　8月10頁
ハネムーン・トレイル　デビッド・E・ソレンセン　10月16頁
奇跡（「御霊の賜物」の項も参照）
「わたしは神の力によって何事でもすることができる」
ジャック・H・ゴーズリンド　7月46頁
希望
希望を得て奮い立つ　チエコ・N・岡崎　1月103頁
虐待
「それは，片すみで行われたのではない」
ゴードン・B・ヒンクレー　1月57頁
教会の女性　ゴードン・B・ヒンクレー　1月76頁
逆境
聖約による結婚　ブルース・C・ヘーフェン　1月29頁
「女よ，なぜ泣いているのか」　ジェームズ・E・ファウスト　1月62頁
「王国にかかわる平和をもたらす事柄」
ジェフリー・R・ホランド　1月94頁
援助の手を差し伸べる　ゴードン・B・ヒンクレー　1月97頁
試練には必ず目的があります
エディマール・ボテロ・スペルティ　2月30頁
「愛の神，賛めよ」　ニール・A・マックスウェル　7月12頁
主の平安　デニス・E・シモンズ　7月36頁
旅について何も恐れる必要はない　M・ラッセル・バラード　7月68頁
すべてのものをなくした後に　11月12頁
深い悲しみのさなかにも
スベインボルグ・グードムンズドッティア　12月44頁
教育
モルモンメッセージ――若いうちに知恵を得なさい　9月33頁
教会教育部
アイトゥタキの10代の少年少女
マージョリー・ハンフリーズ，ジーネット・ウェイト・ベネット　2月46頁
教会の集会
安息日のためのメモリーボックス　ポーラ・J・ルイス　2月子供13頁
成功する話し方教室　ダーリン・リスゴー　4月26頁
教会の組織
「模範となりなさい」　トーマス・S・モンソン　1月52頁
「それは，片すみで行われたのではない」
ゴードン・B・ヒンクレー　1月57頁
援助の手を差し伸べる　ゴードン・B・ヒンクレー　1月97頁
扶助協会の大いなる鍵の言葉　ジェームズ・E・ファウスト　1月109頁
信仰に忠実に　ゴードン・B・ヒンクレー　7月74頁
教会の召し
「監督，助けて！」　ダリン・H・オークス　7月25頁
聖なる召し　モンティ・J・ブラフ　7月31頁
「小さな石」　イレイン・L・ジャック　7月85頁
教会歴史（「開拓者」の項も参照）
たんけん――クモラの宝を探し求めて
シェリー・ジョンソン　2月子供10頁
歌　開拓者になろう
ルース・ミューア・ガードナー，バーニャ・Y・ワトキンス　3月子供12頁
たんけん――聖徒たちの集合　シェリー・ジョンソン　3月子供14頁
たんけん――主の宮　シェリー・ジョンソン　5月子供14頁
たんけん――ミズーリでの迫害　シェリー・ジョンソン　6月子供10頁
信仰こめて，一歩ずつ――開拓者の大いなる旅路　7月71頁
ノーブーのティーンエージャー，ヘンリー・サンダーソン
ウィリアム・G・ハートリー　8月16頁
心に留めますか，それとも無視しますか
デール・S・コックス　8月20頁
たんけん――偉大な町の建設　シェリー・ジョンソン　8月子供2頁
たんけん――ノーブーに建てた神殿　シェリー・ジョンソン　9月子供2頁
たんけん――アイオワ横断　シェリー・ジョンソン　10月子供13頁
たんけん――大平原の横断　シェリー・ジョンソン　11月子供2頁
たんけん――デゼレト　シェリー・ジョンソン　12月子供10頁

―く―

悔い改め（「贖い」「罪」の項も参照）
「女よ，なぜ泣いているのか」　ジェームズ・E・ファウスト　1月62頁
「いつも御子の御霊を受ける」　ダリン・H・オークス　1月66頁
信仰にも行いにもクリスチャンである
ジョセフ・B・ワースリン　1月80頁
「王国にかかわる平和をもたらす事柄」
ジェフリー・R・ホランド　1月94頁
分かち合いの時間――くいあらため，わるい行いを正しい行いにかえること　カレン・アシュトン　4月子供10頁
洗われて清くなる　ボイド・K・パッカー　7月9頁
備えはできているだろうか　マウロ・プロペルツィー　8月32頁
真剣に考えるべき事柄　リチャード・G・スコット　9月28頁
クック諸島
アイトゥタキの10代の少年少女
マージョリー・ハンフリーズ，ジーネット・ウェイト・ベネット　2月46頁
苦難（「逆境」「罪」の項参照）
クリスマス
クリスマスコート　シェリル・ボイル　12月19頁
日曜日はクリスマス　ロイス・バーソロミュー　12月24頁
大管長会メッセージ――感謝の季節
ゴードン・B・ヒンクレー　12月2頁
クリスマスの新しい伝統　ダグラス・プレゼンサ　12月8頁
思い出のクリスマスツリー　ブロイ・リチャーズ　12月子供14頁
「大きな喜び」大管長会　12月子供2頁
ちいさなみんなのために――クリスマスの星
レベッカ・トッド　12月子供6頁
クリスマスクラフト
クリスマスの工作――ピカピカ光るクリスマスの絵
M. H. マーティン　12月子供13頁
クロウチル，ルカーシュ（関連記事）
友だちになろう――チェコ共和国，プラハに住むルカーシュ・クロウチル
コーリス・クレイトン　9月子供14頁

―け―

啓示（「聖霊」「預言者」の項も参照）
教室――着実に絶えず成長する力を与える場所
バージニア・H・ピアス　1月11頁
預言の霊　L・アルディン・ポーター　1月9頁
「それは，片すみで行われたのではない」
ゴードン・B・ヒンクレー　1月57頁
人の声ではなく　M・ラッセル・バラード　3月46頁
個人の啓示――賜物，試し，約束　ボイド・K・パッカー　6月8頁
聖なる召し　モンティ・J・ブラフ　7月31頁
善を行うように導く御霊　L・トム・ペリー　7月78頁
芸術
おお，開拓者よ！　近年発表された，開拓者をたたえる芸術作品から
5月34頁
ある田舎町の写真家の夢　ネルソン・ウォズワース　6月16頁
布につづる時の流れ　ペトレア・ケリー　8月34頁
「神の栄光にひたすら目を向けて」　ベス・デーリー　8月48頁
開拓者になろう　11月子供14頁
ジョセフ兄弟への賛辞　12月33頁
ゲーム
開拓者の旅ゲーム　レベッカ・トッド　10月子供8頁
開拓者の旅ゲームの遊び方　レベッカ・トッド　10月子供16頁
結婚（「聖約」「家族関係」「神殿と神殿活動」の項も参照）
聖約による結婚　ブルース・C・ヘーフェン　1月29頁
偉大な幸福の計画を実践する　リチャード・G・スコット　1月84頁
神殿結婚を待ち望む　パトリシア・E・マッキニス　4月28頁
神が定められたパートナー　S・マイケル・ウィルコックス　9月8頁
ハネムーン・トレイル　デビッド・E・ソレンセン　10月16頁
ケベック
わたしは忘れない　リチャード・M・ロムニー　8月40頁
現世（「死」の項も参照）
贖い　ラッセル・M・ネルソン　1月39頁
謙遜
主の御声に耳を傾ける　フランシスコ・J・ビーナス　1月90頁

―こ―

幸福
偉大な幸福の計画を実践する　リチャード・G・スコット　1月84頁
「幼い子供たちを見なさい」　ウィリアム・ロルフ・カー　1月92頁
質疑応答――わたしは教会員です。
それなのに，なぜあまり幸福ではないのでしょうか　5月22頁
子供（「家族関係」の項も参照）
子供たちの霊を養う　パトリシア・P・ピネガー　7月14頁
改宗者と若い男性について　ゴードン・B・ヒンクレー　7月56頁
コミュニケーション
「わたしの名によって常に父に祈らなければならない」
L・エドワード・ブラウン　7月91頁

家庭訪問メッセージ――御霊の力によるコミュニケーション　10月25頁

ーさー

再活発化（「フェローシッピング」の項も参照）
試練には必ず目的があります
エディマール・ボテロ・スペルティ　2月30頁
もう一度，快く迎えてくれるかしら
アウレリア・S・ディエソン　5月21頁
彼らはやって来る　トーマス・S・モンソン　7月53頁
群れに戻る　8月26頁
最初の示現（「スミス，ジョセフ」の項も参照）
預言の霊　L・アルディン・ポーター　1月9頁
「心を込めていちばん大切なものを送ります」
リチャード・C・エッジリー　1月70頁
「麗しき朝よ」――ジョセフ・スミスの最初の祈りと最初の示現
カーロス・E・エイシー　4月10頁
歌　こはわがあいし
マービン・K・ガードナー，バーニャ・Y・ワトキンス　12月子供4頁
ささげ物（「奉献」「犠牲」「什分の一」の項も参照）
「小さな石」　イレイン・L・ジャック　7月85頁
サンダーソン，ヘンリー（関連記事）
ノーブーのティーンエージャー，ヘンリー・サンダーソン
ウィリアム・G・ハートリー　8月16頁
賛美歌（「歌」の項参照）

ーしー

死（「現世」の項も参照）
希望を得て奮い立つ　チエコ・N・岡崎　1月103頁
家路　ジェニファー・ガント・アブシャー　4月32頁
深い悲しみのさなかにも
スペインボルグ・グードムンズドッティア　12月44頁
慈愛（「愛」の項参照）
質疑応答
どうしたら，心の中から悪い言葉を一掃できるでしょうか　2月25頁
わたしは教会員です。
それなのに，なぜあまり幸福ではないのでしょうか　5月22頁
使徒
十二使徒　ボイド・K・パッカー　1月5頁
指導者を支持する
成功する話し方教室　ダーリン・リスゴー　4月26頁
「監督，助けて！」　ダリン・H・オークス　7月25頁
神権の力　ジェームズ・E・ファウスト　7月48頁
イエス・キリストの証人　ダーリン・リスゴー　12月16頁
従順（「戒め」の項も参照）
永遠の家族　ロバート・D・ヘイルズ　1月72頁
「王国にかかわる平和をもたらす事柄」
ジェフリー・R・ホランド　1月94頁
従順によりもたらされる平安　レックス・D・ピネガー　4月子供7頁
助言の中に安全を見いだす　ヘンリー・B・アイリング　7月28頁
不変の基本原則　デビッド・B・ヘイト　7月43頁
分かち合いの時間――イエスはわたしに，何をするようのぞんでいらっしゃるでしょう　カレン・アシュトン　9月子供8頁
什分の一（「ささげ物」の項も参照）
「模範となりなさい」　トーマス・S・モンソン　1月52頁
「それは，片すみで行われたのではない」
ゴードン・B・ヒンクレー　1月57頁
祝福師の祝福
祝福師の祝福を受けた日　バレリア・サレルノ　10月20頁
純潔
真剣に考えるべき事柄　リチャード・G・スコット　9月28頁
障害
思いがけないバプテスマ　バート・L・アンダーセン　10月6頁
盲人から学んだこと　ローヘリン・セリス　10月38頁
正直（「誠実」の項も参照）
レース　ドナ・ガマッシュ作　6月子供14頁
自転車が教えてくれたこと　アルマ・J・イエーツ作　8月子供10頁
正直に事を行う　アラン・V・ファンク　11月28頁
小さなお友だちへ――トーマス・S・モンソン長老　11月子供6頁
女性
教会の女性　ゴードン・B・ヒンクレー　1月76頁
偉大な幸福の計画を実践する　リチャード・G・スコット　1月84頁
信仰に堅くつく　アイリーン・H・クライド　1月100頁
慈愛によって強められる　イレイン・L・ジャック　1月105頁
扶助協会の大いなる鍵の言葉　ジェームズ・E・ファウスト　1月109頁
初等協会
分かち合いの時間――わたしの福音の標準
カレン・アシュトン　2月子供14頁
新任教師のための助け　パトリシア・P・ピネガー　2月28頁
自立
自立　ローラディーン・リンゼイ　10月22頁
神権
ベテスダの池のキリスト　トーマス・S・モンソン　1月17頁
「走っても疲れることがなく」　L・トム・ペリー　1月42頁
救い主はあなたを頼りにしています
ジョー・J・クリステンセン　1月45頁
正直――道徳の羅針盤　ジェームズ・E・ファウスト　1月48頁
実在する力　ピーター・ポマート　6月44頁
不変の基本原則　デビッド・B・ヘイト　7月43頁
「わたしは神の力によって何事でもすることができる」
ジャック・H・ゴーズリンド　7月46頁
神権の力　ジェームズ・E・ファウスト　7月48頁
神が定められたパートナー　S・マイケル・ウィルコックス　9月8頁
神権定員会と扶助協会における教科課程の大きな変更
ドン・L・シール　12月26頁
信仰（「改宗」「証」の項も参照）
預言の霊　L・アルディン・ポーター　1月9頁
信仰こめて，一歩ずつ　M・ラッセル・バラード　1月25頁
信仰にも行いにもクリスチャンである
ジョセフ・B・ワースリン　1月80頁
信仰に堅くつく　アイリーン・H・クライド　1月100頁
信仰こめて，一歩ずつ　ロバート・L・バックマン　2月14頁
家庭訪問メッセージ――信仰と忍耐　3月25頁
信仰の翼にのって　ビキ・A・グロバーグ　3月28頁
50年間守り続けた信仰　ホンザ・トムサ　6月46頁
「真理を守り」　ジョセフ・B・ワースリン　7月17頁
助言の中に安全を見いだす　ヘンリー・B・アイリング　7月28頁
旅について何も恐れる必要はない　M・ラッセル・バラード　7月68頁
信仰こめて，一歩ずつ――開拓者の大いなる旅路　7月71頁
信仰に忠実に　ゴードン・B・ヒンクレー　7月74頁
信仰こめて，一歩ずつ　ボニー・D・パーキン　7月98頁
現代の開拓者　ジャネット・ヘイルズ・ベッカム　7月106頁
ザイールから主の宮へ　クテカ・カムレテ　8月8頁
大管長会メッセージ――涙，試練，信頼，証
トーマス・S・モンソン　9月2頁
ぼくのイルカ　アイザック・ピメンテル，エリザベート・サムウェーズ・ゲートナー　10月46頁
神殿と神殿活動（「家族歴史」「結婚」の項も参照）
神殿への旅　ジュリア・ハーデル　2月8頁
神殿結婚を待ち望む　パトリシア・E・マッキニス　4月28頁
いつもの木曜日　ガブリエル・ラローズ　5月38頁
永遠，わたしたちの行く末　ジェームズ・E・ファウスト　7月21頁
ザイールから主の宮へ　クテカ・カムレテ　8月8頁
ハネムーン・トレイル　デビッド・E・ソレンセン　10月16頁
思いがけないバプテスマ　バート・L・アンダーセン　10月6頁
モルモンメッセージ――天国への入り口　11月15頁
真理
正直――道徳の羅針盤　ジェームズ・E・ファウスト　1月48頁
「模範となりなさい」　トーマス・S・モンソン　1月52頁
家庭訪問メッセージ――真理を識別する　4月25頁

ーすー

救いの計画
「いつも御子の御霊を受ける」　ダリン・H・オークス　1月66頁
偉大な幸福の計画を実践する　リチャード・G・スコット　1月84頁
重荷を分け合う　ジャネット・トーマス　5月10頁
「愛の神，賛めよ」　ニール・A・マックスウェル　7月12頁
贖い主イエス・キリスト　リチャード・G・スコット　7月65頁
スネデルフレル，イジー（関連記事）
イジー・スネデルフレル，オルガ・スネデルフレル夫妻――
チェコの開拓者夫婦の足跡　マービン・K・ガードナー　9月16頁
スミス，ジョセフ（「教会歴史」「最初の示現」「回復」の項も参照）
「模範となりなさい」　トーマス・S・モンソン　1月52頁
大管長会メッセージ――「僕ジョセフを器として，神は何とすばらしいものを造り出されたことか！」

ゴードン・B・ヒンクレー 2月2頁
たんけん――クモラの宝を探し求めて
シェリー・ジョンソン 2月子供10頁
人の声ではなく　M・ラッセル・バラード 3月46頁
「麗しき朝よ」――ジョセフ・スミスの最初の祈りと最初の示現
カーロス・E・エイシー 4月10頁
道を示してくれた人々　トーマス・S・モンソン 7月61頁
大管長会メッセージ――感謝の季節
ゴードン・B・ヒンクレー 12月2頁
ジョセフ兄弟への賛辞 12月33頁

ーせー

聖餐
「いつも御子の御霊を受ける」　ダリン・H・オークス 1月66頁
霊的な傷を癒す　ジャネット・ウェイト・ベネット 4月8頁
日曜日はクリスマス　ロイス・バーソロミュー 12月24頁
誠実
レース　ドナ・ガマッシュ作 6月子供14頁
証書と同じ効力　シェルドン・F・チャイルド 7月34頁
青少年
救い主はあなたを頼りにしています
ジョー・J・クリステンセン 1月45頁
援助の手を差し伸べる　ゴードン・B・ヒンクレー 1月97頁
大管長会メッセージ――わたしたちの信仰
トーマス・S・モンソン 5月2頁
モルモンメッセージ――若いうちに知恵を得なさい 9月33頁
聖地
聖地の平和
D・ケリー・オグデン，デビッド・B・ガルブレイス 12月20頁
性の役割
偉大な幸福の計画を実践する　リチャード・G・スコット 1月84頁
神が定められたパートナー　S・マイケル・ウィルコックス 9月8頁
聖文研究
天の近くで　ウィリー・ボルドマン，リチャード・M・ロムニー 3月10頁
いつもの木曜日　ガブリエル・ラローズ 5月38頁
プレッシャーからの開放　テレサ・ハンセーカー 11月33頁
聖約
神の証人　ヘンリー・B・アイリング 1月35頁
永遠の家族　ロバート・D・ヘイルズ 1月72頁
援助の手を差し伸べる　ゴードン・B・ヒンクレー 1月97頁
「真理を守り」　ジョセフ・B・ワースリン 7月17頁
証書と同じ効力　シェルドン・F・チャイルド 7月34頁
堪え忍び，高く上げられる　ラッセル・M・ネルソン 7月81頁
わたしは忘れない　リチャード・M・ロムニー 8月40頁
聖霊（「啓示」「御霊の賜物」の項も参照）
十二使徒　ボイド・K・パッカー 1月5頁
預言の霊　L・アルディン・ポーター 1月9頁
教室――着実に絶えず成長する力を与える場所
バージニア・H・ピアス 1月11頁
神の証人　ヘンリー・B・アイリング 1月35頁
「いつも御子の御霊を受ける」　ダリン・H・オークス 1月66頁
信仰にも行いにもクリスチャンである
ジョセフ・B・ワースリン 1月80頁
「栄光にあずかる者」　イレイン・L・ジャック 1月87頁
「幼い子供たちを見なさい」　ウィリアム・ロルフ・カー 1月92頁
騒音の中で　ジェンス・ジェンセン，ポール・コナーズ 3月26頁
みたまはぼくに勇気をあたえてくれました
グベンガ・オーナラジャ 5月子供6頁
大管長会メッセージ――「霊は人を生かす」
トーマス・S・モンソン 6月2頁
個人の啓示――賜物，試し，約束
ボイド・K・パッカー 6月8頁
主の平安　デニス・E・シモンズ 7月36頁
善を行うように導く御霊　L・トム・ペリー 7月78頁
世界に広がる教会
忠実かつ誠実に　ゴードン・B・ヒンクレー 7月4頁
全世界に開かれた伝道部 9月44頁
責任（「管理の職」の項も参照）
小さなお友だちへ――アウグスト・A・リム長老 2月子供4頁
ナタリーの約束　ジェイミー・マッコーマー作 2月子供6頁
セミナリー（「教会教育部」の項参照）
選択の自由
わたしたちの「心の望みに応じて」
ニール・A・マックスウェル 1月22頁
「それは，片すみで行われたのではない」
ゴードン・B・ヒンクレー 1月57頁
希望を得て奮い立つ　チエコ・N・岡崎 1月103頁
ちいさなみんなのために――せいぎをえらびましょう
コーリス・クレイトン 3月子供10頁
分かち合いの時間――せんたくとけっか
カレン・アシュトン 3月子供8頁
義にかなった選択　フォノ・ラバタイ 7月104頁
キリストに近づく　アレハンドラ・ヘルナンデス 7月105頁
小さなお友だちへ――ロバート・D・ヘイルズ長老 9月子供6頁
分かち合いの時間――今日わたしは，だいじなせんたくをします
カレン・アシュトン 11月子供8頁

ーそー

創造
贖い　ラッセル・M・ネルソン 1月39頁
牧場鳥　R・バル・ジョンソン 6月42頁
俗世的な事柄（「罪」の項も参照）
騒音の中で　ジェンス・ジェンセン，ポール・コナーズ 3月26頁
備え
備えはできているだろうか　マウロ・プロペルツィー 8月32頁

ーたー

大管長会メッセージ
「僕ジョセフを器として，神は何とすばらしいものを造り出されたことか！」
ゴードン・B・ヒンクレー 2月2頁
証を述べることの大切さ　ジェームズ・E・ファウスト 3月2頁
死に対する勝利　ゴードン・B・ヒンクレー 4月2頁
わたしたちの信仰　トーマス・S・モンソン 5月2頁
「霊は人を生かす」　トーマス・S・モンソン 6月2頁
霊的な思い　ゴードン・B・ヒンクレー 8月2頁
涙，試練，信頼，証　トーマス・S・モンソン 9月2頁
「主はわたしの魂をいきかえらせ」
ジェームズ・E・ファウスト 10月2頁
行って，彼らを平原から連れて来なさい
ジェームズ・E・ファウスト 11月2頁
感謝の季節　ゴードン・B・ヒンクレー 12月2頁
態度
ハロルドのリスト――ディアン・L・マンガム作 3月子供4頁
イエス・キリストの証人　ダーリン・リスゴー 12月16頁
試し（「逆境」の項参照）
たんけん
クモラの宝を探し求めて　シェリー・ジョンソン 2月子供10頁
聖徒たちの集合　シェリー・ジョンソン 3月子供14頁
主の宮　シェリー・ジョンソン 5月子供14頁
ミズーリでの迫害　シェリー・ジョンソン 6月子供10頁
偉大な町の建設　シェリー・ジョンソン 8月子供2頁
ノーブーに建てた神殿　シェリー・ジョンソン 9月子供2頁
アイオワ横断　シェリー・ジョンソン 10月子供13頁
大平原の横断　シェリー・ジョンソン 11月子供2頁
デゼレト　シェリー・ジョンソン 12月子供10頁
断食
神の証人　ヘンリー・B・アイリング 1月35頁
「あなたも行って同じようにしなさい」
H・デビッド・バートン 7月88頁

ーちー

地域幹部七十人
忠実かつ誠実に　ゴードン・B・ヒンクレー 7月4頁
ちいさなみんなのために
せいぎをえらびましょう　コーリス・クレイトン 3月子供10頁
気もち　パット・グラハム 4月子供16頁
クリスマスの星　レベッカ・トッド 12月子供6頁
小さなお友だちへ
アウグスト・A・リム長老 2月子供4頁
ジェフリー・R・ホランド長老 5月子供2頁
ロバート・D・ヘイルズ長老 9月子供6頁
トーマス・S・モンソン長老 11月子供6頁
チェコ共和国
50年間守り続けた信仰　ホンザ・トムサ 6月46頁

チェコの聖徒たちが迎えた輝ける日　カーリル・メール　9月10頁
イジー・スネデルフレル，オルガ・スネデルフレル夫妻——
チェコの開拓者夫婦の足跡　マービン・K・ガードナー　9月16頁
友だちになろう——チェコ共和国，プラハに住むルカーシュ・クロウチル
コーリス・クレイトン　9月子供14頁
知恵の言葉
「走っても疲れることがなく」　L・トム・ペリー　1月42頁
「それは，片すみで行われたのではない」
ゴードン・B・ヒンクレー　1月57頁
息子が耳を傾けるとき　3月30頁
象の突進　テリー・リード　8月46頁
知識（「真理」の項も参照）
父親の務め（「親の務め」の項参照）

—つ—

罪（「悔い改め」の項も参照）
モルモンメッセージ——一度だけのつもりでも……　3月33頁

—て—

テレビ（「メディア」の項参照）
伝道活動
ベテスダの池のキリスト　トーマス・S・モンソン　1月17頁
神の証人　ヘンリー・B・アイリング　1月35頁
正直——道徳の羅針盤　ジェームズ・E・ファウスト　1月48頁
「それは，片すみで行われたのではない」
ゴードン・B・ヒンクレー　1月57頁
「心を込めていちばん大切なものを送ります」
リチャード・C・エッジリー　1月70頁
福音は秘密にしておくものではありません——良きおとずれを分かち合いましょう　マリサ・ホイタカー・ハンフリー　2月44頁
「喜ばしい出会い」　フアン・アルド・レオーネ　2月48頁
大管長会メッセージ——証を述べることの大切さ
ジェームズ・E・ファウスト　3月2頁
勇気を奮い，信仰を語る
ニーナ・バサルスカイア，バレリー・パーカー　3月44頁
『モルモン書』を分かち合う　ビクトル・カマルゴ　4月31頁
大管長会メッセージ——わたしたちの信仰
トーマス・S・モンソン　5月2頁
伝道中の帰郷　スリー・デビ・コムー　5月8頁
神はこたえてくださる　テリー・リン・ビットナー　5月14頁
すべて理解できました
ナタリア・ウラディミロブナ・レオノバ　6月26頁
50年間守り続けた信仰　ホンザ・トムサ　6月46頁
彼らはやって来る　トーマス・S・モンソン　7月53頁
信仰に忠実に　ゴードン・B・ヒンクレー　7月74頁
「あなたが立ち直ったときには，兄弟たちを力づけてやりなさい」
ロバート・D・ヘイルズ　7月93頁
象の突進　テリー・リード　8月46頁
全世界に開かれた伝道部
マリアン・マーティンデイル，ジェニファー・ガント・アブシャー　9月44頁
夫婦宣教師——「教会のかけがえのない働き手」
デビッド・B・ヘイト　10月26頁
天父
子供たちの霊を養う　パトリシア・P・ピネガー　7月14頁
「わたしの名によって常に父に祈らなければならない」
L・エドワード・ブラウン　7月91頁
テンプルスクエア
テンプルスクウェア　9月34頁
全世界に開かれた伝道部
マリアン・マーティンデイル，ジェニファー・ガント・アブシャー　9月44頁

—と—

道徳（「純潔」「誠実」の項参照）
独身会員
教会の女性　ゴードン・B・ヒンクレー　1月76頁
独身成人との語らい　ゴードン・B・ヒンクレー　11月16頁
友だちになろう
エルサレムに住むダン・ボール　ジャミー・マコンバー　4月子供13頁
インドネシアのヨグヤカルタに住む　クリスチャン・ネフィー・スハルトとエルナワティ・スハルト　マイルズ・T・ツーアサン　6月子供6頁
チェコ共和国，プラハに住むルカーシュ・クロウチル
コーリス・クレイトン　9月子供14頁

—に—

忍耐（「従順」の項も参照）
家庭訪問メッセージ——キリストがおられることを知る　5月25頁
堪え忍び，高く上げられる　ラッセル・M・ネルソン　7月81頁
時間をかけて歩き続ける　バージニア・H・ピアス　7月100頁
ピーナツ競争　ロザリー・A・サイパート　10月子供10頁

—の—

望み
わたしたちの「心の望みに応じて」
ニール・A・マックスウェル　1月22頁
信仰こめて，一歩ずつ　M・ラッセル・バラード　1月25頁
ノルウェー
重荷を分け合う　ジャネット・トーマス　5月10頁

—は—

働き
時間をかけて歩き続ける　バージニア・H・ピアス　7月100頁
小さなお友だちへ——ロバート・D・ヘイルズ長老　9月子供6頁
母親の務め（「親の務め」の項参照）
バプテスマ（「聖約」の項も参照）
神の証人　ヘンリー・B・アイリング　1月35頁
贖い　ラッセル・M・ネルソン　1月39頁
「いつも御子の御霊を受ける」　ダリン・H・オークス　1月66頁
信仰にも行いにもクリスチャンである
ジョセフ・B・ワースリン　1月80頁
「栄光にあずかる者」　イレイン・L・ジャック　1月87頁
分かち合いの時間——バプテスマ，さいしょのせいやく
カレン・アシュトン　5月子供4頁
小さな一歩でも，大きな一歩　5月子供8頁
新しい日の始まり　レイ・ゴールドラップ作　5月子供10頁

—ひ—

美徳（「純潔」の項参照）
批判
あら探しという霊的な危険　マーク・D・チェンバレン　5月16頁
評議会
扶助協会の大いなる鍵の言葉　ジェームズ・E・ファウスト　1月109頁
群れに戻る　8月26頁
ヒンクレー，ゴードン・B（関連記事）
わたしのおじいちゃんは預言者　ジャネット・トーマス　10月8頁

—ふ—

フィクション
ナタリーの約束　ジャミー・マコンバー作　2月子供6頁
ハロルドのリスト——ディアン・L・マンガム作　3月子供4頁
秘密の1週間——ジェニファー・ジェンセン作　4月子供4頁
新しい日の始まり　レイ・ゴールドラップ作　5月子供10頁
レース　ドナ・ガマッシュ作　6月子供14頁
自転車が教えてくれたこと　アルマ・J・イエーツ作　8月子供10頁
きのこ拾い　オルガ・ブルガコバ-ペトレンコ作　9月子供10頁
フェローシッピング（「再活発化」の項も参照）
もう一度，快く迎えてくれるかしら
アウレリア・S・ディエソン　5月21頁
彼らはやって来る　トーマス・S・モンソン　7月53頁
改宗者と若い男性について　ゴードン・B・ヒンクレー　7月56頁
「あなたが立ち直ったときには，兄弟たちを力づけてやりなさい」
ロバート・D・ヘイルズ　7月93頁
新しいワードになじむ　ジョアン・ドクシー　11月26頁
福祉プログラム
「あなたも行って同じようにしなさい」
H・デビッド・バートン　7月88頁
扶助協会
「それは，片すみで行われたのではない」
ゴードン・B・ヒンクレー　1月57頁
「栄光にあずかる者」　イレイン・L・ジャック　1月87頁
信仰に堅くつく　アイリーン・H・クライド　1月100頁
慈愛によって強められる　イレイン・L・ジャック　1月105頁
扶助協会の大いなる鍵の言葉　ジェームズ・E・ファウスト　1月109頁
「小さな石」　イレイン・L・ジャック　7月85頁
神権定員会と扶助協会における教科課程の大きな変更
ドン・L・シール　12月26頁

復活（「イースター」「イエス・キリスト」の項参照）
ブラジル
ブラジルのあいさつ「トゥド・ベン」
ドン・L・シール，デビッド・ミッチェル　11月34頁
振る舞い
洗われて清くなる　ボイド・K・パッカー　7月9頁

—へ—

ヘイルズ，ロバート・D（関連記事）
小さなお友だちへ——ロバート・D・ヘイルズ長老　9月子供6頁
平和（「聖霊」の項も参照）
「女よ，なぜ泣いているのか」　ジェームズ・E・ファウスト　1月62頁
「王国にかかわる平和をもたらす事柄」
ジェフリー・R・ホランド　1月94頁
主の平安　デニス・E・シモンズ　7月36頁
大管長会メッセージ——「主はわたしの魂をいきかえらせ」
ジェームズ・E・ファウスト　10月2頁

—ほ—

奉献
「神の栄光にひたすら目を向けて」　ベス・デーリー　8月48頁
奉仕
小さなお友だちへ——アウグスト・A・リム長老　2月子供4頁
ナタリーの約束　ジャミー・マコンバー作　2月子供6頁
秘密の1週間——ジェニファー・ジェンセン作　4月子供4頁
聖なる召し　モンティ・J・ブラフ　7月31頁
「あなたも行って同じようにしなさい」
H・デビッド・バートン　7月88頁
人は皆開拓者です　トーマス・S・モンソン　7月109頁
盲人から学んだこと　ローヘリン・セリス　10月38頁
大管長会メッセージ——行って，彼らを平原から連れて来なさい
ジェームズ・E・ファウスト　11月2頁
ケビンの誕生日のおくり物　ティモシー・S・ワイト　11月子供10頁
小さなお友だちへ——トーマス・S・モンソン長老　11月子供6頁
クリスマスの新しい伝統　ダグラス・プレゼンサ　12月8頁
思い出のクリスマスツリー　ブロイ・リチャーズ　12月子供14頁
冒瀆
質疑応答　どうしたら，心の中から悪い言葉を一掃できるでしょうか
2月25頁
訪問教師
どうかルースをお助けください　ルース・ハリス・スワナー　5月26頁
クリスマスコート　シェリル・ボイル　12月19頁
ホームティーチング
「模範となりなさい」　トーマス・S・モンソン　1月52頁
教会の女性　ゴードン・B・ヒンクレー　1月76頁
神権の力　ジェームズ・E・ファウスト　7月48頁
クリスマスコート　シェリル・ボイル　12月19頁
ホランド，ジェフリー・R（関連記事）
小さなお友だちへ——ジェフリー・R・ホランド長老　5月子供2頁
ボローマン，ジョン（関連記事）
半ペニーと真珠　ジェリー・ボローマン　5月28頁
香港
夢がかなった，香港の聖徒たち
ケリーン・リックス・アダムス　3月34頁

—み—

御霊の賜物（「癒やし」「聖霊」「預言」の項も参照）
家庭訪問メッセージ——最善の賜物を求める　2月24頁
家庭訪問メッセージ——信仰と忍耐　3月25頁
家庭訪問メッセージ——真理を識別する　4月25頁
家庭訪問メッセージ——キリストがおられることを知る　5月25頁
家庭訪問メッセージ——従順を通して得られる知恵　6月25頁
家庭訪問メッセージ——「あなたの信仰があなたを救ったのです」
8月25頁
家庭訪問メッセージ——預言の賜物　9月25頁
家庭訪問メッセージ——御霊の力によるコミュニケーション　10月25頁
家庭訪問メッセージ——「知識の言葉」　11月25頁
家庭訪問メッセージ——「それらが何のために与えられているのかを
常に覚えておきなさい」　12月25頁
南アメリカ
アンデスの開拓者　アレン・リスター　5月40頁

—め—

メキシコ
パレンケで再開された主の業　マービン・K・ガードナー　10月34頁
メディア
「それは，片すみで行われたのではない」
ゴードン・B・ヒンクレー　1月57頁
テレビとの正しいつきあい方　リサ・M・グローバー　5月32頁

—も—

模範
神の証人　ヘンリー・B・アイリング　1月35頁
「模範となりなさい」　トーマス・S・モンソン　1月52頁
現代の開拓者　ジャネット・ヘイルズ・ベッカム　7月106頁
分かち合いの時間——ヒーローとヒロイン
カレン・アシュトン　8月子供8頁
イエス・キリストの証人　ダーリン・リスゴー　12月16頁
『モルモン書』
「幼い子供たちを見なさい」　ウィリアム・ロルフ・カー　1月92頁
『モルモン書』を分かち合う　ビクトル・カマルゴ　4月31頁
「自分の言語で」　カイ・A・アンダーセン　6月28頁
モルモン書物語
イエス，子どもたちをしゅくふくされる　2月子供2頁
イエス・キリスト，せいさんとおいのりについて教えられる　4月子供2頁
イエス，ニーファイ人を教え，ともにいのられる　6月子供2頁
でしたちをしゅくふくされるイエス　8月子供14頁
へいわなアメリカ　10月子供2頁
モルモンタバナクル合唱団
「神よ，また逢うまで」　ディエーン・ウォーカー　4月17頁
モルモンメッセージ
一度だけのつもりでも……　3月33頁
若いうちに知恵を得なさい　9月33頁
天国への入り口　11月15頁
モンゴル
モンゴルの大きな変化　メアリー・ニールセン・クック　2月10頁
モンソン，トーマス・S（関連記事）
小さなお友だちへ——トーマス・S・モンソン長老　11月子供6頁

—や—

ヤング，ブリガム（関連記事）
炎の人，ブリガム・ヤング　ロナルド・K・エスプリン　3月18頁
ヤング，メリー，アン（関連記事）
恐れを知らぬ女性メアリー・アン　レックス・G・ジェンセン　4月20頁

—ゆ—

勇気
みたまはぼくに勇気をあたえてくれました
グベンガ・オーナラジャ　5月子供6頁
信仰こめて，一歩ずつ　ボニー・D・パーキン　7月98頁
大管長会メッセージ——「主はわたしの魂をいきかえらせ」
ジェームズ・E・ファウスト　10月2頁
分かち合いの時間——ジョセフ・スミス，ゆうきあるかみのしもべ
カレン・アシュトン　10月子供4頁
友情
重荷を分け合う　ジャネット・トーマス　5月10頁
友人としてともに立つ　クリスティン・バナー　7月103頁
「あなたはイエス・キリストの友達なの？」
マイケル・グリフィス　11月10頁
誘惑
救い主はあなたを頼りにしています
ジョー・J・クリステンセン　1月45頁
召しにこたえる　ジャック・H・ゴーズリンド　8月10頁
ユダヤ人
聖地の平和
D・ケリー・オグデン，デビッド・B・ガルブレイス　12月20頁
赦し
「王国にかかわる平和をもたらす事柄」
ジェフリー・R・ホランド　1月94頁
傷ついた出来事を忘れ去る　スーザン・ターネー　6月15頁

—よ—

善い行い（「模範」「奉仕」の項参照）
預言（「御霊の賜物」の項も参照）

預言の霊　L・アルディン・ポーター　1月9頁
家庭訪問メッセージ――預言の賜物　9月25頁
預言者（「預言者」「啓示」の項も参照）
預言者に与えられる霊感　デビッド・B・ヘイト　1月15頁
ベテスダの池のキリスト　トーマス・S・モンソン　1月17頁
信仰こめて，一歩ずつ　M・ラッセル・バラード　1月25頁
「それは，片すみで行われたのではない」
ゴードン・B・ヒンクレー　1月57頁
助言の中に安全を見いだす　ヘンリー・B・アイリング　7月28頁
感謝　ジェラルド・L・テーラー　7月38頁
心に留めますか，それとも無視しますか
デール・S・コックス　8月20頁
わたしのおじいちゃんは預言者　10月8頁
喜び（「幸福」の項も参照）

－り－

リーダーシップ
教会の女性　ゴードン・B・ヒンクレー　1月76頁
人は皆開拓者です　トーマス・S・モンソン　7月109頁
リム，アウグスト・A（関連記事）
小さなお友だちへ――アウグスト・A・リム長老　2月子供4頁

－わ－

若い女性
現代の開拓者　ジャネット・ヘイルズ・ベッカム　7月106頁
若い男性
不変の基本原則　デビッド・B・ヘイト　7月43頁
改宗者と若い男性について　ゴードン・B・ヒンクレー　7月56頁
召しにこたえる　ジャック・H・ゴーズリンド　8月10頁
分かち合いの時間
わたしの福音の標準　カレン・アシュトン　2月子供14頁
せんたくとけっか　カレン・アシュトン　3月子供8頁
くいあらため，わるい行いを正しい行いにかえること
カレン・アシュトン　4月子供10頁
バプテスマ，さいしょのせいやく　カレン・アシュトン　5月子供4頁
よく思いはかり，いのることにより，正しいことをえらぶ
カレン・アシュトン　6月子供8頁
ヒーローとヒロイン　カレン・アシュトン　8月子供8頁
イエスはわたしに，何をするようのぞんでいらっしゃるでしょう
カレン・アシュトン　9月子供8頁
ジョセフ・スミス，ゆうきあるかみのしもべ
カレン・アシュトン　10月子供4頁
今日わたしは，だいじなせんたくをします
カレン・アシュトン　11月子供8頁
イエス・キリストのたんじょうをあかしするよげんしゃたち
カレン・アシュトン　12月子供8頁

ローカルページ索引

1月号
中央幹部の異動　116頁
島袋長老，七十人第二定員会から名誉の解任となる　117頁
「末日聖徒慈善事業団」　117頁
福音の教義クラスで使う補助教材の日本語版完成　118頁
完成した教会配送センター　119頁
亡くなった方々を身近に感じて
（シドニー・ロバート・アディア3世）　119頁
「強い光がさし込み，優しい声が聞こえました」（京子・アディア）　120頁
自分と家族を守るために――災害への備え
石川地方部広報委員会主催の展示会と講演会　121頁
10人家族の関谷家，TV番組「森公美子・涙の挑戦！
大家族のお母さん入門」に出演（関谷順正）　122頁
イエス・キリストの光を輝かすために（関谷恵美子）　123頁
神殿エンジニアとして，奉仕者として（徳田和義）　124頁
2年6か月の奉仕を終えて（徳田満子）　124頁
ユタ系図協会のお手伝いをきっかけに改宗（三浦善一）　125頁
70歳を超えての夫の改宗（三浦操子）　126頁
1997年度「クモラの丘霊園」分譲のお知らせ　127頁
新刊ビデオ：教会ビデオ基礎編，
『教義と聖約』教会歴史ビデオ・プレゼンテーション　127頁
価格改定と絶版のお知らせ　127頁
JMTC――11月に召された専任宣教師　第206期生　13人　128頁
海外に召された日本人宣教師　2人　128頁
役員の異動（1996年10月14日～11月11日）　128頁
ユニットの合併　128頁

2月号
ヒンクレー大管長，精力的に多忙な日程をこなす　1頁
海の島々が奉献され，キリバスに最初のステークが組織される　4頁
ハンガリーを訪れたホランド長老　4頁
アジア北地域会長会へのインタビュー：
日本，韓国，ロシア極東部での教会の発展　5頁
「信仰こめて，一歩ずつ」1997年，全世界150年記念祭　7頁
新しいロゴ――教会の正式名を改めて強調　8頁
再組織された名古屋ステーク会長会
「まず神の国と神の義を求めなさい」（塚原俊英）　9頁
独身会員のための「神殿交流会」のご案内　11頁
特集――神殿交流会での出会いから
今まで見えていなかった相手のよさを知って（片岡利晴）　11頁
神殿交流会でのデートから（片岡千穂乃）　11頁
指導者の導きに従って（山田百合香）　12頁
電話と手紙のやり取りを通して（白井利典）　12頁
釧路地方部の若い男性・女性の交流会
「デゼレト・カンファレンス」　13頁
キリストを象徴する教会堂に（長沼雅仁）　14頁
神戸ステーク北六甲支部建築概要　15頁
価格改定のお知らせ　15頁
新刊のお知らせ：ビデオ『わたしたちの信仰』，『子供の歌集』　15頁
JMTC――12月に召された専任宣教師　第207期生　10人　16頁
海外に召された日本人宣教師　1人　16頁
役員の異動（1996年11月12日～12月16日）　16頁

3月号
ワースリン長老，かつての「閉ざされた町」を訪問
――ロシア，ウラジオストック発　1頁
世界の人々を教える
――最大規模のソルトレーク・テンプルスクウェア伝道部　2頁
ロシアにおける伝道活動
――福祉宣教師としての大きな喜び（キム・キ・ヨン）　3頁
感動を与えた「日本語による『メサイア』コンサート」
（我孫子ステーク）　5頁
「メサイア」コンサートの感激（大森佳子）　6頁
米国での音楽留学の経験から（浅井桃代）　7頁
神様の愛を知って（浅井紀子）　8頁
チューリッヒではぐくんだ信仰（野田絵里奈）　10頁
神殿参入から得た力（長綱数江）　11頁
主の証をするに恥ずることなく（加藤喜久江）　13頁
酪農と信仰生活（中島由美子）　13頁
「開拓者150年記念，若い男性キャンポリー」開催のお知らせ　15頁
価格改定のお知らせ　15頁
JMTC――1月に召された専任宣教師　第208期生　11人　16頁
海外に召された日本人宣教師　1人　16頁
お知らせ　16頁
役員の異動（1996年12月17日～1997年1月13日）　16頁

4月号
スペイン・マドリード神殿の建築予想図　1頁
「新たな時代の幕開け」　改訂された日本語の『モルモン書』　2頁
世界各地の宣教師訓練センター　4頁
福音によって家族と個人が成長するよう助ける　5頁
特集――聖典を通して得た導き
『モルモン書』から学ぶ指導者の特質（藤竹順子）　7頁
ニーファイの模範に励まされ（国司康子）　8頁
あるがままの自分を受け入れられるようになった祝福（三浦妙子）　8頁
「聖典の中には，主のわたしたちへの愛が
あふれています」（根来直子）　9頁
川越ワード・坂戸支部合同演劇公演
「クリスマス・キャロル」を終えて（笹山裕史）　9頁
演劇という「世界の創造」（西堀健司）　10頁
教会外からの多くの友人の協力を得た演奏会（山本澄江）　11頁
子供たちの歌声とともに（福田真史）　13頁
新聞からの話題：開拓者の旅を記念する行事に参加（関口治）　14頁

新刊紹介：『教会書籍・教材総合カタログ1997』，
『ソルトレーク・ディストリビューションセンター・カタログ1997』，
『教師――その大いなる召し』 15頁
JMTC――2月に召された専任宣教師　第209期生　２人 16頁
海外に召された日本人宣教師　8人 16頁
役員の異動（1997年1月14日～2月14日） 16頁

5月号

ヒンクレー大管長，南米，フロリダ州，ワシントンD.C.を訪問 1頁
ヒンクレー大管長，旅行で多忙な一年を終える 5頁
ネルソン長老，宗教の自由委員会に指名される 6頁
南米の会員，200万人に達する 6頁
ルーマニアのセミナリーとインスティテュート 6頁
南アメリカ北地域会長会へのインタビュー：
ボリビア，コロンビア，エクアドル，ペルー，ベネズエラの教会 7頁
再組織された大阪北ステーク会長会
福音と家族を大切にするシオンのステークを（岩木正篤） 9頁
関東地区独身会員特別ファイヤサイドに760人が集う 10頁
堺ステーク146人の神殿団体参入（杉本美智子） 12頁
日の栄えの部屋での感激（森本菊江） 13頁
日々の恵み：老いた母とともに（菅原和子） 14頁
新刊紹介：『教義と聖約』インスティテュート生徒用資料，
『高い所から力を授けられ――神殿準備セミナー』教師用手引き 15頁
『教会書籍ダイレクト注文書』のコレクトサービス手数料の値上げ 15頁
絶版のお知らせ 15頁
JMTC―3月に召された専任宣教師　第210期生　5人 16頁
海外に召された日本人宣教師　8人 16頁
役員の異動（1997年2月15日～3月14日） 16頁

6月号

ヒンクレー大管長，フロリダ，中央アメリカの会員を訪問 1頁
好意的なマスコミ報道 5頁
教会の方針と発表――開拓者記念全世界奉仕日について 6頁
ローウェル・D・ウッド長老の葬儀，
しめやかに行われる――ソルトレーク・シティー発 6頁
ソレンセン会長，松本市長と歓談 7頁
松本市長を訪問して（関口治） 7頁
町田，横浜ステーク合同ユースカンファレンスからのレポート
感動的なユースカンファレンス（小峰典之） 8頁
それぞれのステークの持ち味を生かしながら（三浦千絵） 9頁
町田・横浜ステーク合同ユースカンファレンスに
参加して（長谷川修平） 10頁
ワードの広報委員に召され（馬場憲仁） 11頁
これまでの人生で最大の喜び（川村明） 13頁
神殿宣教師に召されて（川村栄子） 14頁
神殿宣教師の紹介 15頁
新刊のお知らせ：モルモンタバナクル賛美歌II
――ＣＤ，カセットテープ（英語） 15頁
JMTC――4月に召された専任宣教師　第211期生　20人 16頁
海外に召された日本人宣教師　2人 16頁
役員の異動（1997年3月15日～4月14日） 16頁

7月号

新たに指導者が召され，3つの新しい七十人定員会が組織される 116頁
集会のための新しい建物と二つの神殿についての発表もなされる 125頁
年次総大会で発表された新しい召し
――日本から3人の名前が読み上げられる 126頁
新伝道部長紹介 126頁
教会のインターネット・ホームページ開設 127頁
再組織された石川地方部長会
信仰こめて，一歩ずつ（徳沢清児） 128頁
再組織された新潟地方部長会
思いを一つとなすとき，大いなる力が（佐藤雄司） 130頁
地にまかれた一粒の種が……
――四国伝道30周年を記念して（秋山真智子） 130頁
家族としての改宗への道筋（中手章） 133頁
英会話サークルをきっかけに改宗，家族の結び固めへ（中手淳子） 134頁
「子連れ英会話」サークルが伝道のきっかけに（沖出秀子） 135頁
JMTC――5月に召された専任宣教師　第212期生　20人 136頁
海外に召された日本人宣教師　2人 136頁
役員の異動（1997年3月15日～4月14日） 136頁
新刊のお知らせ：『家庭の夕べ』ビデオ補助教材（国際版） 136頁

8月号

新たに組織された熊本ステーク
シオンの隅石となるように（角屋光典） 1頁
新たに組織された長崎地方部
伝道する地方部を目指して（才木剛） 2頁
400回の講演を重ねて（野尻千穂子） 4頁
「世の光」の影響力――田中清姉妹の講演会を通して（金城寛） 6頁
開拓者の旅150周年にちなんで43キロを踏破（西田孝雄） 8頁
「すべてのわざには時がある」（小野耕史） 9頁
新しい局面を迎える家族歴史の業（森村久男） 10頁
探求する家族に愛情をそそいで（根本燿子） 14頁
専任宣教師――JMTC第213期生15人　海外2人 16頁
ブックセンターだより：『初等協会5，視覚資料』 16頁
役員の異動（1997年5月15日～6月7日） 16頁

9月号

教会の指導者，香港の首脳陣と会う 1頁
「選ぼう，選ぼう，正義の道を」（佐々正登） 7頁
御霊の声に耳を傾け（松本紀子） 8頁
48年後の結び固め（中山よし子） 9頁
人生の目的を探して（中山俊夫） 9頁
主から与えられた出会い（川端敬子） 10頁
ブックセンターだより
新刊のお知らせ――ビデオ『家路』
セントルイス神殿の奉献 2頁
教会の代表者，世界家族会議に出席 2頁
国際機関誌の推移 3頁
再組織された秋田地方部長会
心を常に主に向かわせて（小林久） 4頁
神殿訪問1,000キロの旅（平松彰） 5頁
配送センターだより 6
11頁
専任宣教師――JMTC214期生22人　海外2人 12頁
役員の異動（1997年5月15日～6月7日） 12頁
新設ユニット 12頁

10月号

ニュージーランドとオーストラリアを訪問したヒンクレー大管長 1頁
モンソン副管長，フランスを訪れる 4頁
アロン神権ファイヤサイドの衛星中継 4頁
中央若い男性副会長の異動 4頁
再組織された郡山地方部長会
主の愛を受けて御心のまま歩む（神尾茂） 5頁
献堂された我孫子ワード教会堂（三輪秀世） 6頁
我孫子ステーク我孫子ワード建築概要 7頁
献堂された篠路支部教会堂（菊地敏） 7頁
札幌西ステーク篠路支部建築概要 8頁
特集――開拓者記念
全世界の教会員が300万時間をささげる 9頁
歓喜の涙で終わった旅路 10頁
モルモン街道1,700キロを行く～関口家族の100日間～（関口治） 11頁
わたしたちの開拓者を訪ねて～家族歴史キャンペーン～
（津村又三郎） 14頁
専任宣教師――JMTC215期生11人　海外１人 16頁
『聖徒の道』購読キャンペーン実施中 16頁
役員の異動（1997年7月12日～9月3日） 16頁

11月号

アフリカにおける教会 1頁
モルモンタバナクル合唱団のヨーロッパ演奏旅行
――ソルトレーク・シティー発 3頁
ボストン神殿の鍬入れ式 4頁
ブラジルで新たに奉献された宣教師訓練センター 4頁
新伝道部長セミナー――ユタ州プロボ発 5頁
マザー・テレサへ贈られた大管長会からの賛辞 5頁
新たに組織された地域会長会 6頁
ウラジオストックの会員と宣教師たちが公共の場所を清掃 8頁
再組織された神戸ステーク会長会
神戸の人々の心に主の慰めと平安を（長濱修） 9頁
広大な宇宙に思いをはせて――J・ワード・ムーディ博士の講演会 10頁
星の夜，歌声は響く
――札幌ステーク少年少女聖歌隊GENESIS結成（武田修） 11頁

「開拓者150周年記念，若い男性キャンボリー」開催される 12頁
小羊は生きておられる（梶原淳司） 14頁
主に頼り，すべてを主にゆだね（渋谷彰） 15頁
専任宣教師――JMTC216期生15人 海外4人 16頁
役員の異動（1997年9月3日～10月3日） 16頁

12月号

集会施設の鍬入れ式 1頁
クリントン米大統領，「開拓者の旅」に賛辞を寄せる 2頁
ロシアからの手車，大管長に寄贈される 2頁
北朝鮮，朝鮮人民共和国の支援 2頁
東京神殿の新神殿長召される 3頁
太平洋地域で組織された100番目のステーク 3頁
アイスランド大統領，教会員を前にして語る 3頁
遠隔地での小規模神殿建設計画，発表される 4頁
特集――神殿からもたらされる祝福
ともに喜ぶ（上野道男） 5頁
神殿は主の宮です（上野きみ） 5頁
神様は最強，最善の使者を送ってくださった（中村雅延） 6頁
すべてをささげる喜び（中村妙子） 8頁
主の御霊に貫かれ（吉岡公夫） 8頁
先祖と喜びを共にして（吉岡美津子） 8頁
神殿は先祖との霊的な交流の場（引寺辰人） 9頁
奉仕によって自分の賜物を知る（引寺隆子） 9頁
先祖への大きなプレゼント
――横浜ステークの会員たち，3か月で2,248枚の記録を提出 10頁
専任宣教師――JMTC第217期生14人 海外2人 12頁
ブックセンターだより：『キリスト・イエス』『フレーム入り絵画』 12頁
役員の異動（1997年10月4日～11月3日） 12頁
新設ユニット 12頁

『聖徒の道』1997年度著者別索引

―あ行―

アイリング，ヘンリー・B
神の証人 1月35頁
助言の中に安全を見いだす 7月28頁
アシュトン，カレン
分かち合いの時間――わたしの福音の標準 2月子供14頁
分かち合いの時間――せんたくとけっか 3月子供8頁
分かち合いの時間――くいあらため，わるい行いを正しい行いにかえること 4月子供10頁
分かち合いの時間――バプテスマ，さいしょのせいやく 5月子供4頁
分かち合いの時間――よく思いはかり，いのることにより，正しいことをえらぶ 6月子供8頁
分かち合いの時間――ヒーローとヒロイン 8月子供8頁
分かち合いの時間――イエスはわたしに，何をするようのぞんでいらっしゃるでしょう 9月子供8頁
分かち合いの時間――ジョセフ・スミス，ゆうきあるかみのしもべ 10月子供4頁
分かち合いの時間――今日わたしは，だいじなせんたくをします 11月子供8頁
分かち合いの時間――イエス・キリストのたんじょうをあかしするよげんしゃたち 12月子供8頁
アダムス，ケリーン・リックス
夢がかなった，香港の聖徒たち 3月34頁
アブシャー，ジェニファー・ガント
全世界に開かれた伝道部 9月44頁
家路 4月32頁
アンダーセン，カイ・A
「自分の言語で」 6月28頁
アンダーセン，バート・L
思いがけないバプテスマ 10月6頁
イエーツ，アルマ・J
自転車が教えてくれたこと 8月子供10頁
ウィッティア，ラレイン
ジェシカと『モルモン書』とロー兄弟 8月子供4頁
ウィルコックス，S・マイケル
神が定められたパートナー 9月8頁
ウォーカー，ディエーン
「神よ，また逢うまで」 4月17頁
アイスランド――今も終わらない英雄伝 6月34頁
夢が現実になりました 6月40頁
ウォズワース，ネルソン
ある田舎町の写真家の夢 6月16頁
エイシー，カーロス・E
「麗しき朝よ」――ジョセフ・スミスの最初の祈りと最初の示現 4月10頁
エスプリン，ロナルド・K
炎の人，ブリガム・ヤング 3月18頁
エッジリー，リチャード・C
「心を込めていちばん大切なものを送ります」 1月70頁
オーナラジャ，グベンガ
みたまはぼくに勇気をあたえてくれました 5月子供6頁
オークス，ダリン・H
「いつも御子の御霊を受ける」 1月66頁
「監督，助けて！」 7月25頁
光と命 12月40頁
岡崎，チエコ・N
希望を得て奮い立つ 1月103頁
オグデン，D・ケリー
聖地の平和 12月20頁

―か行―

カー，ウィリアム・ロルフ
「幼い子供たちを見なさい」 1月92頁
ガードナー，マービン・K
パレンケで再開された主の業 10月34頁
イジー・スネデルフレル，オルガ・スネデルフレル夫妻――チェコの開拓者夫婦の足跡 9月16頁
歌 こはわがあいし 12月子供4頁
ガードナー，ルース・ミューア
歌 開拓者になろう 3月子供12頁
ガマッシュ，ドナ
レース 6月子供14頁
カマルゴ，ビクトル
『モルモン書』を分かち合う 4月31頁
カムレテ，クテカ
ザイールから主の宮へ 8月8頁
ガルブレイス，デビッド・B
聖地の平和 12月20頁
グードムンズドッティア，スベインボルグ
深い悲しみのさなかにも 12月44頁
クック，クエンティン・L
喜びなさい 1月32頁
クック，メアリー・ニールセン
モンゴルの大きな変化 2月10頁
クラーク，アンドリュー
カーボベルデに届いた福音の風 4月34頁
クライド，アイリーン・H
信仰に堅くつく 1月100頁
グラハム，パット
ちいさなみんなのために――気もち 4月子供16頁
クリステンセン，ジョー・J
救い主はあなたを頼りにしています 1月45頁
グリフィス，マイケル
「あなたはイエス・キリストの友達なの？」 11月10頁
クレイトン，コーリス
ちいさなみんなのために――せいぎをえらびましょう 3月子供10頁
友だちになろう――チェコ共和国，プラハに住むルカーシュ・クロウチル 9月子供14頁
グローバー，リサ・M
テレビとの正しいつきあい方 5月32頁
グロバーグ，ビキ・A
信仰の翼にのって 3月28頁
ゲートナー，エリザベート・サムウェーズ
ぼくのイルカ 10月46頁
ケリー，ペトレア
布につづる時の流れ 8月34頁
ゴーズリンド，ジャック・H
召しにこたえる 8月10頁
「わたしは神の力によって何事でもすることができる」 7月46頁
ゴールドラップ，レイ
新しい日の始まり 5月子供10頁

コックス，デール・S
心に留めますか，それとも無視しますか　8月20頁
コナーズ，ポール
騒音の中で　3月26頁
コムー，スリー・デビ
伝道中の帰郷　5月8頁

―さ行―

サイパート，ロザリー・A
ピーナツ競争　10月子供10頁
サレルノ，バレリア
祝福師の祝福を受けた日　10月20頁
シール，ドン・L
ブラジルのあいさつ「トゥド・ベン」　11月34頁
神権定員会と扶助協会における教科課程の大きな変更　12月26頁
ジェンセン，ジェニファー
秘密の1週間　4月子供4頁
ジェンセン，ジェンス
騒音の中で　3月26頁
ジェンセン，レックス・G
恐れを知らぬ女性メアリー・アン　4月20頁
シモンズ，デニス・E
主の平安　7月36頁
シャグ，マリータ
復活祭の物語　4月子供8頁
ジャック，イレイン・L
「栄光にあずかる者」　1月87頁
慈愛によって強められる　1月105頁
「小さな石」　7月85頁
ジョンソン，R・バル
信仰の遺産　2月32頁
牧場鳥　6月42頁
ジョンソン，シェリー
たんけん――クモラの宝を探し求めて　2月子供10頁
たんけん――聖徒たちの集合　3月子供14頁
たんけん――主の宮　5月子供14頁
たんけん――ミズーリでの迫害　6月子供10頁
たんけん――偉大な町の建設　8月子供2頁
たんけん――ノーブーに建てた神殿　9月子供2頁
たんけん――アイオワ横断　10月子供13頁
たんけん――大平原の横断　11月子供2頁
たんけん――デゼレト　12月子供10頁
スコット，リチャード・G
偉大な幸福の計画を実践する　1月84頁
贖い主イエス・キリスト　7月65頁
真剣に考えるべき事柄　9月28頁
スペルティ，エディマール・ボテロ
試練には必ず目的があります　2月30頁
スワナー，ルース・ハリス
どうかルースをお助けください　5月26頁
セリス，ローヘリン
盲人から学んだこと　10月38頁
ソレンセン，デビッド・E
ハネムーン・トレイル　10月16頁

―た行―

ターネー，スーザン
傷ついた出来事を忘れ去る　6月15頁
チェンバレン，マーク・D
あら探しという霊的な危険　5月16頁
チャイルド，シェルドン・F
証書と同じ効力　7月34頁
ツーアサン，マイルズ・T
友だちになろう――インドネシアのヨグヤカルタに住むクリスチャン・ネフィー・スハルトとエルナワティ・スハルト　6月子供6頁
ディエソン，アウレリア・S
もう一度，快く迎えてくれるかしら　5月21頁
デイリー，ニューエル・K
歌　信じ，進まん　2月22頁
テーラー，ジェラルド・L
感謝　7月38頁
デーリー，ベス
「神の栄光にひたすら目を向けて」　8月48頁
トーマス，ジャネット
重荷を分け合う　5月10頁
わたしのおじいちゃんは預言者　10月8頁
ドクシー，ジョアン
新しいワードになじむ　11月26頁
トッド，レベッカ
開拓者の旅ゲーム　10月子供8頁
開拓者の旅ゲームの遊び方　10月子供16頁
ちいさなみんなのために――クリスマスの星　12月子供6頁
トムサ，ホンザ
50年間守り続けた信仰　6月46頁
トルプ，キャサリン・ラモニーノ
わたしは開拓者　12月46頁

―な行―

ネルソン，ラッセル・M
贖い　1月39頁
堪え忍び，高く上げられる　7月81頁

―は行―

パーカー，バレリー
勇気を奮い，信仰を語る　3月44頁
パーキン，ボニー・D
信仰こめて，一歩ずつ　7月98頁
バーソロミュー，ロイス
日曜日はクリスマス　12月24頁
ハーデル，ジュリア
神殿への旅　2月8頁
ハートリー，ウィリアム・G
ノーブーのティーンエージャー，ヘンリー・サンダーソン　8月16頁
バートン，H・デビッド
「あなたも行って同じようにしなさい」　7月88頁
バサルスカイア，ニーナ
勇気を奮い，信仰を語る　3月44頁
パッカー，ボイド・K
十二使徒　1月5頁
個人の啓示――賜物，試し，約束　6月8頁
洗われて清くなる　7月9頁
バックマン，ロバート・L
信仰こめて，一歩ずつ　2月14頁
バナー，クリスティン
友人としてともに立つ　7月103頁
バラード，M・ラッセル
信仰こめて，一歩ずつ　1月25頁
人の声ではなく　3月46頁
旅について何も恐れる必要はない　7月68頁
ハンセーカー，テレサ
プレッシャーからの開放　11月33頁
ハンフリー，マリサ・ホイタカー
福音は秘密にしておくものではありません――良きおとずれを分かち合いましょう　2月44頁
ハンフリーズ，マージョリー
アイトゥタキの10代の少年少女　2月46頁
ピアス，バージニア・H
教室――着実に絶えず成長する力を与える場所　1月11頁
時間をかけて歩き続ける　7月100頁
ピーターソン，ジャネット
おもちゃばこ――『新約聖書』の人びと　5月子供13頁
ビーナス，フランシスコ・J
主の御声に耳を傾ける　1月90頁
ビットナー，テリー・リン
神はこたえてくださる　5月14頁
ピネガー，パトリシア・P
新任教師のための助け　2月28頁
何度もいのりなさい　3月子供2頁
子供たちの霊を養う　7月14頁
ピネガー，レックス・D
従順によりもたらされる平安　4月子供7頁
ピメンテル，アイザック

ぼくのイルカ 10月46頁
ヒンクレー，ゴードン・B
御霊の力によって聞く 1月4頁
「それは，片すみで行われたのではない」 1月57頁
教会の女性 1月76頁
援助の手を差し伸べる 1月97頁
大管長会メッセージ――「僕ジョセフを器として，神は何とすばらしいものを造り出されたことか！」 2月2頁
大管長会メッセージ――死に対する勝利 4月2頁
忠実かつ誠実に 7月4頁
改宗者と若い男性について 7月56頁
信仰に忠実に 7月74頁
世界に宣言する証 7月97頁
大管長会メッセージ――霊的な思い 8月2頁
独身成人との語らい 11月16頁
大管長会メッセージ――感謝の季節 12月2頁
生ける預言者の言葉 3月16頁，6月32頁，9月26頁，10月14頁
ファウスト，ジェームズ・E
正直――道徳の羅針盤 1月48頁
「女よ，なぜ泣いているのか」 1月62頁
扶助協会の大いなる鍵の言葉 1月109頁
大管長会メッセージ――証を述べることの大切さ 3月2頁
永遠，わたしたちの行く末 7月21頁
神権の力 7月48頁
大管長会メッセージ――「主はわたしの魂をいきかえらせ」 10月2頁
大管長会メッセージ――行って，彼らを平原から連れて来なさい 11月2頁
ファンク，アラン・V
正直に事を行う 11月28頁
ブラウン，L・エドワード
「わたしの名によって常に父に祈らなければならない」 7月91頁
ブラフ，モンティ・J
聖なる召し 7月31頁
ブルガコバ-ペトレンコ，オルガ
きのこ拾い 9月子供10頁
プレゼンサ，ダグラス
クリスマスの新しい伝統 12月8頁
プロペルツィー，マウロ
備えはできているだろうか 8月32頁
ヘイト，デビッド・B
預言者に与えられる霊感 1月15頁
不変の基本原則 7月43頁
夫婦宣教師――「教会のかけがえのない働き手」 10月26頁
ヘイルズ，ロバート・D
永遠の家族 1月72頁
「あなたが立ち直ったときには，兄弟たちを力づけてやりなさい」 7月93頁
ヘーフェン，ブルース・C
聖約による結婚 1月29頁
「灰にかえて冠を与え」――キリストの贖罪 4月38頁
ベッカム，ジャネット・ヘイルズ
現代の開拓者 7月106頁
ベネット，ジャネット・ウェイト
アイトゥタキの10代の少年少女 2月46頁
霊的な傷を癒す 4月8頁
ペリー，L・トム
「走っても疲れることがなく」 1月42頁
善を行うように導く御霊 7月78頁
ヘルナンデス，アレハンドラ
キリストに近づく 7月105頁
ボイル，シェリル
クリスマスコート 12月19頁
ポーター，L・アルディン
預言の霊 1月9頁
ポマート，ピーター
実在する力 6月44頁
ホランド，ジェフリー・R
「彼女は母親だからさ」 7月40頁
「王国にかかわる平和をもたらす事柄」 1月94頁
ホルドマン，ウィリー
天の近くで 3月10頁
ボローマン，ジェリー
半ペニーと真珠 5月28頁
ホワイト，ジョイス・B
カンボジアに根を下ろす福音 10月40頁
ホワイト，リランド・D
カンボジアに根を下ろす福音 10月40頁

ーま行ー

マーティン，M．H．
クリスマスの工作――ピカピカ光るクリスマスの絵 12月子供13頁
マーティンデイル，マリアン
全世界に開かれた伝道部 9月44頁
マコンバー，ジャミー
ナタリーの約束 2月子供6頁
友だちになろう――エルサレムに住むダン・ボール 4月子供13頁
マッキニス，パトリシア・E
神殿結婚を待ち望む 4月28頁
マックスウェル，ニール・A
わたしたちの「心の望みに応じて」 1月22頁
「愛の神，賛めよ」 7月12頁
マンガム，ディアン・L
ハロルドのリスト 3月子供4頁
ミッチェル，デビッド
ブラジルのあいさつ「トゥド・ベン」 11月34頁
メール，カーリル
チェコの聖徒たちが迎えた輝ける日 9月10頁
モンソン，トーマス・S
ベテスダの池のキリスト 1月17頁
「模範となりなさい」 1月52頁
大管長会メッセージ――わたしたちの信仰 5月2頁
大管長会メッセージ――「霊は人を生かす」 6月2頁
彼らはやって来る 7月53頁
道を示してくれた人々 7月61頁
人は皆開拓者です 7月109頁
大管長会メッセージ――涙，試練，信頼，証 9月2頁

ーら行ー

ラバタイ，フォノ
義にかなった選択 7月104頁
ラローズ・ガブリエル
いつもの木曜日 5月38頁
リード，テリー
象の突進 8月46頁
リスゴー，ダーリン
成功する話し方教室 4月26頁
イエス・キリストの証人 12月16頁
リスター，アレン
アンデスの開拓者 5月40頁
リチャーズ，ブロイ
思い出のクリスマスツリー 12月子供14頁
リンゼイ，ローラディーン
自立 10月22頁
ルイス，ポーラ・J
安息日のためのメモリーボックス 2月子供13頁
レオーネ，フアン・アルド
「喜ばしい出会い」 2月48頁
レオノバ，ナタリア・ウラディミロブナ
すべて理解できました 6月26頁
ローラー，ジーン・P
歌　バプテスマを受ける時 9月子供5頁
ロシンカールソドッティル，マリア
夢が現実になりました 6月40頁
ロムニー，リチャード・M
天の近くで 3月10頁
わたしは忘れない 8月40頁

ーわ行ー

ワースリン，ジョセフ・B
信仰にも行いにもクリスチャンである 1月80頁
「真理を守り」 7月17頁
ワイト，ティモシー・S
ケビンの誕生日のおくり物 11月子供10頁
ワトキンス，バーニャ・Y
歌　開拓者になろう 3月子供12頁
歌　こはわがあいし 12月子供4頁